

四 独ソ開戦後の対独伊・対ソ関係

265
昭和16年6月22日

独ソ開戦に関する在本邦オット独国外使の口頭通告要旨

在京獨大使覺書假譯

(六月二十二日「オット」大使ヨリ松岡大臣ニ口頭通告セル要旨ヲ獨大使ヨリ送付アリタルモノ)

獨逸政府ノ訓令ニ基キ獨逸大使ハ六月二十二日午后七時日本國外務大臣ニ對シ口頭ヲ以テ左ノ通述ベタリ

獨逸政府ハ赤軍ガ獨逸國境ニ雲集スル脅威絶エズ増大スルニ際シ已ムナク右脅威ヲ總ユル武力手段ヲ盡シテ反撃スベキ必要ヲ見タリ獨逸政府ノ右決心ニ對シ決定的ナリシ獨逸政府ノ見解ハ獨逸外務大臣ガ六月二十二日早朝在伯林蘇聯大使ニ與ヘタル覺書ニ於テ示サレ居リ右覺書ハ次デ發表セラレベシ右覺書ハ之ヲ要譯スレバ左記ノ通りナリ

「獨逸政府ハ一九三九年「ナシヨナル、ソシアリズム」ト「ボルシエヴィズム」トノ對立ヨリ生ズル重大ナル顧慮ヲ斥ケ蘇聯邦トノ了解ニ到達セントノ企テヲナシタリ一九三九年八月二十三日及ビ九月二十八日ノ條約ニ基キ獨

逸政府ハ其ノ對蘇政策ノ根本的變更ヲ遂ケ爾來蘇聯邦ニ對シ友好的態度ヲ執リ來レリ右獨逸ノ好意アル政策ハ蘇聯邦ヲシテ大ナル外交ノ成功ヲ可能ナラシメタリ

獨逸政府ハ爾來獨「ソ」兩國民ハ其ノ政体ヲ相互ニ尊重シ對手ノ國內事項ニ干渉セズ良好ナル繼續の友隣關係ヲ執リ得ベシト認メタルハ故ナシトセズ然レドモ遺憾乍ラ右獨逸政府ノ見解ハ根本的ニ誤レルコト直ニ明トナレリニ、「コミンテルン」ハ獨蘇條約締結サルルヤ直ニ其ノ對獨破壞工作ヲ再ビ開始シ蘇聯邦ノ公式代表機關ハ補助的地位ヲ執リタリ

大規模ニ「サボターヂユ」「テロ」「戰爭」ハ準備セラレ「スパイ」ハ政治上、軍事上、經濟上活動セリ獨逸近隣ノ諸國及ビ獨逸軍ノ占領下ニ在ル地方ニ於テハ對獨指嚇工作ナサレ歐洲ニ於ケル秩序ヲ樹立セントスル獨逸ノ企圖ニ對スル反對工作行ハレタリ又「ベルグラード」ニ於ケル文書ノ押收ガ示スガ如ク蘇聯ノ參謀本部ヨリ反獨ノ爲武器ノ供給スラ提示サレタリ

獨逸トノ條約締結ニ對シ發セラレタル蘇聯邦ノ獨逸トノ協調工作ニ關スル聲明ハステ意識的ナル偽瞞隱蔽工作ニ

シテ條約ノ締結自体蘇聯ニトリ有利ナル取極ヲ確保セシトスル戰術ナルコト明カナリ

當時ノ蘇聯ノ根本方針ハ非共產主義諸國ヲ容易ニ破壊シ時到ラバ打倒シ得ン爲之等諸國ヲ弱メントスルコトニ在リタリ

三、外交及軍事上極メテ明確ニ條約締結ノ際發セラレタル其ノ利益範圍トナリタル國家ヲ「ボルセヴィキ」化又ハ併合セザルベシトノ聲明ニ反シ蘇聯政府ニトリ其ノ軍事力ヲ其ノ可能性アル所ニハ至ル所西方ニ押進メ「ボルセヴィキ」化ヲ歐洲ニ迄深ク押進メントスルコトガ深ク重要ナリシコト判明セリ蘇聯邦ノ「バルカン」芬蘭及ビ「ブコビナ」ニ至ル迄其ノ要求擴張セラレタル羅馬尼等ニ對スル進出ハ右ヲ明ニ示シ居レリ

蘇聯ニ屬セル其ノ利益範圍ノ占領及ビ「ボルセヴィキ」化ハ明ニ「モスコ」ニ於ケル合意ニ反ス尤モ獨逸政府ハ斯ノ如ク作ラレタル既成事實ニハ一應満足シ居リタリ四、獨逸ガ蘇聯邦ノ對羅馬尼進出ヲ契機トシテ發生シタル東南歐ノ危機ヲ一應一九四〇年八月三十日ノ「ウイーン」仲裁裁決ニ依リ鎮壓スルヤ蘇聯ハ異議ヲ唱ヘ各領域ニ亘

リ大ナル軍事の準備ヲ開始セリ「リ」外相ノ「スターリン」トノ書翰ノ往復及ビ「モロトフ」氏ノ伯林ヘノ招待ニ現レタル獨逸ノ重ナル蘇聯トノ妥協ヘノ努力ガ獨逸ノ容認ヲ得ザル蘇聯邦ノ「ブルガリア」保障海峽地帯ニ於ケル蘇聯邦ノ陸海軍軍事基地ノ設置、芬蘭ノ完全ナル委棄等容認スベカラザル諸要求ヲ生ムニ到リ蘇聯邦ノ反獨政策ハ益々公然ト現ハレ來レリ

「ブルガリア」ノ占領ニ關スル警告、獨逸軍ノ進駐後「ブルガリア」ニ對シ發セラレタル直接非難ノ聲明等ハ一九四一年三月十一日土耳其ガ「バルカン」ニ於ケル戰爭ニ參加セル場合土耳其ニ與ヘラレタル背後ノ確保ト同様極メテ明ニ蘇聯ノ反獨政策ヲ示スモノナリ

五、本年四月五日ノ蘇聯「ユーゴ」間友好條約ノ締結ト共ニ蘇聯邦ハ英國「ユーゴ」希臘ノ對獨共同戰線ニ背後ニ在リテ參加セルモノナリ同時ニ蘇聯邦ハ羅馬尼ヲ獨逸ヨリ轉向セシムル爲同國ニ接近セント試ミタリ獨逸軍ノ迅速ナル勝利ノ結果羅馬尼「ブルガリア」駐屯獨軍ニ對スル英蘇ノ攻撃計畫ハ失敗シタリ

六、右蘇聯ノ政策ハ東海ヨリ黒海ニ至ル長中線ニ亘ル赤軍ノ

益々増強セララルニ掩護セラレ右措置ニ對シテ獨逸ハ後ニ至リ始メテ對抗手段ヲトリタルモノナリ右ノ狀況ヨリシテ本年初頭以來獨逸領域ニ對スル脅威ガ益々増大シ來リタリ最近ノ情報ニ依レバ右赤軍進撃ノ攻撃性ニ對スル疑ヒ全ク無クナリ極度ニ緊張セル軍事情勢明トナレリ加フルニ英國ヨリ來レル「クリツプス」大使ノ英蘇間ノ一層緊密ナル政治的、軍事的共同工作ヲ目的トスル交渉ニ關スル情報在リ

之ヲ要スルニ獨逸政府ハ蘇聯邦政府ガ其ノ受諾セル諸義務ニ反シ(一)其ノ對獨及ビ對歐洲破壞ノ企テヲ繼續セルノミナラズ寧口強化セリ(二)其ノ外交政策ハ益々反獨的トナリタリ(三)其ノ全軍勢力ヲ以テ獨逸國境ニ待機ノ姿勢ヲトリテ進撃シ居レリト聲明スルモノナリ斯テ蘇聯邦政府ハ獨逸トノ諸條約ヲ破リ正ニ其ノ生存ノ爲ノ鬭爭ヲ續ケツツアル獨逸ヲ背後ヨリ襲ヒカカラントシツツアリ

總統ハ依テ獨逸國防軍ニ對シ右脅威ヲ總ユル權力手段ヲ盡シテ反撃スベキ命令ヲ與ヘタリ

(歐亞局第二課)

266

昭和16年6月22日

在独国大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ開戦にあたり直ちにドイツへの支持を表

明すべき旨意見具申

ベルリン 6月22日後発

本省 6月22日夜着

第七四五號(極秘、大至急、館長符號扱)

獨蘇開戦ハ帝國ニ執リ北邊ノ脅威ヲ永遠ニ除去シ且支那事變ヲ解決スヘキ絶好ノ機會ナリ帝國ノ執ルヘキ態度ヲ速ニ御決定アリタシ特ニ帝國力獨逸今回ノ行動ヲ支持スル旨ヲ第一着手トシテ直ニ少クモ獨逸政府ノミニ通告スルコト必要ナリト信ス又「ヒ」總統カ一大決意ヲ以テ蘇聯攻撃ヲ開始セルニ對シ萬一帝國カ先ツ形勢ヲ觀望シテ然ル後我態度ヲ定ムルカ如キ行動ニ出ツルカ如キコトアラハ帝國ノ威信ヲ損シ獨ノ信賴ヲ失フモノニシテ帝國カ直ニ軍事行動ヲ開始セサル場合ニ在リテモ將來之ヲ行フ決心ハ速ニ獨逸政府ニ通告スルコト極メテ必要ナリ右重ネテ意見稟請ス本使ノ獨逸政府ニ申入ルヘキ事項折返シ回訓ヲ請フ

陸海軍武官モ同意ナリ右陸海軍ヘモ傳ヘラレタシ

267 昭和16年6月22日 在ソ連邦建川大使より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ開戦に関する在ソ連邦独国外大使との会談報告

モスクワ 6月22日後着
本省 6月23日後着

第七三二號

二十二日正午獨大使ト會談セリソノ要旨

一、二十一日夜政府ヨリソ聯政府宛通告文ヲ受領セリソノ要旨ハ國境ニ於ケルソ軍ノ状態ハ之以上放任シ得サルニ付攻撃ヲ開始ストスルモノナリ

二、午前五時半「モロトフ」ニ通告セルニ「モ」ハ既ニ午前四時ヨリ攻撃ヲ受ケツツアリト語り通告ニ對シテハ We are very sorry ト申セシノミナル由

三、從來伯林ニ於テソ大使トノ間ニ何等交渉アリシニヤトノ本使ノ質問ニ對シ「何物モナシ」ト答フ

四、貴使カ數年當地ニ在任サレ獨ソ國交ニ盡力セラレタルニ今日ニ至レルハ遺憾ニ感セララルナラントノ本使ノ慰ニ對シ、獨大使ハ暗然タル面持ニテ「事實ソノ通ナリ四月十七日始メテソ聯攻撃ノ決意ヲ承知セリソ聯ハ積極的ニ

獨乙ノ作戰ヲ妨ケ居ル次第ニモアラス戰爭ニ訴フル理由ナシト信シ屢々意見ヲ述ヘタルカ及ハス「ヒ」總統ニハ何等カ永遠ニ巨ル大目的的存在スルモノナルヘク軍ノ首腦部ハ強硬ニ總統ヲ支持セリ」ト述フ

五、館員約二百名ノ外沿「バ」地方ノ領事等ヲ集ムレハ多數ノ人數トナルカ一先ツ「イラン」ニ行クコトニ「モロトフ」ニ依頼セリ浦鹽領事以下ハ日本ニ行カシムルコトトセリ

六、昨夜本國ヨリ大使館ノ利益保護ハ勃國ニ依頼スヘク又「ルーマニア」公使ノ引揚ニ付盡力スヘシトノ最後電ヲ受領セル由

268 昭和16年6月23日

独ソ開戦に際して外務省が作成した情勢判断
および対処方針文書

付記 昭和十六年六月二十五日
右文書改訂版

獨蘇開戦ノ場合ニ於ケル國際情勢ノ判断及對策

一、情勢判断

(昭一六、六、一三)

- (1) 英米ハ蘇聯ニ對シ積極的ニ援助ヲ與フルコトナリ英米蘇及支ノ連繫實現セラルルニ至ルヘシ但シ情況ニヨリ重慶ニ對スル援助ノ實質的弱体化並共產軍ノ後楯減勢ニ伴フ國共紛争ノ激化等ハ重慶ヲシテ對日和平ヲ考慮セシムルノ公算無シトセス
- (2) 英米ハ蘇聯トノ連繫ト平行シ對日宥和政策ヲ實行シ日本ヲシテ三國同盟離脱ノ方策ヲ講スルニ至ルヘシト米國ハ一面對英援助ヲ強化シ參戰ノ一途ヲ辿ルヘシト雖モ他面此ノ機會ニ獨英接近ニ協力スルニ至ルヘキトトモ豫想ニ難カラス
- (3) 蘇聯ニ關シテハ次ノ如キ事態ノ發生ヲ豫想セラル
(イ) 西部戦線ニ於テハ敗戦ヲ免レス結局「シベリア」方面ニ遷都シ長期抗戰ヲ策スルニ至ルヘク蘇聯軍隊ノ東部方面ヘノ後退集中、空軍基地ノ擴充ハ英米トノ連繫ト相俟ツテ日本ヘノ重大恐威トナルノ虞アリ
(ロ) 「スターリン」政權覆滅シ(A) 國內ハ收拾スヘカラサル状態ニ陥ルカ(B) 新ニ統一セル親獨政權ノ樹立ヲ見

ルカ(C) 各地ニ幾多ノ獨立政權ノ成立スルニ至ルヘシ
(4) 獨逸ハ擊蘇ト併行シテ英國打倒ニ全力ヲ傾倒スヘキモ或ハ英國ト相和スルニ至ル處ナシトセス
(5) 帝國ノ國內状態ハ次ノ如キ事態發生スルニ至ルヘシ
(イ) 過般ノ中立條約ニ依リ一應中立の態度ヲ保持スヘキ
モ國內輿論トシテ北伐南進兩論沸騰スヘシ
(ロ) 米英蘭印等ノ對日經濟封鎖ハ急速ニ強化セラルヘク殊ニ「シベリア」鐵道ノ完全閉鎖ニヨリ獨逸ヨリノ物資輸入杜絶シ本邦經濟ニ至大ノ影響ヲ與フルニ至ルヘシ

二、對策

- 獨蘇開戦直後ハ一應靜觀ノ態度ヲ執リツツ左記方途ヲ講スルモノトス
- (1) 支那ニ關シテハ次ノ如ク措置ス
(イ) 擊蘇南進兩略ニ備フル爲滿洲及佛印ニ陸軍兵力集中ヲ理由トシ汪政權ノ強化ノ具現緒ニ就キタルコト等ヲ標榜シ日華條約ノ規定ニ從ヒ直ニ在支戦線ノ收縮ヲ斷行ス(蒙疆ハ張家口迄、河北山東、中支三角地帶、海南島、廣東並海岸線封鎖ニ止ム)

(ロ)汪政權ト協力シ速ニ重慶政權ヲ交戰團體トシテ認め
第三國關係完封ノ措置ヲ執ル

(2)米國ニ對シテハ從來ノ交渉ヲ其ノ儘續行スル態度ヲ以
テ對處スルト共ニ英米ノ宥和政策ハ之ヲ巧ニ利用シ支
那事變ノ處理ニ活用シ全面的和平促進ニ資ス

(3)樞軸中心ノ外交政策ハ依然之ヲ堅持ス從テ英米ノ宥和
政策ヲ利用スルニ當リテモ米國カ參戰セハ日本モ直チ
ニ參戰スルノ餘儀ナキニ立至ルヘキコトヲ明カニシ置
クモノトス

(4)蘇聯ニ對シテハ國內混亂ニ陥ル場合ハ直ニ北樺太及沿
海州ノ保障占領ヲ行ヒ引續キ爾余ノ工作ヲ爲スコトト
シ又親獨新政權成立スルカ如キ場合ニハ次ノ要求ヲ提
示シ之カ貫徹ヲ期スルモノトス右我方要求ノ容レラレ
サル場合ノ措置ハ別途考究スルモノトス

(イ)北樺太ノ買收

(ロ)沿海州ノ租借

(ハ)「バイカル」以東非武装地帶設定

(ニ)援蔣政策ノ放棄

(5)佛印及泰ニ對シテハ漸次兵力ノ集中ヲ行ヒツツ飛行基

地ノ供與等政治及軍事ノ要求ヲ爲シ我カ南進政策遂行
ノ準備ヲ強化スルモノトス

蘭印ニ對シテモ我實力の準備ト併行シ從來ノ主張ヲ貫
徹スル様一層努力ス

(付記)

獨蘇開戰ニ伴フ國際情勢ノ判斷及對策

(昭二六、六、二五)

一、情勢判斷

(1)英米ハ蘇聯ニ對シ積極的ニ援助ヲ與フルコトトナリ英
米蘇及支ノ連繫實現セラルルニ至ルヘシ但シ情況ニヨ
リ重慶ニ對スル援助ノ實質的弱化竝共產軍ノ後楯減勢
ニ伴フ國共紛争ノ激化等ハ重慶ヲシテ對日和平ヲ考慮
セシムルノ公算無シトセス

(2)英米ハ蘇聯トノ連繫ヲ密ナラシムルト共ニ獨蘇戰爭ノ
推移ニ應シ對日宥和政策ヲ實行シ日本ヲシテ三國同盟
離脫ノ方策ヲ講スルニ至ルヘシ

米國ハ一面對英援助ヲ強化シ參戰ノ一途ヲ辿ルヘシト
雖モ他面獨蘇戰ノ終結急速ナルカ如キ場合此ノ機會ニ

獨英接近ニ協力スルニ至ルヘキコトモ豫想ニ難カラス
(3) 蘇聯ニ關シテハ次ノ如キ事態ノ發生ヲ豫想セラル

(イ) 西部戦線ニ於テハ蘇聯ノ敗戦免レス結局獨ハ比較的

短期間内ニ「モスコ」ヲ初メトシ「ウクライナ」

及歐露ノ礦工業地帯ノ大半ヲ其ノ勢力下ニ納ムルニ

至ルヘク蘇聯ノ軍事的壞滅ニヨリ「スターリン」政

權覆滅シ(A)國內ハ收拾スヘカラサル状態ニ陥ルカ(B)

新ニ統一セル親獨政權ノ樹立ヲ見ルカ(C)各地ニ幾多

ノ獨立政權ノ成立スルニ至ルノ事態發生スヘシ

(ロ) 蘇聯ノ歐露拋棄ト「シベリア」方面ヘノ遷都ニヨル

長期抗戦ハ食糧及工業力ノ關係上極メテ困難ナルヘ

キモ戦争狀況ノ推移如何ニヨリテハ蘇聯軍隊ヲ東部

方面ヘ後退集結シ長期抗戦ヲ策スルニ至ルヘク右ノ

場合英米トノ軍事其ノ他ニ於ケル連繫強化ト相俟ツ

テ日本ヘノ重大脅威トナルノ處アリ

(4) 獨逸ハ擊蘇ト併行シテ英國打倒ニ全力ヲ傾倒スヘキモ

對蘇作戰豫期ノ如キ成功ヲ納ムル場合之ヲ背景トシテ

或ハ英國ト相和スルノ策ニ出ル處ナシトセス

(5) 帝國ノ國內情勢ハ次ノ如キ事態發生スルニ至ルヘシ

(イ) 過般ノ中立條約ニ依リ一應中立的態度ヲ保持スヘキ

モ國內輿論トシテ北伐南進兩論沸騰スヘシ

(ロ) 英米蘭印等ノ對日經濟封鎖ハ引續キ逐次強化セラル

ヘク殊ニ「シベリア」鐵道ノ完全閉鎖ニヨリ獨逸ヨ

リノ物資輸入杜絶シ本邦經濟ニ至大ノ影響ヲ與フル

ニ至ルヘシ

三、對 策

獨蘇開戦直後ハ一應靜觀ノ態度ヲ執リツツ左記方途ヲ講
スルモノトス

(1) 國際情勢ノ急轉ニ對處シ急遽擊蘇南進兩略ノ態勢ヲ確

立ス

(2) 支那ニ對シテハ次ノ如ク措置ス

(イ) 擊蘇南進兩略ニ備ヘ滿洲及佛印ニ陸軍兵力集中ヲ要

スルノ新情勢ニ鑑ミ汪政權強化ノ具現緒ニ就キタル

コト等ヲ標榜シ日華條約ノ規定ニ從ヒ直ニ在支戦線

ノ收縮ヲ斷行ス

(ロ) 汪政權ノ政治力ノ強化ニ全面的支援ヲ與フルコトト

シ之カ爲條約ニ豫見セラレタル各般ノ調整ヲ速ニ實

行スルモノトス

(ハ)汪政權ト協力シ直ニ重慶ヲ交戰團體トシテ承認スルノ措置ヲ講シ對重慶ノ内部的經濟封鎖ト相俟チ第三國ノ援蔣完封ノ措置ヲ講ス

(ニ)右諸施策ノ實行ト相俟チ對重慶和平攻勢ヲ活潑ニ展開シ殊ニ反共輿論ノ促進ニ依リ巧ニ國共分裂ヲ促進利導シ以テ全面和平ノ促進ニ努ムルモノトス

(3)蘇聯ニ對シテハ左ノ如ク措置ス

(イ)蘇聯ノ軍事の壞滅ニ依リ國內混亂ニ陥ル場合ハ自衛權ニ基キ直ニ北樺太及沿海州^{沿海}ノ保障占領ヲ行ヒ引續キ爾余ノ工作ヲ爲スコトトシ又親獨新政權成立スル如キ場合ニハ概ネ次ノ要求ヲ提示シ之カ貫徹ヲ期スルモノトス右我方要求ノ容レラレサル場合ノ措置ハ別途考究スルモノトス

a、北樺太ノ買收

b、「アムール」右岸地域ノ租借

c、「バイカル」以東非武装地帯設定

d、「カムチャツカ」ニ於ケル海、空軍基地ノ設定

e、經濟利權ノ獲得乃至根本的調整

f、援蔣行爲ノ拋棄

(ロ)獨蘇戰爭長期化シ現政府依然中央政府タル實權ヲ保有スル場合ハ日蘇中立條約ヲ直チニ侵犯スルコトナク極東蘇聯軍ノ動向ヲモ見定メ北方ニ集中セル我方武力の背景ノ下ニ概ネ左ノ要求事項貫徹ニ努ム

a、北樺太ノ買收

b、浦鹽ノ武装解除

c、經濟利權ノ根本的調整

d、援蔣行爲ノ拋棄

e、極東ニ於ケル英米トノ軍事協力ノ禁止

情況ニ應シ中立條約ノ廢棄ヲ考慮スルモノトス

(4)對蘇施策ト相俟チ速ニ南進態勢ノ強化確立ヲ計ルモノトス

(イ)南佛印ニ對シテハ對蘇關係ノ如何ニ拘ラス即時武力的進出(飛行基地ヲ含ム)ヲ爲スモノトス

(ロ)泰ニ對シテハ我方南佛印ニ於ケル武力の背景ヲ活用シ逐次我方トノ政治的經濟的及軍事の協力ノ強化ヲ計ルモノトス

(ハ)蘭印ニ對シテハ我實力の準備ト併行シ差當リ從來ノ主張貫徹ニ努ムルコトトシ其ノ武力的進出ハ獨蘇戰

ノ歸趨、英獨戰ノ推移及日米關係ヲ見定タル上之ヲ
斷行スル如クス

(5)米國ニ對シテハ其ノ宥和政策ヲ巧ニ利用シ支那事變ノ
全面的處理ニ活用スルト共ニ我南進擊蘇ノ新態勢ヲ背
景トシツツ英獨戰今後ノ推移ニ應ジ將來帝國ノ執ルコ
トアルヘキ世界平和再建ノ方策ニ同調セシムル様右可
能性ヲモ考慮シ之ニ對處スルモノトス

(6)樞軸中心ノ外交政策ハ依然之ヲ緊持ス從テ今後帝國ノ
對外政策推進ニ當リ獨伊トノ連繫ヲ更ニ密ナラシムル
ト共ニ英米ノ利導ニ當リテモ米國參戰セハ日本モ直チ
ニ參戰スルニ至ルヘキ決意ニ關シテハ常ニ之ヲ闡明ナ
ラシメ置クモノトス

269

昭和16年 6月23日

在独国大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ開戦初日の戦況に関する情報報告

ベルリン 6月23日前発
本省 6月23日後着

第七五二號(館長符號扱)

二十二日夜「リ」側近者來訪本使ニ語リタル獨蘇開戦後ノ
情況左ノ如シ

一、本日ノ戰鬪ノ結果ニ依レハ蘇軍ノ國境線ニ於ケル開進ハ
未タ完了シアラサリシコト明白トナレリ
一、本日ノ戰鬪ニ於テ確實ニ敵機五百ヲ擊墜又ハ地上ニ於テ
爆碎セリ

一、羅馬尼亞軍二十五師團ニ獨軍ヲ加ヘタルモノヲ「アンテネ
スコ」ヲシテ指揮セシメ「フィンランド」軍十五師團ニ
獨軍ヲ加ヘタルモノヲ「マンネルスハイム」ニ指揮セシ
メアリ羅、芬兩軍共ニ特ニ後者ノ志氣ハ著シク昂揚セラ
レアリ

之ヲ要スルニ作戦第一日ノ戰鬪ハ各方面順調ニ進捗シ戰爭
ノ前途ニ益々確信ヲ與ヘタリ

270

昭和16年 6月23日

在ソ連邦建川大使より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ開戦直後のモスクワ市内の状況報告

モスクワ 6月23日前発
本省 6月24日前着

第七四二號

開戦後ノ當地狀況左ノ如シ

一、「モロトフ」ノ放送直後ヨリ引續キ食料品及石油ノ賣店等ニ市民殺到長蛇ノ列ヲ見ル

二、市内各廣場ニ於テ「ラヂオ」ノ放送(防空ニ關スル注意各工場等ノ會合等)ニ耳ヲ傾クル市民ノ群ヲ見ルモ氣勢昂ラス

三、薄暮ト共ニ一部廣場ニ移動高射砲陣地ノ設ケラルルヲ見ル

四、各家屋共防護團出動夜間ノ燈火管制嚴重ナリ



271 昭和16年6月24日

在バタビア石沢総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ開戦に際シソ連支持を掲げた蘭印紙論調報告

バタビア 6月24日前発
本省 6月24日前着

第五三七號

獨蘇開戦ハ喜フヘキ晴天(晴カ)ノ霹靂トシテ蘭印人ヲシテ有頂天
タラシメ蘇聯及和蘭ハ現在迄國交斷絶關係ニ在ルヲ忘レテ

蘇聯ニ聲援ヲ與ヘ二十三日各新聞紙モ一齊ニ論評ヲ加ヘ居ル處内容ハ何レモ左ノ通り

即チ「スターリン」カ吾人ト同様ノ理想ヲ抱キ又平和ヲ目的トシテ獨逸ト戦ヒ居ルニアラストスルモ吾人ノ不俱戴天ノ敵獨逸ト戦ヒ居ル事實ハ蘇聯ヲシテ我同盟國タラシムルモノニシテ獨逸カ蘇聯トノ衝突ヨリ犠牲ヲ拂フ事大ナレハ大ナル程吾人ノ利益ナリ獨逸カ對蘇宣戰ヲ敢行セル原因ハ徹底的對英攻撃ヲ一時見合セ先ツ蘇聯内ノ石油及穀物ノ獲得ヲ目指シタルモノナルカ之カ爲獨逸カ精力ヲ消耗シ居ル間英國ハ益々軍備ヲ充實シ得ル事トナルヘク此ノ際蘇聯カ「デモクラシー」國ニ屬スルヤ否ヤハ考慮ノ要ナク「チャール」ハ(二十二日夜)「ラヂオ」放送(英國ヲ救フ爲ニハ惡魔ノ手ヲ握ルヲ辭セスト言ヒ居ルニアラスヤ云々



272 昭和16年6月24日

在ハルビン久保田総領事より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ開戦に対してわが方は不介入を宣言し日

中戦争処理に邁進すべき旨意見具申

第八六號(館長符號扱、大至急)

ハルビン 6月24日後発
本省 6月24日夜着

一、獨蘇開戦ヲ機ニ帝國モ對蘇開戦乃至ハ獨逸支持ノ聲明ヲ爲スヘシトノ論モ生シ得ヘキ處右ノ如キハ支那事變四周年ニシテ而モ尙未解決ノ今日更ニ南方ニ於テ英米ト北方ニ於テ蘇聯邦ト戰端ヲ開ク結果トナリ其ノ暴舉ナルヤ論ナシ帝國ハ此ノ際須ラク獨蘇戰不介入ノ宣言ヲ爲シ冷靜ニ支那事變處理ニ邁進スヘキナリ右ハ日蘇中立條約ハ勿論三國同盟ノ精神ニモ合致ス

一、此ノ機會ニ對蘇關係ニ於テハ各種懸案ヲ我方ニ有利ニ即時解決シ又英米トハ南方問題ヲ解決方努力スル一方蘇聯邦、英、米ヲシテ重慶不援助ヲ約セシムル如クセハ支那事變處理ニ一大飛躍ヲ見ルコトトナルヘシ
一、斯クシテ獨蘇開戦ニアル國際情勢ヲ十二分ニ我方ニ利用シテ支那事變ヲ處理シ東亞共榮圈ヲ固メ國力ヲ涵養伸張シツツ徐口ニ時ノ至ルヲ待チ蘇聯邦ノ疲弊又ハ内訌等ノ好機ヲ窺ツテ一撃ヲ加ヘ以テ人類ノ禍根タル蘇聯邦ヲ崩壞セシメ共產主義ヲ絶滅スヘキモノト存ス

右僭越乍ラ卑見申進ス
滿ヘ轉電セリ

273 昭和16年6月24日

在独国大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ戦況に関する情報報告

ベルリン 6月24日後発
本省 6月25日後着

第七五九號(館長符號扱)

本二十四日午前「リ」外相側近者本使ヲ來訪シ「リ」外相ニ時々戦況報告ヲ依頼シ置キタル爲極秘トシテ作戦二日間ノ戦況ヲ左ノ如ク語レリ

一、二十三日(作戦第二日)夜迄ニ獨空軍カ空中及地上ニ於テ擊碎シタル敵機ノ數ハ二千餘機ニ上リ開戦當初第一線ニ在リシ蘇空軍ハ之ヲ完全ニ擊滅シ獨空軍ハ既ニ戰場ノ制空權ヲ獲得シ續イテ後方地區ニ對シ之カ擴張ヲ計リアリ右ノ結果伯林ハ本日ヨリ獨逸國防法規定ニ依ル空中危険區域ヨリ除外セラレタリ

三、蘇空軍ノ獨領ニ對スル爆撃ハ作戦第二日迄ニ「メーメ

ル「チルジツト」「インステルブルグ」「オルテンスブルグ」ヲ各一回「ケーニヒスベルグ」ヲ三回爆撃セルカ東「プロシヤ」以外ニハ飛來セス又機數ハ「オルテンスブルグ」ニ對シ十五機來リタルモ其ノ他ハ二乃至三機カ潛入シ爆撃セルニ過キス其ノ被害モ合計死者約二十名ニシテ軍事上ノ損害皆無ナリ

三、蘇空軍ハ作戰第一日朝ニ於テ完全ニ急襲セラレタル爲其ノ大半ハ地上ニ於テ爆碎セラレ大ナル空中戰ハ實施セラレサリシモ作戰二日間ノ印象ニ依レハ蘇空軍ハ機種良好ナルモノヲ有スルモ一般ニ機械ノ取扱及操縦者ノ技術低劣ナルコトハ豫想ヨリ遙カニ大ニシテ對波蘭戰ニ於ケルカ如キ成果ヲ收メ得ヘキ確信ヲ得タリ

四、⁽²⁾獨軍ハ地上ニ於テモ完全ニ敵ヲ急襲シ國境ニ在ル橋梁ニシテ敵ヨリ破壊セラレタルモノ只ノ一箇モナク國境ニ在ル兵營モ殆ト其ノ儘之ヲ占領シタル狀態ニシテ作戰二日間ノ印象ニ依レハ敵ハ露西亞人ノ缺點タル積極獨斷性ニ缺除セルコトヲ遺憾ナク暴露シ士氣不良ニシテ部隊ノ教育訓練却テ不完全ナルヲ確認セリ

五、獨軍ハ二十三日朝既ニ「レンベルグ」ヲ占領シ作戰第二

日ノ夜ニ於テ各部隊ハ尠キハ四十乃至五十軒多キハ二百乃至二百五十軒モ深く突入シ機械化兵團ニシテ既ニ敵ノ後方補給路ヲ蹂躪セルモノモアリ

特ニ沿「バルチツク」地方ニ於テハ「コブノ」以北ニ進出シ蘇軍二箇軍ヲ既ニ完全ニ壊滅セシメタリ

六、羅馬尼軍モ亦善ク戰ヒアリテ獨逸ハ大イニ満足シアリ

七、今日迄ノ所「バルチツク」海ニ於ケル蘇海軍ハ極メテ消極的ニシテ獨逸ヨリ「ヘルシンキ」ニ至ル海路聯絡ハ素ヨリ危険ヲ伴フモ必要ナルモノハ尙之ヲ實施シアル程ナリ

八、之ヲ要スルニ開戦後二日間ニ於ケル戰果ハ豫期以上大ナルモノアルニ拘ラス獨軍ノ將來ノ作戰企圖ヲ秘匿スル爲暫ク之カ發表ヲ爲ササルモ恐ラク今週末ニハ吾人ノ豫想セサル大ナル戰果ヲ公表シ得ヘク獨逸統帥部ニ於テハ蘇野戰軍ノ擊滅ハ一箇月ヲ出テサル確信ヲ得タリ
本電陸海軍ニ傳ヘラレタシ

274

昭和16年6月24日

在独国大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

独ノ戦に対する英米等の反応に関する情報報告

ベルリン 6月24日後発
本省 6月25日後着
第七六〇號(館長符號扱)

往電第七五九號會談ノ際獨蘇開戦後獨逸政府ノ得タル諸情報ニ基ク政治情勢ニ關シ左ノ如ク語レリ

一、獨蘇戦ニ對スル英國ノ態度ハ今日迄ノ所當分獨軍ノ戦果ヲ觀察シ其ノ戦勝ノ程度ヲ見極メタル後之二對處スル方

法ヲ確定セントシアルコト明カナリ蓋シ從來數度ノ戦役ニ始ヨリ手ヲ出シ獨逸ノ電撃戦ニ依リ失敗シタル體險(險)ニ

鑑ミ今回ハ先ツ精神的援助ヲ行ヒ急速ニ對蘇接近ノ具體的措置ヲ講スルコトハ甚タ危険ナリト考ヘ居ルカ爲ナリ

二、米國ニ於テハ蘇大使「ウーマンスキー」ハ終始國務次官「サムナー」ト聯絡シアルモ政治的ニハ未タ何等ノ成果

ヲ收メ居ラストノ情報ニ接シアリ米國モ差當リハ獨蘇戦ノ經過ヲ見守ルヘク獨ノ戦績明カトナルニ從ヒ米國モ積

極的援助ヲ爲ササルモノト判斷シアリ
三、「フランコ」將軍ヨリ「ヒ」總統ニ對シ西班牙義勇軍モ

共產主義ニ對スル十字軍参加方申込ミ來レル處右ハ軍事

的ニハ價値少キヲ以テ獨逸軍部ハ反對ナルモ獨逸政治家ハ南米諸邦ニ及ホス影響極メテ大ニシテ宣傳上價値アルヲ以テ之ヲ希望シアリ諾否未タ決定スルニ至ラス

四、瑞典ニ於テハ王及軍ハ對蘇參戰ヲ爲スヘシトノ意見ナルモ政府ハ尙民主主義的色彩濃厚ナル者多ク之二反對シアリ目下國內輿論ニ對立アリテ一語不明ニ重要ナル危機ニ立チアルモ漸次反蘇派ハ反「ナチ」派ヲ壓シアリ

275 昭和16年6月24日 在独国大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

ドイツの対ソ処分構想に関する情報報告

ベルリン 6月24日後発
本省 6月25日後着

第七六四號(館長符號扱)

往電第七五九號會談ノ際將來ニ於ケル蘇聯ノ處分ニ言及セリ其ノ要旨左ノ如シ(談話者ト「リ」トノ關係ニ鑑ミ信ヲ置キ得ヘシ)

一、蘇聯ノ處分ハ今後戦況ノ發展如何ニ依ルヘキモ獨逸力飽迄「スターリン」政權ノ倒壞ニ邁進スルコトハ「ヒ」總

統不動ノ方針ニシテ蘇野戰軍ノ撃滅ニ依リ「ス」政權カ
直ニ倒ルルヤ否ヤハ猶豫斷シ得サルモ之ハ問題ニアラス
假令該政權存續スルコトアリトスルモ最早全ク無力化ス
ルコトハ疑ナキ所ナリ

二、獨逸ハ「ウクライナ」白露沿「バルチック」「コーカサ
ス」等成ルヘク多クノ小國ニ分立セシムル方針ニシテ軍
事行動ト相俟テ是等ノ工作ヲ實施セラルル筈ナリ
三、尙對蘇戰ノ進捗ニ伴ヒ印度方面ニ對スル工作ヲ積極化シ
印度ヲシテ反英行動ヲ激化セシムルコトトナルヘシ

276 昭和16年6月24日

在独国外務大臣宛(電報)
松岡外務大臣宛(電報)

ドイツと策応し極東ソ連領にて分解工作を行
うべき旨具申

ベルリン 6月24日後発
本省 6月25日後着

第七六五號(館長符號抜)
往電第七六四號ニ關シ

蘇獨戰爭ノ推移ニ伴ヒ帝國モ亦日滿兩國ノ將來ニ對スル安

全ヲ確保スル爲極東蘇領ニ分解工作ヲ行フコト極メテ緊要
ニシテ本件ノ實施ハ歐蘇ニ於ケル獨逸ノ工作ト策應スルヲ
有利トスルヲ以テ帝國ハ極東ニ於テ至急之カ準備ニ着手ス
ルト共ニ是等ニ關シ獨逸ト所要ノ協議ヲ遂クルコト最モ必
要ナリ

又「シベリア」鐵道ハ戰爭ニ依リ一時混亂ニ陥ルヘキモナ
ルヘク速ニ之カ恢復ヲ計ルコト必要ニシテ之ヲ獨逸ニ要求
スルト共ニ帝國モ亦自力ヲ以テ一定區間分擔スル用意ヲ爲
ササルヘカラス

277 昭和16年6月24日

在ルーマニア筒井公使より
松岡外務大臣宛(電報)

ドイツによるロシア新政權の樹立は確実との
独ソ戦見通しについて

ブカレスト 6月24日後発
本省 6月25日後着

第一一三號(至急、館長符號抜)
⁽¹⁾獨蘇戰前途ニ關シ判斷意見左ノ通り

(一)獨ハ必ス現在ノ蘇聯政權ヲ潰滅シ新政權ヲ樹立スヘシ若

シ經濟資源獲得ノミニテ満足ナルヘシト判断スル者アラハ誤リナリ近時戦争ノ性格カ右ノ點ニ在ルコトヲ充分認識スルコトハ我方判断ノ基礎タラサルヘカラス

右ハ過去ニ於テ支那事變、歐洲戦争ノ性格ニ關シ我國内一部ニ正確ナル認識ヲ缺キ中途半端ノ講和可能性ヲ信シ爲ニ國策遂行上遺憾ノ點アリシニ鑑ミ特ニ重キヲ置ク要アルヘシ

(二)²⁾ 當地各方面ノ豫想ヨリ綜合スルニ獨逸ハ北ハ「レニングラード」ヨリ中央ハ「ビテブスク」及「ミンスク」方面ヨリ何レモ莫斯科ニ進撃南ハ「プレストリトウスク」及「ルボフ」方面ヨリ「キエフ」ヲ衝キ「ドニエプル」流域ヲ下リ「ドン」及「ボルガ」下流地方ニ進ミ「ウクライナ」及「コーカサス」ノ赤軍ヲ捕捉潰滅スヘク主要作戰ハ一、二箇月ニテ目鼻ツクヘク如何ニ遅クモ天候作戰ニ適セサルニ至ル十月初以前ニハ蘇聯政權没落シ「ロシア」國及「ウクライナ」國ノ建設「バルチツク」諸國ノ恢復ヲ看ルヘク赤色政權落日トナラハ國際民心ノ離反案外早カルヘシト謂ハレ(既ニ「ロシア」人方面ニ立チ居ル噂ニ依レハ「ロシア」新政權首腦ハ「ビスクブスキ

ー」將軍「ウクライナ」國ハ「コロハイツキー」將軍ナルヘク前者ハ帝政時代師團長革命直後南露ニテ英佛ト協力其後伯林ニ移リ獨逸ト聯絡シ準備シ居タルモノノ後者ハ前「ウクライナ」國頭目ニテ之モ伯林ニ居リシモノ又當地獨逸側ハ將來「ロシア」新政權トノ協力ヲ準備シ居ルモノト思シキ種々ノ措置ヲ執リ居レリ(「ウクライナ」

政治組織宣傳準備等ニ付テハ曩ニ電報セシ通リナル外國宣傳省ニ對シ今次征戰ハ「ボルシエビキ」相手ニシテ「ロシア」民衆ヲ敵視セサル様注意方指令ヲ與ヘ又羅國警察力當地始メ各地ニテ露人三千人ヲ開戦ト同時ニ逮捕セルニ對シテハ反蘇分子釋放方指令シタル等種々ノ事實材料アリ)

(三)³⁾ 之等新政權ハ歐洲新秩序内ニテ經濟政治軍事上ニ於テ獨逸ノ傘下ニ立ツハ勿論ニテ「ロシア」政權ハ印度洋方面進出ノ可能性モナシトセサルヘシ

(二)獨逸作戰ハ常ニ大掛リニシテ全力ヲ舉ケテ準備ノ上電撃的ニ實施セラルルニ付「ナポレオン」ノ失敗ハ「スピード」時代ノ今日ハ前例トハナラサルヘク勝敗ノ決ハ我國内一般ノ想像ヨリモ早カルヘク我國トシテハ若シ獨逸ヨ

リ事前ノ協議ナカリシモノトセハ立上リ迄ノ準備ニ多少
時日ヲ要スルハ當然ナルヘキモ萬一暫ク形勢觀望ト云フ
如キ三國條約精神ニ即セサル態度ヲ執ルニ於テハ我方ノ
協力ナクシテ右勝敗ノ決ヲ見ルヘク從テ獨逸「ロシア」
新政權モ吾ニ對シ義理合ヲ感セサルヘク將來露獨トノ友
好關係ノ礎ヲ置クト共ニ併セテ今日實力ヲ以テ北方不斷
ノ脅威トナルヘキ地方ヲ我方ニ收メ置ク絶好ノ機會ヲ失
フニ至ルヘシ南方問題モ然ルコト乍ラ吾ニ大海軍アリ英
米ヨリ進ンテ大規模ノ攻撃作戰ハ採リ來ラサルヘキニ付
差當リ今ハ北ヲ第一南ヲ第二トスヘキモノト存ス
尙我方實力發動以前ニ我態度ヲ推測セシメサルコト肝要
ニテ不意ヲ襲ヒテ第一撃ヲシテ最大ノ效果ヲ持タシムル
コト絶對必要ニ付所謂輿論ヲ起スト云フ考ハ禁物ト存ス
開戰第二日ニ於テ右様判斷意見ヲ申シ述フルハ無謀ノ謗
ハアルヘキモ何等御役ニ立チタキ微意御諒察請フ

獨、伊、土へ轉電セリ

278 昭和16年6月27日

在独国外務大臣宛(電報)

對ソ作戰に對する日本の協力をリッペント
口ツッ独国外相希望について

ベルリン 6月27日前發
本省 6月27日後着

第七八四號

往電第七八三號會談ノ際本使ヨリ「リ」ニ對シ帝國ノ執
ルヘキ措置ニ付テハ未タ訓令ニ接シ居ラサルモ松岡大臣「オ
ツト」會談ニ關スル來電アリタルカソノ中ニ松岡大臣カ日
本ハ三國同盟ノ目的及精神ニ基キ行動スト言明セラレタル
コトハ貴大臣モ御承知ナルヘシト言ヘルニ「リ」ハ「オツ
ト」電ニ依リ既ニ之ヲ承知シ「ヒ」總統ニモ傳ヘアリト述
ヘ次テ日本ニハ素ヨリ御都合モ有之ヘキモ自分ノ卒直ナル
意見ヲ述フレハ速ニ日本カ新嘉坡ヲ攻略セラルルハ最モ幸
ヒナルモ之ニハ準備及其ノ攻略ニモ時日ヲ要スヘキヲ以テ
先ツソ聯ヲ片付ケテ行ク方針ニテ對ソ作戰ニ日本ノ協力ヲ
希望スル次第ニシテ之ヲ松岡大臣ニ傳ヘラレタシト述ヘタ
リ

279

昭和16年6月27日
在独国外務大臣宛(電報)

対英攻撃の時期等に関するリッペントロップ
との会談報告

ベルリン 6月27日前発

本省 6月27日夜着

第七八五號

一、往電第七八三號ノ會談ノ際本使ヨリ「リ」ニ對シ對英攻撃ニ付テハ從來貴大臣ヨリ英國カ無條件降伏ヲナサハ格別ナルモ妥協平和ハ絕對ニ之ヲ行ハサル旨才話アリタルカソノ決意ハ變ラサルヤト問ヘルニ「ヒ」總統ハ將來モ必スコノ一線ヲ堅持スヘシト答ヘタルヲ以テ本使ヨリ更ニ今日迄ノ對ソ作戰經過ヲ見ルニ作戰ハ非常ニ順調ニ進展シ居ルカ如ク從テ對ソ戰ノ終結早キカ爲ニ對英作戰モ早ク決行セラルルコトナキヤト尋ネタルニ「リ」ハ潜水艦戰ハ近ク全力ヲ擧ケテ行フニ至ルヘク對英空中攻撃ハ之ヲ續行スルモ對ソ作戰進捗シ空中兵力轉用ノ自由ヲ得タル後本格的ニ行フ筈ナリ從テ決定的攻撃ハ潜水艦及空中攻撃成果ニ待ツヘキモノニシテ目下予斷シ得サルモ出

來得ル限り早く之カ決行ニ努ムルハ獨乙トシテ當然企圖シアル所ナリト答ヘタリ依テ本使ヨリ素ヨリ對英決戰ノ時期等ハ獨乙トシテ重大ナル機密ナルヘキモノ日本トシテモ將來ノ施策ニ關スルコト多キヲ以テナルヘク早く内示セラレタシト申入レ置キタリ

二、獨乙カ米國參戰ノ準備未タ終了セサルニ先立チナルヘク速ニ對英決戰ヲ終ラント企圖シアルト察知シ得ヘク對ソ作戰ノ進捗ニ伴ヒ「ヒ」得意ノ急襲的ニ英國攻撃ヲ行フ場合モアルヘク帝國トシテハ之等ノ場合ヲ考ヘテ後レトナラサル如ク準備腹案ハ今日ヨリ揃テ置カルルコト極メテ緊要ナリト信ス

本電陸海軍ニモ傳ヘラレタシ

280 昭和16年6月27日
在滿州國梅津大使より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ開戦に対する関東軍の態度について

新京 6月27日後発
本省 6月27日夜着

第三七八號(極秘、館長符號扱)

大橋次官ハ好富ヨリ

一、今次獨蘇開戦ニ際シ關東軍トシテハ極メテ慎重ナル態度ヲ持シ苟モ蘇側ヲシテ我方態度ニ疑念ヲ挾マシムルカ如キ言動ハ嚴ニ之ヲ慎ミ對蘇懸案交渉ノ如キモ既定ノ方針ニ基キ互讓的の友好的態度ヲ以テ之カ圓滿妥結ヲ圖リ以テ日支事變ノ解決ニ全力ヲ傾注スルノ方針ナル處(但關東軍ノ一部ヲ割キテ支那方面ニ出動セシムルハ獨蘇戰爭ノ見透付カサルヲ以テ今日絶對反對ナリ)(往電第二五四號參照)關東軍少壯軍人殊ニ現地部隊ノ者ハ今ヤ對蘇問題解決ノ好機到來セリト爲シ場合ニ依リテハ事端ヲ釀シテ對蘇攻撃ノ火蓋ヲ切ルヘシ等ノ強硬意見ヲ抱懷スル者相當多數ナリ

二、當地憲兵隊ニ入りタル情報ニ依レハ大本營内部ニ於ケル對蘇態度ハ昨夜來急激ニ主戰的の動向ヲ示シ來レルモ軍ノ態度ヲ最終的のニ決定スルニハ猶三、四日ヲ要スヘシトノコトナリ

三、滿側ニテハ萬一日蘇開戦ノ場合ニ於ケル滿洲國ノ物資問題檢討ノ爲總務長官代理ヲ(總務長官自身ノ東上ハ注目ヲ惹クヲ以テ)一兩日中ニ上京セシムル趣ナリ以上御參

考迄

281 昭和16年6月27日 在独国外務大臣宛(電報)

防共協定の精神に鑑み道義的見地よりわが国には独ソ戦に協力する責務ありとの意見具申

ベルリン 6月27日後發
本省 6月28日前着

第七九二號(館長符號抜)

本二十七日洪牙利モ宣戦シ伊太利モ部隊ヲ東方戰場ニ送ルヘク今ヤ歐洲諸國ノ大部ハ直接戰爭ニ參加スルコトナレリ右ニ對シテハ獨軍部ハ必スシモ之ヲ欲シ居ラサルカ如キモ(往電第七六〇號參照)「ヒ」總統カ開戦當日國民ニ與ヘタル檄及「ソ」聯政府ニ與ヘタル獨外務省黨書^(電カ)ニ依リテモ明カナルカ如ク今次戰爭ノ目的ノ一トシテ一切ノ世界文化ヲ「ボルセビズム」ノ危險ヨリ救フコトヲ掲ケアリ「ヒ」總統ニトリテハ右ハ決シテ單ナル口實ニアラス「ヒ」宿積ノ信念ナルヲ以テ歐洲群小諸國ヲ獨逸ノ所謂對「ボルセビズム」十字軍ニ參加セシメタルナラン

日滿兩國防衛竝ニ東亞共榮圈確立ノ爲帝國ハ無爲閑靜ヲ許ササルノミナラス帝國カ世界ニ率先シテ防共協定ヲ締結シタル精神ニ鑑ミ道義的見地ヨリ又本戦争ニ協力スル責務アリト信ス

282

昭和16年6月27日

在ソ連邦建川大使より
松岡外務大臣宛(電報)

獨ソ戦に対する日本側態度をめぐるモロトフ

外務人民委員との会談報告

モスクワ 6月27日後発

本省 6月28日前着

第七七七號

往電第七七六號會見ノ際「モ」ハ本使ニ對シ今次事變ニ對スル日本政府ノ態度ニ付尋ネタルニ依リ本使ハ何等本國政府ヨリ通報ニ接セサルカ松岡大臣ノ考ヘハ御判リノ通ニテ政府殊ニ大臣ハ當惑シ居ルニアラサルヤト思考ス大臣ハ日ソ獨伊ノ結合ヲ熱心ニ考ヘ居リタル次第ナレハ戦争ハ回避シタキ考ヘナリシト思考ス然ルニ今回突如戦争勃發シ一方ハ三國同盟ノ締約國ニシテ又他トハ中立條約ヲ有スル等複

雜ナル情勢下ニアリ連日閣議ヲ開キ方針ノ決定ニ力メ居ル模様ナレハ或ハ數日中ニ「スメターニン」經由又ハ本使ヲ經テ意思表示アルニ非スヤト思考ス東京ノ困惑ハ事實ト思考ス何トナレハ希望セサリシコト突發シタレハナリト言ヘルニ「モ」ハ然ラハ獨乙ハ何等日本ニ内報セサリシ次第ナリヤト尋ネタルニ依リ本使ハ大臣ノ伯林ヲ出發シタルハ四月五日ノコトナルカ夫迄ニハ何等ノ話ナカリシコト確實ナリ

四月下旬ニ至リ獨側ヨリ大島大使ニ對シ夫レラシキ話アリタルモ素ヨリ公式ノ通告ニアラス吾人ハ之ヲ信セサリシナリ然ルニ風説ハ益々盛トナルハカリナルヲ以テ過般費下ニ對シ御意見ヲ求メタル處右ハ單ナル風説ナリトノ御返事ナリシヲ以テ本使モ安心シ居タル次第ナリ日本政府ハ獨乙ノ決意ノ概略ヲ知リタリトセハ夫レハ戦争開始數日前ノコトト思フ何トナレハ獨乙向ケ「クォーリエ」ハ六月二十日東京ヲ出發シ我館員二名モ獨乙バルカンノ旅行ニ赴キ二十一日ニハ「イラン」ニ向ケ書記官一名官補一名ヲ出發セシメタル位ニテ事前ニ明確ナル内報ヲ受ケ居ラサルモノト思考ス松岡大臣ハ獨乙政府ニ對シカカルコトナキ様何等カノ意思

表示ヲ爲シタルニアラスヤト推測スルモ別ニ政府ヨリ通報ニ接シタル次第ニアラスト述ヘタルニ「モ」ハ三國同盟ニハソ聯邦ニハ關係ナシトノ條項アリ日本ハソ聯ニ反對ナル義務ヲ負ヒタルモノニアラスト思考ス

我等ハ隣國ナレハ其ノ時々ノ利害ノミナラス永久ノ利害ヲモ考フヘキニシテオ互ニ兩國關係ヲ惡化セシムル如キ何等ノ「ステツプ」モ採ラレサルコトヲ希望ス最近日ソ關係ハ好轉シ出シタルトコロナリト述ヘタルニヨリ本使ハ駐ソ大使トシテ又中立條約調印者ノ一人トシテ本使自身ハ日本政府カ中立條約ヲ遵守スルコトヲ期待スルモノナリ兩國ノ關係ヲ惡化スル如キ「ステツプ」ヲ採ルヘカラストノ貴見ニハ全然同感ナリトテ利權労働者送込問題ニ觸レカカル問題ヲ遷延シ感情ヲ刺戟スルハ不可ナリトテ入國査證ヲ(一)六六〇)大至急發給スル様取計ハレ度ト言ヘルニ「モ」ハ早ク回答スル様取計フヘシト言ヘリ尙本使ヨリ戰爭勃發前ソ聯ハ英國ト同盟條約締結ヲ話合居リタル由ナルカ之亦風説ニ過キスト言ハルルヤト問ヘルニ「モ」ハ全然カカルコトナシ其レハ全クノ嘘ナリ交渉モシタルコトナシ尤モ戰爭後ハ別ニシテ今回交渉委員既ニ渡來シ交渉スルコトトナリ

居レリト答ヘタリ

283 昭和16年6月27日 在ルーマニア筒井公使より
松岡外務大臣宛(電報)

ボルシエビキ打倒を大義名分として対ソ開戦
すべき旨具申

ブカレスト 6月27日後発
本省 6月28日後着

第一一八號(館長符號抜)
往電第一一三號補足旁卑見左ノ通り

(一)我國對蘇戰ノ大義名分トシテハ大東亞及歐洲ニ新秩序ヲ建設維持スル爲獨伊ト提携協力スルヲ根本國策トシ對蘇中立條約モ蘇聯ニモ右提携協力ニ參加ノ機會ヲ與ヘ右國策ヲ補強スル趣旨ナリシモ歐洲ニ於テ右同様ノ態度ヲ示シ獨逸ニ對シ背信的行動ヲ續ケタルト同様我國ニ對シテモ中立條約成立後モ依然トシテ我國及支那國民政府ニ敵對スル徒輩ニ對スル援助ヲ熄メサルニ付已ムナク背信的「ボルシユヴィキ」政權ヲ壞滅セントストノ趣旨ニテ堂々進ミ得ヘシト信ス

(二)⁽²⁾但シ開戦理由ヲ多數ゴタゴタ羅列スルコトハ却テ本旨不明瞭トナリ内外ニ面白カラサル影響アルヘキニ付内外一般國民ニ對スル宣傳的方面ニ於テハ誰ニモ解リ易キ簡單ナル標語ヲ一ツタケ掲ケ主トシテ其ノ一點張りトスルコト有效ナルヘク其ノ標語ハ「ボルシエヴイキ」打倒トスルコト適當ト存ス蓋シ「ボ」ナルモノハ何カシラ悪キモノナリトノ感想ハ「ロシア」ヲモ含ム世界各國民上下ヲ通シテ一般ニ行亘リ居ルヲ以テナリ「新秩序」ハ樞軸側ニハ通用スルモ世界的ニハ效果ナク米國等ニ於テハ却テ反對效果ヲ伴ヒ樞軸ヘノ敵愾心ヲ強化スヘシ歐洲ニ於テモ例ヘハ教會側カ「キリスト」教擁護ノ爲トカ所謂「インテリ」共カ西洋文明擁護ノ爲トカ云ヒ始メ居ル處日滿支側ト歐洲側トカ別々ノ標語トナラヌ様最初ヨリ「ロシア」及「アングロサクソン」民衆ヲモ含ム全世界ニ共通ノ效果アル「ボ」打倒ヲ標語トスルコト適當ト存ス尙「ボ」打倒後ハ恐ラク日滿支露獨伊等ヲ連ネタル「ユウラジア」カ之ヲ取巻ク「アングロサクソン」勢力ト闘ヒヲ續クルコトトナルヘキニ付「ロシア」滿洲ハ勿論「ロシア」國家ヲモ敵視セサル様今ヨリ充分ノ注意ヲ拂

フコト當ニ將來是ト友好關係ヲ持ツ爲ノミナラス我國民ノ態度ヲ豫メ善道^(譯)シ置ク爲ニモ必要ナルヘク此ノ意味ニ於テハ「ソレン」ト謂フ言葉モ敵ト云フ意味ニハ餘リ使ハサルヲ可トセン(六月十二日當地獨逸公使館宣傳係ハ本使ニ獨カ對蘇戰ヲ決心スルニ當ツテハ獨カ「ボ」ヲ打倒スル場合ハ米國始メ世界各國ニ於テ對獨反感減少シ國論不一致ニ導ク效果ヲ期シ得ルコトモ理由ノ一ツナルヘシト内話セルコトアリ現在モ獨羅共ニ専ラ逐「ボ」戰爭ト云ヒ居ルコト既報ノ通り)

獨、伊、土へ轉電セリ

284 昭和16年6月28日 在イラン市河^(譯)彦太郎公使より
松岡外務大臣宛(電報)

獨ソ戰に対してわが方は中立を維持し対米宣

戰の上南進すべき旨意見具申

テヘラン 6月28日後発
本省 6月29日前着

第一三六號(館長符號抜)

獨蘇戰爭ニ對處スヘキ我カ外交政策ニ關スル卑見左ノ通具

申ス

- 一、日蘇中立條約及三國同盟條約ノ孰レニ依ルモ獨蘇間ノ戰爭ニ對シテハ日本ハ中立ヲ維持スヘキ立場ニ在リ
- 二、然レ共英米カ蘇聯邦ヲ援助スヘキハ當然ニシテ殊ニ米ハ參戰ヲ避ケ現在ノ名義上中立ノ立場ヲ飽迄利用シ蘇聯ニ對シ援助ヲ送り獨逸打倒ニ勢力ヲ集中スヘク其ノ際日本カ前記中立ノ立場ヲ固執スル時ハ獨逸ハ苦境ニ陥ルヘシ
- 三、從テ日本ハ獨逸ノ敗北即チ樞軸側ノ敗退ヲ防カントスレハ終局ノ所必ス米國ト開戰セサルヲ得サルヘク斯テ初メテ米國ノ對蘇援助ヲ妨害スル事ヲ得ヘシ但シ其ノ際蘇聯ニ對シテハ飽迄條約ニ基キ中立關係ヲ維持スルヲ得策トスヘシ
- 四、⁽²⁾然ラハ蘇聯モ亦日本ニ關スル限り後方攪亂ノ實力無キ今日中立條約ニ依リテ中立ヲ守ラサルヲ得サルヘシ
- 五、以上ノ如キ立場ニ在ル日本トシテハ出來得ル限り對米宣戰ノ上速ニ南方ニ對シ電擊作戰ニ出ルヲ有利トスヘク其ノ爲ニハ支那ニ派遣セル兵力ハ僅ニ一部ヲ除ク外大部分ヲ佛印ヲ通シ南下セシメ海軍ト呼應シ一舉ニ目的ヲ達成スヘク從テ支那ニ對シテハ南京政府カ倒壞セサル丈ノ消

極の手當ヲ爲スニ必要ナル要所ニ兵ヲ殘留セシメテ事實上ノ撤兵ヲ斷行スヘシ

- 六、其ノ際嚴ニ慎ムヘキハ西比利亞ヘノ出兵ニシテ若シ此ノ舉ニ出テンカ日本ハ兩面作戰ニ出テサルヲ得サルヘク力ヲ南方ニ專ラニスルコト能ハス結局ニ兎ヲ追フノ愚ヲ演シ往年西比利亞出兵ノ二ノ舞トナルヘシ

- 七、⁽³⁾若シ北樺太又ハ沿海州等ヲ獲得セントスルナラハ南方進出ノ上豐富ナル物資ヲ抑ヘタル後ナレハ一舉手一投足ノ勞ヲ以テ爲スコトヲ得ヘシ

- 八、但シ南方ニ進出スル口實ヲ作ル爲ニハ相手方カ到底之ヲ承認シ得サルカ如キ條件ヲ持出シテ最後ノ通牒ヲ突キ附ケルコト必要ナルヘシ

- 九、右ノ如キ方法ニ依ル時ハ條約論ヨリ云フモ何等苦情ノ出ル餘地ナク他方樞軸側ヘノ義理モ立チ從テ中外ニ帝國ノ立場ヲ正々堂々ト闡明シ得ヘク大義名分上ヨリ見テモ適當ナル措置ナルヘシ

- 一〇、唯右實行ニ當リテハ迅速ヲ貴フ從テ事茲ニ到リテハ右顧左盼セス勇ト斷トヲ必要トスルノミナリト信ス

285

昭和16年6月28日

在独国大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

日本の早期参戦を独側希望につき速やかにわ

が方態度決定方具申

ベルリン 6月28日後発

本省 6月29日後着

第七九八號

一、本二十八日午後六時在大本營「リ」外相ヨリ本使ニ對シ
直接電話ヲ以テ左ノ通り申越セリ

昨二十七日大本營ニ到着シ「ヒ」總統ト會談セシカ對蘇
作戰ハ予期以上有利迅速ニ進展シ殆ト制空權ヲ獲得シ既
ニソ軍ノ一部ニハ崩壞ノ兆サヘ現ハレ在リテ極メテ短期
ニ作戰ヲ終結スルコト確實ナリ從テ時期ヲ失スル惧アル
ヲ以テ日本ノ對ソ參戰ハ遠カラサルコトヲ希望ス

二、「リ」カ大本營到着早々右ノ如ク然モ電話ニテ申越シタ
ルハ恐ラク「ヒ」ノ旨ヲ受ケタルモノト察セラル獨乙ト
シテハ本使ニ對シ四月十日狀況ニ依リソ聯ノ準備整ハサ
ルニ先立チ之ヲ砲撃スルヲ有利ト考ヘ在ルコトヲ述ヘ
(第四一三號)又六月三日ニハ「ヒ」總統態々山莊ニ本使

ノ來訪ヲ求メ特ニ獨ソ戰ノ不可避ナルヘキコトヲ告ケタ
ル(第六二九號)等對ソ作戰決意ハ早クヨリ日本ニ通報シ
アルニ拘ラス開戦後一週日ヲ經タル今日尙日本カソノ態
度ヲ明ニセサルコトニ關シ奇異ノ感ヲ抱キ之ヲ催促シタ
ルモノト察ス

事實ニ於テ連日日本ヨリ來タル諸情報竝歐洲新聞ノ記事
ハ頻々タル日本ニ於ケル内閣ソノ他ノ會議ノミヲ報道シ
讀者ヲシテ如何ニモ帝國政府優柔不斷ノ感ヲ抱カシメツ
ツアリテ遠ク海外ニアルモノヲシテ帝國ノ前途ヲ思ヒ
轉々深憂ニ堪ヘサラシム歐洲群小諸國サヘ夙ニソノ態度
ヲ明ニセル今日三國同盟ノ主要國トシテ將亦昭和十一年
世界ニ卒先シテ防共協定ヲ締結セル帝國カ今日尙ソノ態
度ヲ明ニセサルコトハ帝國ノ名分及威信ノ爲誠ニ遺憾ニ
堪ヘサル所ナリ内政上ノ困難アルハ本使モ之ヲ諒トスル
所ニシテ貴大臣ノ苦衷又之ヲ察スルモ今ヤ既ニ論議ノ時
代ニアラス要ハ勇斷ニアリ速カニ我態度ヲ決定セラレタ
シ

本電陸海軍ニ傳ヘラレタシ

昭和16年6月30日

對ソ軍事行動の即時決断を要請するリッペン
トロップの松岡外相宛申入れ文書

オット獨逸大使の松岡大臣に傳達せるリ外相申入

(昭一六、六、三〇)

一、獨蘇間の戦争は單に局限せられたる個々の問題の解決を齎すに止まらずロシア問題全體の終局的解決を招來すへし

二、獨逸の軍事行動に依り蘇聯軍潰滅は比較的短時日の間に期待せられ右の結果獨逸の對英戦勝も亦不動の事實となるへし

若し獨逸が蘇聯の油田と穀物とを獲得せんか右に依り歐洲全體にとり充分の補給確保せらるる事となるへく其の結果は英國の封鎖も亦全く無意味となるへし尙其の際は東亞への陸路直接連絡も亦同様に恢復せらるへし

三、斯くて樞軸國の目的たる歐洲新秩序達成を可能ならしむる總ての前提條件備はることとなれり

四、日本にとりても亦現狀勢に依り唯一無二のチャンス與へ

られたる次第なり獨逸が歐洲の爲になしたると同様に日本は今や對蘇軍事行動に出つることにより其の企圖する東亞新秩序達成の諸條件を作り得へし東亞に於ける蘇聯の力を排除せば日本は其の希望通りに支那問題を解決することに付き最早何等の困難にも遭遇せざるへし

五、日本の利害關係の觀點よりすれば新嘉坡方面を含む南方進出の思想も亦現在及將來に亘り重要な意義を有するものなり然れども此の點に關しては日本は目下の所未た準備整ひ居らず且は又斯る進出の可能性は現在の戰爭段階に於ては未だ與へられ居らざるに依り現在日本に提供せられ居る露西亞問題の全面的解決の機會を極東に於ても亦利用すること日本の緊急の利益なり斯くて南方進出の際の背後は安全となるへし

六、事件は急速に終熄すべきものと期待せらるるに鑑み日本は躊躇せず對蘇軍事行動を起す決定を行ふべきなり蘇聯邦か既に一敗地に塗れたる後日本か行動を起すことは日本の道義的竝に政治的地位を著しく害すへし

七、蘇聯邦の急速なる敗北(殊に日本か東方より蘇聯打倒に参加せる場合の)は米國をして完全に孤立し且世界の最

(欄外記入)

も有力なる結合に對立する英國側に立ちて參戰することの全然無意味なることを確信せしむる最上の手段なりと考へらる

(欄外記入)

此の邊が「リ」の謀略的記述なり

~~~~~

287 昭和16年7月1日

ドイツ側に対し独ソ戦に対する日本の立場を説明したオーラル・ステートメント

Strictly Confidential

Oral Statement

Please convey the following to His Excellency Herrn von Ribbentrop:

I have duly noted Your Excellency's request made through Ambassador General Ott in Tokyo and Ambassador General Oshima in Berlin. I have taken particular care in studying the views set forth by Your

Excellency in approaching the Japanese Government with the request.

In reply, I take pleasure in stating that Japan is preparing for all possible eventualities as regards the U.S.S.R. in order to join forces with Germany in actively combating the communist menace. Japan is keenly watching developments of conditions in Eastern Siberia in particular, determined as she is to destroy the communist system established there. It is, I believe, hardly necessary to add that the augmentation of military preparations, among other things, with an eye to realizing this object, together with the aim of restraining the Soviet Russia at the Far Eastern end in her struggle with Germany is steadfastly kept in the mind of the Japanese Government. At the same time, I beg to state that the Japanese Government have decided to obtain points d'appui in French Indo-China which will enable Japan further to strengthen her pressure upon Great Britain and the U.S.A. through diplomatic means if possible but failing it by resort

to force even. In this connection, I would like to draw Your Excellency's attention to the fact that Japan has been keeping constant vigil in the Pacific including the South-Western Ocean with a view to restraining Great Britain and the U.S.A. She will continue to do so and intensify, when deemed necessary, measures calculated to check the moves on the part of the Anglo-Saxon Powers. I trust that Your Excellency is in full agreement with me that this really constitutes a vital contribution towards our common cause, indeed no less vital than Japan's intervention at this juncture in the German-Soviet war. Japan cannot and will not relax her efforts in the South which after all possesses a very important bearing upon the whole course of the war out of which I am most confident that Germany and Italy will soon emerge victoriously. I assure Your Excellency once again that the Japanese Government will not fail to act in accordance with the aims and spirit of the Tripartite Pact.

Tokyo, July 1st, 1941.

編注 本オーラル・ステートメントの内容は、七月二日、

在本邦オット独国外使へ伝えられた。

~~~~~

288 昭和16年7月1日

ソ連側に対し独ソ戦に対する日本の立場を説
明したオーラル・ステートメント

Strictly Confidential

Oral Statement

I take pleasure in informing Your Excellency that Japan necessarily feels deep concern with the German-Soviet war that has unfortunately broken out. To be frank, Japan finds herself in the most awkward position faced with the war between Germany and Italy, her allies, on one hand, and the U.S.S.R. on the other, with whom she has but recently begun to improve relations in sincere desire to promote and maintain good neighbourliness. Japan is, therefore, most anxious to see the termination of the

hostilities at the earliest possible date, earnestly wishing that it may at least be confined to regions not immediately adjacent to the Far East where she possesses vital interests.

The Japanese Government take this opportunity to state that they do not at present feel compelled to modify their policy towards the U.S.S.R. except to the extent of their natural desire not to give rise to misunderstandings to their allies. It is their sincere hope that they will be able to pursue a course of policy carefully calculated at once to serve their own interests and to preserve the spirit of mutual trust among the allies, while maintaining good relations with the U.S.S.R. I need hardly add that their Excellencies, Messieurs Stalin and Molotoff, may rest assured that I will do my best but that future developments will largely decide if the Japanese Government can consistently abide by this policy.

Tokyo, July 1st, 1941.

編注 本オーラル・ステートメントの内容は、七月二日、在本邦スメターニンソ連邦大使へ伝えられた。

289 昭和16年7月1日 在フィンランド昌谷(忠)公使より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ戦に対して採るべき立場につき意見具申

ヘルシンキ 7月1日後発
本省 7月4日前着

第一六一號(館長符號扱)

¹⁾ 今次獨蘇開戦ニ際シ帝國ノ態度ハ全世界ノ注目關心ヲ集メ居ルモノト思考セラル殊ニ對露關係ニ於テ宿年本邦ニ囑望シ居リタル芬蘭ニ於テ然リトス現ニ往電(脱)當國外相及政務局長ト會談ノ際モ劈頭右ノ質問ヲ受ケタルカ諸外國ニ於テモ同様ナリト想像セラル申ス迄モナク本問題ハ我カ國策ノ根本ニ關シ廟議既ニ確立シ居ルモノト拜察セラルル處現下世界各國トモ我カ國ノ動向ニ付揣摩臆測ヲ逞フシツツアル狀況ナルニ鑑ミ少クモ在外使臣ニ對シテハ其ノ心得迄ニ獨蘇戰爭ニ對スル帝國政府ノ方針大要御指示ヲ得ハ幸甚ト存ス尙僭越乍ラ卑見左ニ具申シ清鑑ヲ請フ

(2) 帝國現下ノ關心事ハ累次政府聲明ノ通り支那事變處理ト共ニ東亞新秩序ノ確立ヲ第一義トスルコト勿論ニシテ之カ爲ニ我國ハ世界ニ率先シ共產黨主義運動打倒ニ邁進シ居リ此ノ點今次獨蘇開戦ト其ノ趣旨ヲ一ニス然ルニ他面我國ハ更ニ實力ヲ貯ヘ置キ對支及英蘇援助ニ汲々タル米國ニ儼然睨ミヲ利カセ其ノ動向ヲ監視牽制シ以テ現戰爭ヲシテ世界戰爭ニ至ラシメサルノ使命ヲ有シ現ニ之アルカ爲ニ米國ノ參戰決意ヲ能ク制シ居ルモノト愚考セラル而シテ右ニ依リ帝國ハ既ニ實質上盟邦獨伊ト協同陣營ヲ張り現歐洲戰爭ニ於ケル樞軸國ノ作戦ニ寄與シ居ルコト大ナリト思料セララル

(3) 歐洲式國際の利己主義的理論ニ依レハ獨蘇開戦ニ乘シ日本ハ千載一遇ノ好機至レリトナシ直ニ立チテ沿海州ヲ占領シ進シテ「バイカル」湖ニ進軍シ獅子ノ分前ニ與ルノ賢明ナルヲ説ク者アルヘシト雖右ハ支那事變及米國ノ動向ヲ度外視セル僻論ニシテ斯ル場合我國ハ腹背ニ敵ヲ受ケ東西南北ニ國力ヲ割クコトトナリ支那事變ノ處理ニ支障ヲ來ラシニ兎ヲ追フ者一兎ヲ得サルノ悔ヲ貽スニ至ルナキヤヲ惧ル

(4) 如上我國ハ反共產協定ニ對シテハ本來同主義ニ基因シ發足シタル支那事變ノ處理ニ全力ヲ傾注シツツアリ又三國同盟

ニ對シテハ米國牽制ニ依リ其ノ義務ヲ充分ニ履行シ居レリ仍テ此ノ際益國力ノ充實ヲ計リ國際間親善ヲ計ルト共ニ一旦萬已ムヲ得サルノ際ニハ決然立チテ所信ヲ貫徹スルノ用意アルヲ緊要トス獨蘇戰爭ハ早晚獨逸ノ必勝ニ終ルヘキハ豫想セラルル所ニシテ蘇聯邦ノ運命又知ルヘキノミ我對蘇政策遂行ハ自ラ容易ナルヘク漸次東歐形勢ノ推移ヲ見届ケタル上適當ノ機會ヲ待ツコト賢明ノ策ナリト愚考ス

燕雀ノ微聲幸ヒ御叱責ヲ請フ

290 昭和16年7月2日

在滿州國梅津大使より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ開戦後における滿州方面の情勢報告

新 京 7月2日後發
本 省 7月2日夜着

第四〇三號(極秘、館長符號扱)

本使發英、米、南大宛電報

合第一四〇號

滿蘇時局情報

獨蘇開戦後ニ於ケル當方面ノ情勢左ノ通り

一、蘇聯邦ハ從來極東赤軍ノ一部ヲ逐次西方ニ輸送シツツアリタルカ獨蘇開戦ト共ニ極東ニ對シ第一戰備(隨時作戰行動ヲ爲シ得ル體制)ヲ布キタルモノノ如ク目下飛行機増強、燈火管制實施、「トーチカ」ノ銃眼開口、大砲、高射砲「トラクター」ノ第一線進出、我方ニ對スル偵察竝ニ警備艇ニ依ル警備強化、「トーチカ」竝ニ野戰陣地構築開始、野營部隊機關砲大隊「ノモンハン」事件當時ト同程度ノ防禦體制ヲ執ルト共ニ對滿謀略工作ヲ強化セルモノノ如シ但シ未タ特ニ極東赤軍増強ノ形跡ヲ認メス

二、「ノモンハン」地區滿蒙國境確定現地作業ハ豫定通り極メテ順調ニ進捗シ近ク妥結ヲ見ル豫定ナルカ外蒙側態度ハ友好的且妥協的ナリ

三、在哈爾賓蘇聯邦總領事館員家族五十九名竝ニ在滿州里蘇聯邦領事館員家族竝ニ在留民家族七、八十名三日頃本國ニ引揚クルコトナレリ

本電宛先、獨、伊、米、北京、上海、南京

大臣ヘ轉電セリ

大臣ヨリ佛ヘ轉電アリ度シ

佛ヨリ獨、伊ヘ轉電アリタシ

291

昭和16年7月2日

在独国大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ戦況を説明し日本の協力の必要性をリッ

ベントロップ強調について

ベルリン 7月2日後発

本省 7月3日後着

第八二五號(極秘、館長符號)

昨一日在東「プロシア」大本營ニ飛行シ「リ」外相ト會見シ本二日午後伯林ニ歸來セリ會談要旨左ノ如シ

一、一日朝電話ニテ貴大使ニ御話申上ケタル如ク此ノ世界史的ノ重大事件ニ際シ自分(リ)ノ衷情ヲ松岡大臣ニ御傳ヘシ度キコト急ヲ要スル爲今朝「オット」大使ニ訓電シ即刻傳達セシメルコトト致シタル次第ニシテ電報ノミニテハ意ヲ盡ササルヲ以テ大本營迄御出ヲ願ヒ直接貴大使ニ御話申上ケル次第ナリ

二、獨逸ノ攻撃開始ヲ蘇聯、英米等ハ挑戰ナリト宣傳シアリ事實ヲ申上クレハ蘇聯ハ直ニ獨逸軍ニ向ヒテ攻撃ニハ出テサリシナランモ全力ヲ西方國境ニ集中シ先ツ芬蘭及羅馬尼亞ヲ攻撃スルモノト判斷セラレ又獨逸ノ對英攻撃ノ中

二獨逸軍ニ對シ武力ヲ行使スル惧モアリシヲ以テ自衛上
蘇聯ノ機先ヲ制シテ行ヒタル戰爭ニシテ決シテ無名ノ師
ヲ起シタルニアラス蘇聯カ如何ニ戰爭準備ヲ整ヘアリタ
ルカハ今迄ノ對蘇作戰經過又從來ノ戰爭ノ模様ヲ御覽ニ
ナレハ明瞭トナルヘシ

三、既ニ對蘇戰ヲ始メタル以上「ヒ」總統ハ世界ノ平和ト正
義ヲ維持スル爲蘇聯内ニ「ボルシエビズム」ノ一個ノ細
胞ヲモ殘ササル如ク全露西亞ヲ肅清スル固キ決意ヲ有ス
一九三五年防共協定交渉以來共產蘇聯ノ存在ニ同一ノ關
心ヲ示シアル日本ノ助力ヲ希望スルコトハ特ニ切實ナル
モノアリ獨逸トシテハ歐露ニ於テ蘇聯ヲ多數ノ弱小國ニ
分裂セシムヘク日本モ極東ニ於テ同様ノ方法ヲ執ラルル
ヲ可ト信スルノミナラス又蘇聯擊滅後日獨兩國ハ速ニ西
伯利鐵道ニ依ル聯絡ヲ恢復シ且空路ヲ設立スルコトヲ爲
ササルヘカラス從テ以上ノコトヲ實行スル爲ニハ日本ノ
協同ナクシテハ實現シ得サルナリ

四、對蘇戰ノ經過ハ一部ハ既ニ發表セルモ蘇軍中其ノ核心タ
ルヘキ優良師團ノ大部分ハ既ニ之ヲ擊滅シ或ハ目下之ヲ
包圍中ニシテ近ク之ヲ完全ニ擊滅スヘク戰車ハ殆ント其

ノ大分ヲ鹵獲シ或ハ破壊シ飛行機ノ破壊數モ四、〇〇〇
ヲ超エ最高統帥部ノ作戰指導及下級指揮官ノ戰鬪指揮モ
驚クヘキ拙劣ニテ今後ノ兵站路ハ長クナルモ戰爭經過ハ
寧口今迄ヨリモ一層迅速トナルヘシ

蘇軍モ世人ノ唱フル退避作戰ヲ最早ヤ行ヒ得サルヘク戰
爭ハ極メテ短時日ニ片付クヘシ依テ本使ヨリ何時頃迄カ
カル御見込ナリヤト質問セル處「リ」ハ戰爭ノコト故明
白ニハ申上ケ兼ヌルモ後六週間乃至八週間ニテ「ウラ
ル」以西ノ蘇軍ヲ殲滅シ得ヘシト考ヘアリト答ヘタリ

五、「リ」ハ中立條約カ日本ノ參戰ヲ困難ナラシメアルニア
ラスヤト質シタルヲ以テ本使ハ帝國政府ノ方針ハ未タ存
セサルモ中立條約ハ獨蘇兩國カ戰爭ヲ爲サス友好關係ニ
在ルコトヲ前提トシ成立セルモノナレハ最早ヤ今日トナ
リテハ右條約ノ爲ニ日本カ參戰ヲ躊躇スルカ如キコトハ
アリ得スト信スト答ヘ置ケリ

六、尙本使ヨリ日本ノ態度ニ關シテハ既ニ貴大臣(「リ」)ニ御
知ラセ置キタル如ク松岡外相ヨリ近ク決定ノ通知アリ獨
逸側ニ於テハ早目ニ獨蘇戰ノコトヲ本使ニ御洩ラシ下サ
レタルコトトテ或ハ日本ノ態度決定遲シトノ感ヲ抱カル

ルヤモ知レサルモ獨逸ノ此ノ重大ナル企圖ヲ祕密ニスル爲最後の決定迄ニ事ヲ運ヒ得ス又日本トシテハ此ノ重大ナル情勢ノ變轉ニ際シ日本ノ當面スル南方問題、支那事變處理等一切ノ問題ヲ綜合シテ方針ヲ樹テサルヘカラサルヲ以テ若干ノ時日ヲ要スルコトハ當然ニシテ又獨逸カ戰勝スルコトハ貴大臣ノ好意ニ依リ送付セラルル戰況及之ニ基ク當方ノ研究ノ結果之ヲ疑フモノナク獨蘇戰ノ經過ヲ觀望シ居ル等ノコトハ絶對ニナキコトヲ信セラレ度シト述ヘ置ケリ

七、惟フニ「リ」カ今回貴大臣ニ「メッセージ」ヲ送り更ニ本使ノ來訪ヲ求メタルハ同人カ當時國內ノ反對ヲ排シ率先シテ防共協定ヲ結ヒ更ニ三國同盟ノ締結ヲ行ヒ對日提携政策ヲ實行シ來レルニ拘ラス對蘇戰爭發生セル今日日本カ一ツモ彼ニ協力セサルカ如キコトナリテハ「リ」ノ「ヒ」總統ニ對スル責任竝國民ニ對スル立場上苦境ニ陥ルコトアルヘキヲ慮リタルモノニシテ「リ」モ若干焦慮シ居ルヤニ認メラレタリ

292

昭和16年7月2日

在独国大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ戦決着後の対英決戦遂行をリッペント

ロップ言明について

ベルリン 7月2日後発

本省 7月3日後着

第八二六號(極秘、館長符號)

往電第八二五號會見ノ際本使ヨリ對英決戦ノ時期ニ關シ質問セルニ「リ」外相ハ既ニ御話申上ケタル如ク潜水艦戰及一部ノ空中攻撃ハ續イテ實施シ居リ獨「ソ」戰カ片付カハ直ニ大規模ニ之ヲ實行ス即チ獨逸ハ其ノ空軍ノ全力竝ニ獨逸國民ノ總力ヲ之ニ傾倒シ最後ノ勝利ヲ獲得スルコトニ努力致スヘク既ニ屢々申上ケタル通り對英妥協ノ如キハ絶對ニ行フ意圖ナシト明言セリ

293

昭和16年7月3日

在ソ連邦建川大使より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ開戦に伴う日ソ間の相互引揚げを考慮し

外国人の出国査証制実施方具申

モスクワ 7月3日後発
本省 7月4日前着

第八三九號(館長符號扱)

我方ニハ現在外國人ノ出國ニ對スル査證制ナキ處今後事態ノ推移ニ依リ日蘇兩國外交官其他交換引揚等ノ必要生スル場合ヲ考慮スル時今回ノ獨伊等ノ如ク引揚ケ蘇聯人ノ方カ多數ナルカ又ハ同數ノ場合ハ問題ナカルヘキモ蘇聯人ノ少ナキ場合ハ先方ヨリ同數主義ヲ主張スル等種々故障ナキヲ保セサルニ付此際ニ於ケル蘇聯人ノ本邦引揚ヲ監視シ必要アレハ我方在留者數ト睨合セ或ル程度調節スル様(在滿大使發閣下宛電報第四〇二號)此際至急外國人ニ對スル出國査證制ヲ設ケラルルコト機宜ノ處置ト存スルニ付右至急御考慮相煩度シ

294 昭和16年7月4日 在ソ連邦建川大使より
松岡外務大臣宛(電報)

ソ連の敗色は濃厚との情勢判断報告

モスクワ 7月4日後発
本省 7月5日後着

第八四八號⁺
獨ソ戦情勢判断

一、ソ軍ハソノ戰鬪力獨軍ニ劣ルヲ無視シ主力ヲ獨洪羅國境線近ク展開シ「ビエロストツク」「レンベルグ」地域ニ於テハ特ニ凹角内ニ突入シ在リタルカ爲獨軍航空部隊及機械部隊ノ急襲ヲ容易ナラシメタルコト今回ノ大敗戰ノ端緒ヲ爲スモノナル處ソ軍カ何故ニカカル攻勢的決戰的配備ヲトリタルヤ解シ難キカ一昨年ノ獨波戰後獨乙ハ西方佛英軍ト決戰ヲ行フ要アリ深ク東方ヲ顧ミ得サルモノト爲シ形勢變轉ニ應シ得ンカ爲新國境方面ニ兵力ヲ進メテ陣地ヲ構築セルモノト推測ス昨夏以來獨軍ハ逐次兵力ヲ東方國境ニ集中シ本春ニハ既ニソ軍ニ比シ優勢トナリタルニ拘ハラソソ軍首脳部ハ其ノ配備ヲ持久戰的ニ變換スルヲ怠リ隨所ニ突破セラレ挽回シ難キ混亂ニ陥リタルモノト推測ス

二、獨軍ハ今ヤ中央「ミンスク」正面ニ於テハ被包圍部隊ノ處理ニ忙殺サレ居ルカ如キモ「バルチツク」正面及「ウクライナ」正面ニ於テ急迫續行中ニシテ「レニングラー」ハ間モ無ク側背ノ脅威ヲ感スヘク「キエフ」正面ニ

於テハ獨軍ハ既ニ「ドニエストル」河ノ橋梁爆破中ト傳
ヘラレ居ルヲ以テ此方面ノソ軍モ退却線ノ指導甚シク困
難ニ陥ルヘキヲ予想セラル

三、中央正面ニ於テソ軍カ「スモレンスク」附近ノ新陣地ニ
於テ有效ニ獨軍ヲ拒止シ得ヘキカハ一二後方ヨリ同陣地
線ニ充テ得ヘキ兵力ト速度ニ關スヘク今ヤ全力ヲ擧ケテ
對處中ナルヘキカ此ノ線ニ於テ破レンカ莫斯科ノ運命全
ク迫レリト言フヘク又「バルチック」ヲ長驅中ノ獨軍及
「カレリア」地峽攻略中ノ獨芬軍ハ「レニングラード」
占領後ハ「ボルガ」河上流地域ヲ經テ直路「キーロフ」
方面ニ前進シ次テ主力軍ノ「ボルガ」渡河ヲ容易ナラシ
ムヘシト推測セラル

四、ソ聯政府國民トモ士氣沮喪ノ徵歷然タリ昨三日ノ「スタ
ーリン」ノ國民ニ訴ヘタル演説ノ如キモ鄭重ニシテ何等
氣魄ノ見ルヘキナク既ニ生活資源ノ燒却ヲ懲洩セル等防
戰ノ自信ヲ失ヒツツアルヲ曝露シ人民亦戰意ニ乏シク何
等愛國の熱情ノ發露ナク應召兵ノ如キ大部分ハ支那苦力
ニ劣ル服裝ヲ爲シ意氣消沈默默低頭互ニ語ル氣力ナク況
ンヤ愛國軍歌ノ高唱モナク屠所ニ引カル羊ノ感ナキ能

ハスは露人特有ノ愚鈍性ニ依ル所多カルヘキモ亦以テ勝
利ノ信念ヲ缺キ戰爭ニ對スル嫌惡恐怖ヲ表徴スルモノト
言ヒ得ヘク敗戦色甚タ濃厚ニシテ莫斯科陥落ノ如キ今ヤ
時機ノ問題タルノ感ナキ能ハス

295

昭和16年7月4日

在ソ連邦建川大使より
松岡外務大臣宛(電報)

モスクワ所在のソ連政府部官庁が撤退開始と
の風説について

モスクワ 7月4日後発
本省 7月5日前着

第八五〇號

當地部官廳ハ撤退ヲ開始セル旨噂セラルル處外務部ニ於テ
ハ數日前ヨリ各階段ニ木箱ヲ用意シアリ四日宮川ノ會見セ
ル極東部長ノ如キハ甚タシク落付ヲ缺キ居タル趣ナリ

296

昭和16年7月4日

在ソ連邦建川大使より
松岡外務大臣宛(電報)

ロシアに新政権が樹立された場合におけるス

タリーン政権との関係につき対処方針指示方

請訓

モスクワ 7月4日後発

本省 7月5日後着

第八五四號

一、此度御決定ノ國策ハ全ク同感ニシテ欣快ニ堪ヘス

二、ソ軍「スモレンスク」附近ニ於テ敗レンカ政府東遷ノ問題生スヘク一般ニ「スウエルドロフスク」ト稱セラレ居

ルモ獨ノ最左翼軍及獨芬軍ノ戰果如何ニ依リテハ更ニ南方ニ之ヲ選ハサルヲ得サルニアラサルカ獨軍ハ急速ナル

追撃ヲ續ケ九月末迄ニ「ウラル」ノ線ニ到達シ茲ニ作

戰一段落ヲ終結シ歐露ノ新建設ニ従事スヘク「スターリン」政府ニシテ「ウラル」ヲ固守シ得ル場合ニハ相當ノ

威力ヲ有スヘキカ一度「オムスク」附近ニ移ランカ未開

發貧弱ナル人的資源ヲ擁シ餘喘ヲ保ツニスキサルヘ

シ

三、我軍カ東部シベリアニ働キカケ得ルハ明春ノコトト推察

セラルル處此度ノ決定國策ニテハ最後ノ時機迄「スター

リン」政權トノ間ニ外交交渉ヲ續ケラルル御考ナルヤニ

拜セラルル處豫想セラルルカ如ク獨カ歐露ニ政權ヲ樹立

スルトスレハ寧口之ト交渉シテ極東露領問題ノ解決ヲ計

ルカ然ラストスルモ勝手ニ辭柄ヲ設ケテ行動スルコトモ

難ナキコトト想像セラレ敗戰無援ノ「スターリン」政權

ノ如キ齒牙ニ懸ケサルヲ可トスルヤニ考ヘラル

四、ソ政府カ如何ナル狀態ニテ東方ニ移ルヤハ想像シ難キカ

米大使ノ如キハ混亂狀態ニ陥リ置去リヲ喰ヒハセヌカト

其點許リヲ憂慮シアリ本使ハ其ノ時ノ狀況ニヨリ同行ス

ルヤ當地ニ留マルヘキヤヲ決スル考ナルカ若シ貴大臣ニ

於テ將來ノ爲萬難ヲ排シテモ「スターリン」政府ニ隨行

スル必要アリト認メラルルニ於テハ豫メ用意ヲ要スヘキ

ニ付御回訓相成度シ

五、本意見ハ稍過早ノ感ナキ能ハサルモ獨軍既ニ「ベレジ

ナ」河ヲ渡河前進中ナリト報シ形勢ノ變轉測リ難キニ付

申上タル次第ナリ

編注 昭和十六年七月二日付御前會議決定「情勢の推移に伴

う帝國國策要綱」(日本外交文書 日米交渉—一九四

一年—)上巻第86文書。

297

昭和16年7月5日
在独国大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

在本邦ポーランド大使館の引揚げ実施を独側

要請について

ベルリン 7月5日後発
本省 7月7日前着

第八四五號

往電第八四四號「ウエアマン」加瀬會見ノ際「ウエ」ハ加瀬ニ對シ日本ニハ今猶波蘭大使館アリ和蘭ハ日本側ニ色々御都合アルコトト存スルヲ以テ敢テ問題ニハ致ササルモ波蘭ノ方ハ是非共引揚ケラレタシト懇談的ニ申出タル趣ナルカ右ハ尤ノ次第ニテ特ニ獨蘇開戦ノ結果ニモ鑑ミナルヘク速ニ御措置相成度シ

298

昭和16年7月8日
在ソ連邦建川大使より
松岡外務大臣宛(電報)

独ソ戦につき在ソ連邦スタインハート米国大

使と意見交換について

モスクワ 7月8日後発
本省 7月9日前着

第八七七號(館長符號扱)

本八日「スタインハート」ト會談セシカ彼ハ「ヒツトラ」此ノ度ノ蘇聯攻撃ハ全戦争失敗ノ端緒ヲナスモノニシテ戦ニ勝ツモ臆テハ持久戦ニ陥リ東西ニ確タル戦果ヲ得ルコトナク其ノ間米ノ援助ニ依リ立直ル英ニ破ル所トナルヘキヲ力説シタル上松岡大臣ニハ此ノ際三國同盟ヨリ脱退スル意圖アリヤト問ヘルヲ以テ何等知ル所ナキカ將來ノコトハ知ラス今直ニ脱退等ハ國家的名譽上出來モスマイ又遣リモスマイト答ヘタリ次テ本使ヨリ獨蘇戦テ日米ノ關係力大ニ緩和スヘシト申セルニ日米戦争ハ今ヤ免レタリ日獨連絡斷タレタル今^{(二)字未明}其ノ惧ハナクナレリト大ニ満悦ノ表情ヲ爲シタリ次テ彼ノ求メニ應シ本使一流ノ獨逸ノ對蘇作戦豫想ヲ一クサリ説キ聞カセ冬季前ニ獨軍「ウラル」ト蘇「イラン」國境ニ達セハ事實蘇聯ハ崩壊ノ外ナシトノ意見ヲ彼ハ傾聽セリ何等御參考迄ニ

昭和16年7月10日 松岡外務大臣より
在独国外務大臣宛(電報)

諸般の情勢により在本邦ポーランド大使館の
引揚げ実施は保留中である旨オット大使へ通
報について

本省 7月10日後5時30分發

第六二六號(館長符號扱)
貴電第八四五號ニ關シ

當方ニ於テモ在京波蘭大使館ノ引揚方手配中ナリシモ本大臣ニ於テ諸般ノ狀勢ヲ考慮シ暫ク時期ヲ待ツ事適當ト認メ之ガ即行ヲ差控ヘ居ル次第ニテ右ニ付テハ八日本大臣ヨリ「オット」大使ニモ通報ズミナリ

昭和16年7月12日 松岡外務大臣
在本邦スメターニンソ連邦大使 會談

日ソ中立條約の有効性をめぐる松岡外相とス
メターニン大使との會談要旨

松岡大臣「スメタニン」「ソ」聯大使會談要旨

昭和十六年七月十二日自午後四時至同五時四十五分

於千駄谷大臣私邸

先方 「ザブローヂン」二等書記官帶同

當方 加瀬祕書官同席 野口通譯官通譯ス

獨「ソ」戰ト日本ノ對「ソ」態度ニ關スル件

(七月十日「スメタニン」大使ヨリ會見方申出アリタルモ大臣ハ翌十一日午後二時ニ會ハルヘキ旨竝ニ急用ナラハ次官ト會見セラレ度キ旨回答セルニ問題重要ナレハ直接大臣ニ申上度シト申越セリ、七月十一日大臣ハ病氣ニテ會談出來ス十二日ニ至リ先方ハ已ムヲ得サレハ次官ト御會ヒシ度シト申出テ同日一時會見ノ打合せ出來タルモ急ニ之ヲ變更シ午後四時ヨリ大臣自ラ私邸ニ於テ「ス」大使ヲ引見スルコトトセラレ)

「スメタニン」大使 御病氣中ヲ押シテ御會ヒ下サレ感謝ニ堪ヘス實ハ先般來大臣閣下カ英米大使等ニ「日」「ソ」中立條約ハ法律的效力ヲ有セス日本ハ之ヲ履行スルノ義務ナシ」ト申サレタル由ニテ自分ハ最近ハ之二付「クレーギー」大使ヨリ聞及ヒタルカ誠ニ意外ノ感ニ打ラレタ

リ依テ其ノ眞否ヲ直接伺ヒ度ク早速御會ヒ下サル様御願
ヒシタル次第ナルカ本日迄其ノ機ヲ得サリシハ遺憾ナリ
自分竝ニ「ソ」政府ハ日「ソ」中立條約ハ條文コソ短カ
ケレ其ノ規定スルトコロハ明確ニシテ兩國ノ負擔セル義
務ニハ何等例外ナキ譯ナリ

大臣 正シク其ノ通りニシテ自分ハ「クレーギー」大使ニ
對シ現戰爭ニハ中立條約ハ適用ナシト言ヘリ之ニ對スル
自分ノ態度ハ當初ヨリ一貫シテ居リ「スターリン」「モ
ロトフ」モヨク了解シ居ル筈ナリ

「ス」大使 「ソ」政府ニ於テハ日本カ中立條約ヲ侵ストセ
ハ夫ハ何等根據ナキコトニシテ且怪シカラヌコトナリト
考ヘ居レリ

自分ハ「クレーギー」大使ヨリ閣下ノ談ナルモノヲ聞キ
驚愕シタル次第ナルカ先ツ政府ニ報告スルニ先チ大臣閣
下ノ御説明ヲ得テ確メ度シト考フ

大臣 貴使ハ意外ナリト言ハレルモ自分ニトリテハ貴使ノ
言ハ一層意外ナリ自分ハ獨「ソ」戰開始直後ノ貴使トノ
會談ノ内容ノ要點ト七月二日ノ口頭陳述ノ大略ヲ話シタ
ル迄ニテ日本ノ立場ハ右兩度ノ會見ニ於テ自分ノ述ヘタ

ルトコロト何等喰ヒ違ヒナシ自分ハ又「グルー」大使ニ
對シテモ自分自身ノ意向トシテハ只今ノトコロ日本ハ中
立條約ニモ亦三國同盟ニモ拘束サレヌ日本獨自ノ政策ニ
依リ現下ノ政局ニ處シ行クツモリナリ只幾度モ述ヘタル
通り三國同盟ハ我カ國外交ノ基調ナレハ日本トシテハ其
ノ目的及精神ハ守ル必要アリ之ニ付テハ既ニ前回ノ會
談ニ於テ貴大使ニモ御話シセリ「ソ」獨戰爭ノ如キハ中
立條約交渉當時互ニ豫想セサリシトコロニシテ「スター
リン」「モロトフ」兩氏モ全ク之ヲ考慮ニ入レ居ラレサ
リシコトハ明瞭ナリ此ノ點ニ付テハ自分ハ「モスコ」
ヨリ歸着後直ニ政府ニモ報告シ、又四月二十二日ノ國民
ニ對スル挨拶ニ於テモ明瞭ニ述ヘアリ之ニ付テハ既ニ貴
使ヨリ貴國政府ニ御報告濟ト考ヘラルル處今日迄貴方ヨ
リ何等苦情ノ申出モナカリシヲ以テ自分トシテハ「ス」
「モ」兩氏ト自分トノ話ニ誤解ナカリシヲ欣快ナリト考
ヘ居タル次第ナリ

「ス」大使 自分ハ英大使竝ニ米大使館員ヨリ聞込メル貴
大臣ノ御話ナルモノカ眞實ナリヤ否ヲ「ハツキリ」伺ヒ
度シ

大臣 自分ハ日「ソ」中立條約ハ現戰爭ニハ適用ナキモノナリト考フ此ノ點ニ付テハ「ス」「モ」兩氏ニ於テモ當時誤解ナカリシ譯ニテ日本カ外交ノ基調タル三國同盟ニ抵觸スルカ如キ約束ヲセハ「ダブルクローズ」スルコトトナルヘシ

「ス」大使 前二回ノ會談ニ於テ閣下ハ、中立、同盟兩條約共互ニ獨立シ影響スルトコロナシト言ハレタルカ本日ハ「日本ハ其ノ何レニモ拘束サレル」ト言ハレタリ右ニハ如何ナル差異アリヤ誤解ナキ様御説明アリ度シ

大臣 何等喰ヒ違ヒナシ二十四日會談ノ記錄モアレハ之ヲ御見セスルモヨシ併シテ二十四日ノ會談ニテヨク了解濟ト思ハレタルニ付七月二日ノ口頭陳述ニハワザト中立條約ニ觸レサリシ次第ナリ

今茲ニ講論スルモ限りナカルヘク要ハ現下ノ局面ニ直面シ實際問題トシテ之ヲ如何ニ處理スヘキカニ在リ
獨逸人ハ法律的ナルカ三國同盟條約ノ如キ日本ニ參戰ノ義務アリトモ解釋セラレサルニアラサルヘキモ獨逸ハ未タニ之ヲ求ムルコトナク、又將來モ求ムルコトナシト自分ハ考ヘ居ル次第ナリ故ニ貴國ニ對シテモ對英米關係等

ニ付細心ノ注意ヲ爲シ日本ヲシテ七月二日自分ノ述ヘタルカ如キ政策ヲ遂行スルコトヲ容易ナラシムル様協力アラシムコトヲ希望ス

實ハ新聞ノ報スルトコロニ依レハ「ソ」政府ハ「カムチヤトカ」等ニ於テ米國ニ軍事基地ヲ與フル交渉ヲ爲シ居ル趣ニテ又別ノ機密ノ報道ニ依レハ英國ノ將校連カ西伯利ヘ派遣セラルルトカ傳ヘラレ居リ斯カル報道ハ我方ヲ刺戟シテ誠ニ困ツタモノナリ

「ス」大使 前回閣下ハ自分ニ對シ風説ニ耳ヲ藉ササル様勸告セラレタルカ閣下ニ於カレテモ斯カル報道ヲ信セス公ノ報道ニ依ラレンコトヲ希望ス

大臣 カカルコトニ付テハ打消サルレハ打消ス丈ケ我國民ハ猜疑ノ念ヲ深クス又之ニハ多少ノ眞實性モアルナラン「ス」大使 率直ニ問ハシ、中立條約ハ效力ヲ有スルヤ又本日日本政府ハ三國同盟ニモ中立條約ニモ拘束セラレサル政策ト言ハレタルハ此ノ二ツノ條約ヲ破棄スルコトヲ意味スルヤ

大臣 兩條約共ニ有效ナリ只目下ノトコロ今次戰爭ニ關スル限り中立條約ハ適用セラレスト言フニ在リ英米大使ニ

話シタルトコロハ簡單ニテ貴使トノ話以上ニ出ツル筈ナシ本日述ヘタルトコロハ重要ナレハ祕書官ヲシテ書キ止メシメ爲念送付スヘシ

(以上)

(七月十三日夜野口通譯官ヨリ「ザブローゲン」書記官ニ對シ別添書物及四月二十二日ノ談話ヲ收録セル松岡大臣演說集一部ヲ交付ス)

(別添)

一、日「ソ」中立條約ハ本條約締結當時ノ事情ニ鑑ミ獨「ソ」戰爭ニハ適用ナキモ勿論有效ナリ即チ日本ハ三國同盟ノ目的及精神ヲ尊重スヘク其範圍内ニ於テ之ト牴觸セサル限り有效ナリトノ謂ナリ又「ソ」聯我我同盟國以外ノ國ト戰爭スル際ハ無條件ニ有效ナリ

二、獨蘇戰爭ニ關シ今日迄ノ所獨伊孰レヨリモ三國條約ニ基キ日本ノ參戰ヲ要求シ來リ居ラス本大臣限りノ豫想トシテ將來モ同條約ニ依リ參加ノ申入ヲナシ來ラスト想フ
三、要之本戰爭ニ關スル限り現在ハ日本ハ日「ソ」中立條約ニモ日獨伊三國條約ニモ拘束セラレス自由ノ立場ニ於テ

獨自ノ政策ヲ決定シ得ル立場ニアリト本大臣ハ信スルモノナリ

301 昭和16年7月16日

在独国大島大使より
松岡外務大臣宛(電報)

三国同盟に基づくわが方態度の明確化をヒト
ラー希望について

ベルリン 7月16日後発

本省 7月17日前着

第九〇六號

(十四日夜「ケーニヒスベルグ」ニ於テ)

本十四日朝大本營ニ飛行シ先ツ「リ」外相ト次テ「ヒ」總統ト會見シ兩者ヲ通シ五時間ニ亘リ卒直ニ意見ヲ交換セリ特ニ「ヒ」總統ハ貴大臣御承知ノ如ク精神的ノ人ナレハ獨乙ノ利益ノミヨリスル日本ノ協力ヲ強要スル氣配ナキモ米蘇カ長キ將來ニ亘リ日獨共同ノ敵タルノ信念ヨリ三國同盟ヲ基礎トスル日本ノ明確ナル態度ヲ希望シ帝國ノ態度特ニ日米交渉繼續ニ關シ多大ノ不滿ヲ有シアルコトヲ確認セリ是レ「ヒ」カ精神的ニ高ク日本ヲ買ヒアルニ依ル爲ナルヘ

ク現状ニテ進マハ三國同盟ハ必ス骨抜キトナルヘク現歐洲
戰爭終結後帝國カ如何ニ本同盟ヲ利用セントスルモ無効ナ
ルコト疑ヲ容レス本使ハ獨乙ヨリ脅カサレアリトハ思ハス
又獨乙ノ鼻息ヲ窺ヒアラス若シ帝國政府ニシテ三國同盟ノ
效果ヲ從屬的トセラルルナラハ兎毛角之ヲ我外交ノ基調ト
セラルルナラハ我執ルヘキ態度ニ關シ大ナル反省ヲ要スヘ
ク之ハ決シテ誇張ノ言ニアラス本使カ全責任ヲ以テ具申ス
ル所ニシテ之ヲ信用セラレタシ

302

昭和16年7月18日

在独国大島大使より
豊田(貞次郎)外務大臣宛(電報)

ヒトラーおよびリッペントロップと会谈について

別電一 昭和十六年七月十八日發在独国大島大使より

豊田外務大臣宛第九二〇号

松岡外相メッセージに対するリッペントロップ

プ見解

二 昭和十六年七月十八日發在独国大島大使より

豊田外務大臣宛第九二一号

独ソ戦への協力および日米交渉の中止を求め

るリッペントロップ發言

三 昭和十六年七月十八日發在独国大島大使より

豊田外務大臣宛第九二二号

独軍部内の不満を伝えるリッペントロップ發

言

四 昭和十六年七月十九日發在独国大島大使より

豊田外務大臣宛第九二三号

英独妥協説に対するリッペントロップ見解

五 昭和十六年七月十九日發在独国大島大使より

豊田外務大臣宛第九二四号

独ソ戦況および対米關係等に関するヒトラー

發言

ベルリン 7月18日後發

本省 7月20日前着

第九一八號

往電第八九九號ニ關シ(大島大使東部戰線視察ノ件)

十四日大本營ニ於テ「リ」外相トハ晝食ヲ共ニシ約三時間

次テ「ヒ」總統ト約二時間半ニ亘リ會談セリ詳細別電第九

二〇號、九二一號、九二二號、九二三號、九二四號ノ通

(別電一)

ベルリン 7月18日後発

本省 7月19日後着

第九二〇號

貴電第六三七號ニ關シ(「リ」)外相宛松岡大臣「メッセー
ジ」

十四日「リ」ト會談ノ際貴大臣ノ「メッセージ」(電注)獨譯ヲ手
交セル處「リ」ハ左記ニ點ヲ指摘セリ

(一)第四項末段貴大臣カ蘇聯ノ處分問題ニ關シ全然同意見ナ
リトノ點ニ關シ實ハ自分(「リ」)ハ松岡外相ニ獨蘇ノ關係
惡化シ何時戰ニナルヤモ知レスト云フコトヲ申上ケタリ
(之ハ會談記録ヲ調ヘタルモ確カナリ)一國ノ外務大臣カ
之丈ノコトヲ申上ケレハ戰爭カ確實ニ起ルヘシト推察セ
ラルルモノト信シ居リタルニ莫斯科ニ於テ中立條約ニ調
印セラレタリ自分(「リ」)ハ此ノ條約ノ爲日本カ對蘇戰ニ
參加スルヲ困難ナラシメ居ルニ非スヤト考ヘ居ル旨述ヘ
タルニ依リ本使ハ中立條約カ參戰ヲ困難ナラシメ居ルモ
ノトハ考ヘ居ラス勿論之ヲ欲セサルモノカ此ノ條約ヲ引

用シ大國ノ面目上「インキ」ノ乾カサル内ニ之ヲ破棄ス
ルワケニハ行カスト主張セルモノアルヘキカ之ハ大シテ
問題ニナラス日本カ現在ノ態度ニアルハ之ニ依リ同盟ノ
義務ヲ遂行スルコトカ日獨兩國ノ爲有利ナリト思考シア
ルニ依ルヘシト答ヘ置キタリ

(二)次テ「リ」ハ貴大臣「メッセージ」第五項ニ關シ自分
(「リ」)ハ先般伯林會議ノ際松岡大臣ニ對シ若シ日獨伊三
國カ堅キ結合ヲナシ居レハ米國ノ參戰ハ實現セサルヘシ
トノ意見ヲ申シ上ケタルコトヲ記憶シ居レリ然レ共日本
カ米國ト交渉ヲ開始スルコトトモナレハ米國ハ恐ラク日
本ハ何等カ弱點ヲ有シアルモノト思ヒ大西洋ニ一層強ク
進出スルコトハ當然ニシテ實ハ自分(「リ」)ハ米ノ「アイ
スランド」占領ノ如キモ卒直ニ申上ケレハ日米交渉カ禍
ヲ爲シ居ルニアラスヤト考ヘアル次第ナリト述ヘタルヲ
以テ本使ハ御承知ノ如ク本使ハ日米交渉ニ付テハ何等帝
國政府ヨリ通知ヲ受ケ居ラス貴大臣ノ好意ニ依リ「オツ
ト」大使ノ電報ヲ拜見シ知り居ル以外何等日本ノ對米外
交ヲ承知シ居ラサルヲ以テ説明致ス立場ニアラサルモ唯
タ松岡外相ハ本使ニ對シ三國條約ニ違反スルコトハ一切

爲サスト申シ來リ居ルヲ以テ之ヲ信シ居レリト應酬シ置キタリ

編 注 本メッセージは見当らない。

(別電二)

ベルリン 7月18日後発

本省 7月20日前着

第九二一號

一、獨蘇戰爭

對蘇作戰カ予想以上ニ進捗シ居ルハ明日ヨリノ戰線視察ニ依リ貴使モ了解セラルヘシト信スルカ之カ終結時期ハ近シト認メアリ獨逸カ本作戰ヲ獨力ニテ遂行スルノ決意ヲ有スルハ度々申上ケタル通りナルモ蘇聯ノ處分ハ日本ニ取リテモ極メテ有利ナルヘキニ依リ自分(リ)トシテハ日本カ自發的ニ之ニ參加セラルルコトヲ衷心ヨリ希望ス蘇聯ノ處分トハ蘇聯ヲシテ永久ニ再起不能ナラシムルコトヲ主眼トスルカ同時ニ戰時中成ルヘク速ニ歐亞ノ鐵道連絡ヲ完備シ且日獨共同航空路ヲ開設スルコト必要ナ

二、日米交渉

ル處右ハ日本ノ協力ニ俟タサレバ不可能ナリ日本ノ南進ニ付テモ自分ハ大ナル期待ヲ有スルコト勿論ナルカ新嘉坡攻撃ノ如キハ急速實現方困難ナルヘク此ノ際北方ニ進出セラルルコト希望ニ堪ヘス右ハ直接獨ノ作戰ニ對スル援助ヲ求ムルノ意ニアラス將來ヲ慮リ日獨ノ協力ニ依リ蘇聯ヲ都合好ク處分スルノ見地ヨリ申上ケルナリ

三、日米交渉

三國同盟締結ノ當初ニ於テ日本政府カ本同盟ノ目的ハ米國ノ參戰ヲ抑止スルニアリ若シ米ニシテ參戰スルニ於テハ日本ハ之ヲ容赦セストノ儼然タル態度ヲ示サレタルハ自分(リ)ノ大イニ感謝スル所ナリキ然ルニ其ノ後突如日米交渉ノ問題起リ今猶繼續中ノ如キ處米カ今日斯ル交渉ヲ行フ意圖ハ一ハ以テ日本内部ヲ攪亂スルト共ニ二ハ之ニ依リ米國民ニ太平洋ニ關スル安全感ヲ與ヘ國內ノ參戰反對分子ヲ説得セントスルノ點ニ在リト考フ「アイスランド」占領ノ如キ侵略の行動ハ米國カ太平洋ニ安全ヲ感スルニ伴ヒ其ノ大西洋進出ハ益々積極的トナリ米獨戰爭ハ必至トナルヘク結局日本モ參戰ノ已ムナキニ至ルヘキカ自分(リ)ハ斯ル事態發生ヲ避ケル爲ニハ日本カ

四 独ノ開戦後の対独伊・対ソ関係

速カニ日米交渉ヲ中止シ米國ニ對シ儼然タル態度ヲ示サルコトカ米ノ參戰ヲ困難ナラシムル唯一ノ途ナリト信ス

(別電三)

ベルリン 7月18日後発

本省 7月19日後着

第九二二號

往電第九二二號ニ關シ

最後ニ「リ」ハ之ハ外務大臣トシテニハアラス全ク友人トシテ申上ケル次第ナルカト前提シ自分(「リ」)ハ世界ノ新秩序建設途上日獨兩軍ノ戰友關係(Waffen Bruderschaft)ヲ特ニ重要視スル處若シ日本軍カ蘇軍カ獨逸軍ニ依リ殆ト殲滅セラレタルカ如キ時始メテ軍事行動ヲ起ス如キコトアラハ右ハ獨逸軍部ニ極メテ惡シキ印象ヲ與ヘ日本軍ノ眞意ヲ疑ヒ其ノ感情ヲ害スルコトトナルヲ惧ル獨逸ハ決シテ日本軍ヲ蘇軍ト同一視スル次第ニハアラサルモ波蘭戰争當時ノ蘇聯邦カ一兵モ損セスシテ東波蘭ヲ占領シタル卑怯ナル遣方ニ付獨逸軍カ著シク憤慨シ居タルハ御承知ノ通りナリト

述ヘタリ

右「リ」ノ言ヲ付度スルニ蘇聯ヲ對象トスル日獨陸軍間ノ協力ハ一九三五年以來寧ロ政治關係以上ニ進ミタルニ鑑ミ獨逸軍部トシテハ對蘇戰ニ於ケル日本ノ參加ハ殆ト常識ト考ヘ居タルモノナルヘク夫レニモ拘ラス日本カ今日迄對蘇戰ニ對シ明瞭ナル態度ヲ示サザリシニ對シテハ獨逸軍部内ニ相當ノ不滿アルモノノ様察セラル又或ハ右ノ如キ事情カ「リ」外相ニ對スル軍部ノ憤懣トナリテ現ハレ居ルヘシト認メラレタリ

(別電四)

ベルリン 7月19日後発

本省 7月20日前着

第九二三號(館長符號扱)

貴電第六三〇號ニ關シ(英獨和平說ニ關スル件)

一、十四日會談ノ際又々英獨和平ノ話ヲ持出シタルニ「リ」ハ度々貴大使ニ申上ケタル如ク獨逸ハ今日迄直接ニモ間接ニモ平和交渉ニ關シ英國ニ話掛ケタルコト絶對ニナシ貴大使ノ述ヘラレタル訓令ニ於ケル英獨和平仲介說ノ如

キハ本大臣ノ全ク知ラサル所ニシテ如何ナル理由ニテ斯カル噂カ出ツルヤ調ヘタルコトナキモ此等ノ噂米國ニ於テ行ハレ居ルトスレハ三國同盟ヨリ日本ヲ離サントスル試ニ非スヤト考ヘラル對蘇戰爭カ大體片付キタル際ハ空軍ヲ擧ケテ英國ヲ攻撃シ其ノ成果ニ基キ上陸作戰ヲ行フコトハ獨逸既定ノ方針ニシテ若シ日本ニシテ獨逸ヲ信セラルレハ此等ニ關シ世界ノ噂ニ耳ヲ藉サレサルコトヲ希望スト述ヘタリ

二、本件ニ關スル本使ノ所見左ノ如シ

(イ)英獨妥協說ハ從來トモ單ナル臆測トシテハ當地ニ於テモ耳ニシ居ル所ニシテ殊ニ獨蘇戰ノ開始ニ依リ斯カル說ノ流布セラルルコトハ當然豫期セラレタル所ナリ當方トシテモ萬一ニモ斯カルコトナキヤニ付テハ不斷ノ注意ヲ拂ヒ居リ流說ニモセヨ何等耳ニセル際ハ充分檢討ヲナシ居ル次第ナルカ今日迄ノ處斯カル說ヲ裏書スヘキ何等ノ根據ナシ

(ロ)英米側ニ於テ特ニ斯カル流說カ行ハレ居ルハ英米ノ謀略の宣傳ナリト判斷ス即チ英國トシテハ獨ノ戰意喪失乃至弱化ヲ強調スルコトニ依リ第三國ヲ英國側ニ引付

クルコト殊ニ三國條約弱化及獨佛離間ヲ企圖シアルモノト認メラレ米國トシテハ特ニ對日牽制ニ利用シアルモノト認メラル

(ハ)獨首腦部ノ言明ハ別トシ客觀的ニ現歐洲ノ情勢ヲ判斷スルモ獨力進ンテ妥協的平和ヲ企圖スヘキ根據モ證據モナキコト繰返シ電報セル通りナリ假ニ獨逸ニ關係アル者ノ一部カ英獨妥協ノ策動ヲ行フコトアルモ現在ニ於テ之カ成功ヲ見ル可能性ナシト認メラル

伊、米へ轉電セリ

(別電五)

ベルリン 7月19日前発
本省 7月20日前着
第九二四號

「ヒ」總統談話要領左ノ通り「リ」外相同席)

一、「ヒ」ハ地圖ニ依リ自ラ詳細ニ作戰進捗ノ狀況ヲ説明シ「對蘇作戰ハ予想以上ニ進捗シ恐ラク八月申遅クトモ九月初迄ニハ歐露ヲ平定シ得ル確信ヲ有ス

三、對蘇戰爭ハ獨逸ニ取對英戰爭遂行上不可避ノ必要ナリシ

カ其ノ理由ハ

(一)空軍ノ關係上蘇聯邦ヲ處理シタル後ニアラサレハ英國
攻撃ニ全力ヲ集中シ能ハサルコト

(二)益々進捗スル蘇聯邦ノ戰備ニ鑑ミ背後ヲ安全ニスル必
要ニ迫ラレタルコト

ニアリ事實蘇聯邦ノ戰備充實ハ予想以上ニテ例ヘハ航空
基地大規模ノ軍事工業ノ施設ノ如キ戰爭ニ依リ始メテ明
カトナレリ自分〔ヒ〕ハスル大軍備ノ完成ニ先立チ絶好
ノ時機ニ對蘇戰爭ヲ開始シ得タルハ全ク神ノ啓示ニ依ル
モノト信シ甚タ満足シ居レリ

三、蘇軍ノ抵抗ハ頑強ニシテ從テ其ノ損害亦大ナルカ獨逸軍
ノ損害ハ甚タ少ク今日迄戰死者一萬四千ニ過キス

四、蘇聯邦ノ處分ニ關シテハ戰爭ノ進捗ト相俟チ之ヲ數個ノ
農民共和國ニ分チ組織シタシト考ヘ居リ共產主義ハ根底
ヨリ之ヲ破壊シ露國內ニ一ノ細胞ヲモ止メシメサル心算
ナリ自分〔ヒ〕ノ此ノ考カ全歐洲ニ徹底シタル結果羅馬
尼、芬蘭、「スロバキア」及洪牙利ノ參戰トナリ又佛、
丁抹、和蘭、白耳義及西班牙等ハ義勇軍ヲ送りツツアリ
茲ニ眞ニ「ボルシエビズム」ニ對スル十字軍ノ結成ヲ見

タル次第ナリ「スターリン」ハ何レカニ逃避スヘキモ自
分〔ヒ〕ハ彼ヲ亡ホス迄ハ何處迄モ追及スヘク若シ機械
化兵團ニシテ及ハサル時ハ空軍ヲ以テ追及スヘシ

(尚蘇聯邦ヲ小農民共和國ニ分ツ話ノ際「リ」外相カ極
東ニモスル共和國カ出現スヘシト言ヘルニ對シ「ヒ」ハ
言下ニ之ヲ否定シスル國ハ自力ニテハ成立セス之ニ外部
ヨリ力ヲ加ヘ支柱ヲ與フル要アリト述ヘタリ右ハ日本ノ
進出ヲ意味シアルモノト認ム)

五、次テ日獨關係ニ言及シ自分〔ヒ〕ハ日獨兩國ノ提携ハ世
界新秩序建設ノ爲是非必要ナリト思考シ居レリ何トナ
レハ日獨二國ノミカ眞ニ利害關係ノ抵觸ナク而モ兩國ハ
歐亞ニ跨ル二國ヲ對象トシテ有シ居レハナリ即チ蘇聯邦
及米國ナリ此ノ二國ハ歐羅巴弱ケレハ歐羅巴ニ、亞細亞
弱ケレハ亞細亞ニ出テ來ル國家ナリ別ノ言葉ヲ以テ言ヘ
ハ日本弱ケレハ獨逸ハヨリ多クノ負擔ヲ負ヒ獨逸弱ケレ
ハ日本ハ米蘇ヲ背負フコトトナルヘシ此ノ自分ノ考ヘハ
決シテ目前ノ事ヲ考ヘ居ルニアラス長キ將來ニ亘ツテノ
問題トシテ考ヘ居レリ是レ自分カ一九三五年以來日獨提
携ヲ終始目論見タル所以ニシテ決シテ一時ノ考ニアラス

又此ノ度ノ戰ニ於テモ自分ハ他國ノ援ケヲ借リテ獨逸ノ流ス血ヲ節約セントスルカ如キ考毛頭ナシ唯歐亞ニ跨ル大國ヲ處理シテ日獨兩國ノ將來ノ爲有利ナル事態ヲ作ラシカ爲日本ノ協力ヲ希望スルコトハ勿論ナリ

六、米國ニ關シテハ「アイスランド」ノ占領ニ付テハ自分〔ヒ〕ハ極度ニ憤慨シ居レルカ且下對蘇戰爭遂行中ナレハ暫ク隱忍シアリ米國カ極東及歐洲ノ兩方面ニ進出セントスル考ヲ有スルコトハ蘇聯邦ト同様ニシテ實ハ自分〔ヒ〕ハ米國カ萬一二モ參戰セハ此ノ機會ニ叩キ上ケル心算ニテ參戰セサルモ數年後ニハ叩上ケル要アリト確信シ居レリ

日本モ何卒此ノ自分ノ考ヲ承知セラレ米國ニ對シテハ之カ日本ノ敵國タルコトヲ充分考慮セラレタシ而シテ自分ハ米ニ對シテハ強キ態度ヲ示スコト最モ必要ナリト確信シ居レリ兎角交渉ナルモノハ種々害ヲ及ホスモノニシテ實ハ今回對蘇作戰開始ニ當リ六月初旬自分ハ蘇聯邦ニ對シ交渉ヲ行ハントスル考ヲ有シアリ交渉題目ハ蘇軍ノ撤退ナリシカ考慮ノ結果交渉ヲ行ヘハ引延ハサルル惧アリ引延ハサルレハ其ノ間種々ノ弊害ヲ生ス而モ假ニ蘇聯邦

カ獨逸ノ要求ヲ容レ例ヘハ二、三百「キロ」撤退スルコトアリトセハ今日機械化兵團ノ發達セル時代ニ於テハ二、三百「キロ」ノ如キハ何等意義ナキモ獨逸トシテ攻撃ヲ躊躇セサルヲ得サルコトナルヘキヲ惧レ自分ハ一切ノ交渉ヲ行ハス直ニ實力ヲ行使スル決意ヲ爲シタリ凡ソ大事ヲ爲スニハ決意カ肝要ニシテ若シ日露戰爭當時獨逸カ露國乃至佛國ヲ叩キ置キタランニハ歐洲戰爭モ發生シ居ラサリシナルヘシト考フルモノナルカ當時ノ獨逸政府ハ近視眼の觀點ヨリ露國等ヲ操リ一時ヲ糊塗セルカ爲却テ大ナル破局ヲ來セルモノナリ

〔右「ヒ」〕ノ言ハ明白ニハ日米交渉ニ觸レ居ラサルモ彼ノ肚カ日米交渉ノ不可ヲ本使ニ暗示セントスルニ在リタルコトハ明カニシテ彼ハ日米交渉ニ付テハ非常ニ不滿ヲ有シ居ルコト觀取セラレタリ

七、本會談ニ於テ本使ハ特ニ帝國政府ノ態度カ表面如何様ニ見ラルルニセヨ三國條約ノ精神ニハ絕對ニ動搖ヲ生スルカ如キコトナキコト信セラレタキ旨強調シ置キタリ

303

昭和16年7月19日

在独国大島大使より
豊田外務大臣宛(電報)

ヒトラーおよびリッペンントロップとの会談を踏

まえ速やかにわが方態度を明確にすべき旨具申

ベルリン 7月19日前発

本省 7月19日後着

第九二五號⁺

既二第九二二號及第九二四號ヲ以テ申述ヘタル通り「ヒ」

「リ」兩人トノ會談ニ於テ本使ノ最モ深ク得タル印象ハ獨

逸ハ今日絶大ナル力ヲ有シ世界問題處理ノ上ニ於テ他力ヲ

借リントノ意毫モナキモ米蘇ノ如ク歐亞ニ同シク關心ヲ有

スル大國ヲ處理スル爲ニハ長キニ亘リテ日本ノ協力ヲ必要

トスルトノ考方相當深キモノアル點ナリ殊ニ「ヒ」總統ノ

如キ精神的ノ人物ハ日本ノ精神力ニ對シ多大ノ敬意ヲ拂ヒ

世界新秩序建設上日本人ノ協力ヲ甚タ重視シ居ルモノト認

メラル

他方ニ於テ「ヒ」總統(「リ」ハ勿論)ハ其ノ人柄上直接言

及セサルモ獨蘇開戦以來ノ日本ノ態度ニ付多大ノ不滿ヲ有

スト觀取セラレタリ從テ若シ日本カ今後引續キ今日ノ如キ

態度ヲ執ル時ハ總統モ遂ニハ日本ニ見限りヲ付ケ三國同盟
ハ全ク其ノ精神ヲ喪失スルノ惧極メテ大ナリト判斷ス帝國
カ獨伊ノ意嚮ニ引摺ラルル要ナキコトハ言フヲ俟タサルモ
帝國カ其ノ外交ノ基調ヲ依然三國同盟ニ置カントセラルル
ナラハ速ニ我態度ヲ明確ナラシムルヲ要ス

~~~~~

304

昭和16年7月21日

在満州国梅津大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

北滿方面の軍事的緊迫に伴うソ連の対日措置

につき観測報告

新京 7月21日後発

本省 7月22日前着

第四七三號(極秘、館長符號扱、至急)

阪本歐亞局長へ花輪參事官ヨリ(本電大使閱覽濟)

當地方面ノ現況ニ關シ左記申進ム

(一)獨蘇開戦直後ハ一般民心ハ寧口不思議ナル程平靜ナリシ

モ其ノ後日本帝國ノ態度ハ依然トシテ鮮明ヲ缺ク一方滿

洲ニ於テハ相當大規模ノ軍需輸送モ開始セラレ居リ特ニ

牡丹江、海拉爾方面ニテハ防空壕、土囊ノ築造等頻リニ

行ハレ他方軍事輸送ノ強化ニ伴ヒ兩國列車回數削減(急行ノ廢止等)旅行制限等モ實施セラレ是等ニ伴フ民心ノ内部的動搖ハ之ヲ避ケ難ク日本婦女子ノ引揚ケ準備モ弗々行ハレ居ル模様ナリ

(二)是等ノ動キハ當然間髪ヲ容レス蘇聯側ニ傳ハリ蘇側ヲシテ左記ノ内何レカニ出ツルノ餘儀無キニ至ラシムヘシ

(イ)蘇聯ハ即日戰備ヲ強化シ場合ニ依リテハ蘇側ヲシテ何ノ道日本側ヨリ強襲ヲ受クルモノナラハ當方ヨリ機先ヲ制スヘシトノ決意ヲ爲サシメ武力衝突ノ危險無シトセサルヘシ

(ロ)或ハ我方ノ前顯諸般ノ措置ニ關聯シ蘇側ハ駐蘇大使又ハ外務大臣ニ對シ直接ニ日本ノ對蘇眞意ヲ直截簡明ニ質問シ來ルヘシ

(三)如上事項ニ關シテハ充分ナル御考慮ヲ拂ハレ適切ナル對策御準備ノコトトハ存スルモ本省當局乃至駐蘇大使ニ於テ蘇側トノ折衝上ノ御參考迄申進ス

尙獨伊側質問ニ對スル應酬振りニ付テモ當方含ミ迄東京ノ御方針至急御回報相煩度シ本電軍側ト連絡濟

蘇ヘ轉電相成度シ

305 昭和16年7月31日 豊田外務大臣より  
在独国大島大使宛(電報)

独ソ開戦後におけるドイツ側の対日要望に對する政府方針について

本省 7月31日後9時30分發

第七〇八號(館長符號)

獨蘇戰爭開始後獨逸側ノ帝國ニ對スル要望竝ニ對處スヘキ帝國ノ態度ニ關スル累次ノ貴見ニ關シ陸海軍側トモ協議ノ上帝國政府ノ方針及見解多少重複ノ嫌アルモ貴使心得迄ニ左ノ通電報ス右ニ依リ此ノ上トモ御善處相成度

一、七月二日御前會議ニ於テ決定セラレタル國策ノ大綱ハ往電合第一三九〇號ニ依リ御承知ノ通ニシテ政府ハ右方針ニ基キ着々之カ具體化ニ邁進シツツアリ

二、支那事變ハ既ニ四年ニ亘レル處帝國ノ全般の態勢特ニ軍事の態勢ハ從來事變解決ニ主力ヲ注キ來レル關係上南北兩方面ノ新事態ニ對處スル爲ニハ從來ノ準備ニ加フルニ更ニ全面的戰爭態勢ノ完整ヲ必要トス

右帝國ノ實情ハ獨側ニ於テモ充分認識スルノ要アリ既ニ在京大使等ハ之ヲ認識シ居レルカ如キモ獨本國ニ於テハ

尙不充分ナルヤニ認メラル

三、英米ヲ主體トスル第三國ト帝國トノ通商經濟關係ハ益々壓縮ノ度ヲ強メ永ク之ヲ保續シ得サル現況ニ鑑ミ帝國トシテハ自存上南方資源ヲ確保スルノ措置ヲ講スルト共ニ最近着々進行中ナル英米支蘭ノ對日包圍戰線ノ結成鞏化ニ對抗スル自衛措置ヲ速ニ講スルコト必要ニシテ之カ爲今般不取敢南部佛印ニ軍事基地ノ獲得及軍隊ノ進駐ヲ行フコトトセル次第ナリ

右措置ハ旁々英米就中米ヲ太平洋ニ強度ニ牽制スルノ效果ヲ發揮シ獨逸ノ眞意圖ニモ策應シタルモノト信ス現ニ最近日米關係急角度ニ惡化ノ傾向ニ在ルコトハ右效果ヲ實證スルモノト云フヘシ

四、獨蘇開戦カ帝國ニ執リ北方問題解決ノ好機會ヲ與フルハ勿論ニシテ帝國ハ目下之ニ對應スルノ準備ヲ進メツツアリ我方トシテハ之カ準備ト睨ミ合セツツ好機ヲ捉ヘントスル次第ニシテ右ハ帝國ノ當面セル實情ニ鑑ミ當然ト云フヘク從テ獨蘇戰ノ推移急激ナル場合帝國ノ策應カ時間的ニ整齊タリ得サルハ已ムヲ得サル所ナリ

五、日米交渉ニ關シ獨側ニ於テ何等不滿アリトノコトナルモ

帝國ハ本交渉ニ於テ米國ノ參戰阻止ト支那事變解決トヲ主目的トシテ努力シ來リ結果ニ於テハ米國ヲシテ帝國ノ決意ノ深サヲ了解セシメ米ノ對獨戰線ヲ牽制スル等其ノ動向ニ至大ノ影響ヲ與ヘタル事實ハ否ムヘカラス

右ニ關スル帝國ノ眞意ハ相互信賴ノ基礎ニ立チテ始メテ了解シ得ヘク右ハ宛モ獨蘇戰カ獨ノ戰爭指導上ノ必要ヨリシテ日本ノ希望セサル時機ニ勃發シ其ノ結果帝國ハ支那事變ノ外新ナル緊急事態ニ對處スル爲南北兩面ニ亘リ非常準備ヲ強要セラルルノ不利ヲ招キタルモ極力獨ニ協力セント努力シ居ル點ニモ鑑ミ獨側ニ於テ了解シ得ヘキ所ト思考ス

六、抑モ日獨協力ノ方式ハ三國條約ノ根本精神ヲ實現スル爲兩國夫々ノ受持領域ニ於テ自強ノ方途ヲ講シツツ相互ニ策應スルニ在リテ行動ノ劃一整齊ノミカ協力ノ全部ニ非ス換言スレハ相互ニ信賴シツツ兩國共同ノ終極目標ニ向ヒ離合集散虛實ノ動キヲナスヘキコトニ在リト云フヘシ而シテ帝國ノ執ルヘキ諸施策ノ根本ハ三國條約ノ終極目的達成ニ在リ而モ右方針ノ確乎不動ナルハ大詔換發ヲ見タルコトニ依リテモ明白ナルヘク帝國ハ右目的達成ノ爲

巨歩ヲ進メツツアル次第ニシテ現下ノ情勢ニ於テ過早ニ  
輕舉スヘキニ非スト信ス

伊ニ轉電アリタシ

米ニ轉電セリ

編注 本文書は、国立国会図書館憲政資料室所蔵「憲政資

料」中の「天羽英二關係文書」より採録。

~~~~~

306 昭和16年8月4日 大本營政府連絡會議決定

「對「ソ」外交交渉要綱」

對「ソ」外交交渉要綱

昭和十六年八月四日連絡會議決定

一、差當リ左記案件ニ付對「ソ」折衝ヲ行フ但帝國將來ノ企
圖ニ拘束ヲ與ヘサル様留意ス

1、極東危險水域ノ撤廢乃至ハ右水域ノ帝國ニ及ホス損

害ノ除去

2、東亞ニ於ケル「ソ」領ニ付第三國ニ對スル割讓、賣

却、租借、軍事的據點提供等ヲ爲ササルコト

3、「ソ」聯邦ト第三國トノ軍事同盟ノ適用範圍ヲ東亞

ニ及ホササルコト及第三國トノ間ニ帝國ヲ目標トスル

同盟等ヲ締結セサルコト

4、援蔣行爲ノ中止及中國共產黨ニ對スル抗日指令及援

助ノ中止

5、北樺太利權事業ノ完全稼行確保

6、滿「ソ」抑留人員及物件交換

7、「ノモンハン」地方國境確定作業ハ從來通繼續ス滿

「ソ」、滿蒙間全般的國境ニ關スル交渉ハ之ヲ見合ハス

(註)イ以上ノ中特ニ2、3、及5、ニ重點ヲ置ク

(ロ)「ソ」側ニ於テ中立條約ヲ嚴守シ又極東ニ於テ

脅威ヲ與ヘサル限リ帝國ハ日「ソ」中立條約ノ

義務ヲ守ルヘキ旨ヲ明ニス

三、前項外交交渉ノ經過、我對「ソ」武力的準備進捗ノ度、

獨「ソ」戰ノ推移及國際情勢竝ニ其後ノ我方企圖トノ連

繫ヲ考慮シツツ左記案件ノ一部又ハ全部ニ付交渉ス

1、漁業條約(從來ノ交渉經緯ヲ離レ我方當初ノ主張ヲ

貫徹スルヲ目的トス)

2、北樺太買収又ハ割讓

- 3、「カムチャッカ」地方ノ帝國ヘノ租借、割讓等
 - 4、黒龍江以東ノ「ソ」領ノ帝國ヘノ租借割讓又ハ非武装地帯化等
 - 5、其ノ他ノ極東「ソ」領ノ非武装地帯化等
- 三、交渉方針
- 1、北方問題ノ解決ハ大東亞共榮圈確立ノ國策完遂ニ資スル爲北方ヨリノ脅威ヲ芟除シ且北方資源ヲ確保スルヲ目標トス右目標ハ先ツ外交ニ依リテ之ヲ達成スルニ努ム可ク武力ニ依ル解決ハ既定ノ國策ニ從ヒ形勢我方ニトリ有利ナル場合ニノミ行フヘキモノトス
 - 2、「ソ」聯邦ニ對スル外交交渉ハ直ニ之ヲ開始シ日「ソ」間ノ正常ナル國交關係ヲ阻害スル如キ、又大東亞共榮圈確立ノ妨害トナル如キ一切ノ事情及原因ノ排除ヲ要求ス
- 之カ爲ニハ帝國トシテハ日「ソ」中立條約上ノ義務ノ履行ヲ明言スル事トス
- 3、對「ソ」外交交渉ヲ行フニ當リテハ獨逸ニ對シ帝國ノ立場及役割ヲ腹藏無ク説明シ置クコトトス尙獨「ソ」カ休戦スル場合獨逸ノ對「ソ」要求カ極東ニ關

307

昭和16年8月5日

豊田外務大臣
在本邦スメターニンソ連邦大使 会談

日ソ中立条約の遵守をわが方が明言した豊田

外相とスメターニン大使との会談録

豊田外務大臣「スメタニン」大使會談録

昭和十六年八月五日午後五、〇〇—六、〇〇

於外務大臣官邸

阪本歐亞局長、「ザブローヂン」書記官同席

野口通譯官通譯ス

(當方ヨリ申込)

日「ソ」國交問題ニ關スル件

豊田大臣(阪本局長及「スメタニン」大使ト暫ク英語ヲ以テ雜談セラレタル後別紙ノ通り申入レラル)

「スメタニン」 只今ノ御言明ニ對シ若干氣附キノ點ヲ申シ上ケ度シ自分ハ何ヨリモ先ニ貴大臣カ日本政府ニ於テハ日「ソ」中立條約ヲ誠實ニ遵守シ又本條約ヨリ生スル義務ヲ履行セラルル旨ヲ言明セラレタルハ甚タ欣快トスルトコロナルコトヲ申上ク殊ニ前回會談ニ於テ貴大臣ニモ申上ケタル通り本問題ハ「ソ」側ニハ「ハツキリ」セサリシ次第ニテ就中松岡前大臣ノ述ヘラレタルトコロハ曖昧ナリシヲ以テ誠ニ困惑シ居タル矢先ニテモアリ本日斯カル言明ヲ得タルコトハ一層欣快ト存ス之ニテ「ソ」政府ノ疑惑ヲ抱キ居タル點ニ付明白ニシテ確タル御回答ヲ得タルコトトナレリ

前回會談ニ於テ自分ハ本問題ニ關スル「ソ」政府ノ見解ヲ示シ置キタルカ本日貴大臣ハ特ニ之ヲ引用セラレタルニモ鑑ミ前回述ヘタルトコロヲ再ヒ茲ニ述フルコトトスヘシ

即チ「ソ」政府ハ本年四月十三日署名セラレ兩國政府ノ批准ヲ經タル日「ソ」中立條約カ完全ニ效力ヲ有ストノ

見解ヲ維持ス併シテ「ソ」政府ハ獨ノ對「ソ」攻撃ハ右中立條約ニ基キ日「ソ」間ニ生シタル關係ニモ又本條約ニ基キ相互ニ負擔セル義務ニモ毫モ影響スルトコロナク現在モ效力ヲ有ストノ見解ヲ保持ス

大臣 條約論ニナレハ又種々ノ解釋モ生スヘキトコロ自分ノ只今言明セルトコロハ日本政府ハ中立條約ヲ遵守スト言フニ在リ

「ス」 貴大臣ハ本日ノ御言明ニ於テ如何ナル場合ヲ以テ日本政府カ中立條約ノ侵犯ト看做サルルヤニ付數個ノ例ヲ示サレタルカ此ノ御説明ハ始メテ承リタルコトニテモアリ又之ハ中立條約ニ關係ノアルコトニテモアレハ更ニ充分檢討セサルヘカラス

貴大臣ハ援蔣問題ニ關シ言及セラレ之ヲ環ル風説ヲ持出サレタルカ自分ハ斯カル風説ノ存スルコトモ又「ソ」政府ト蔣トノ間ニ如何ナル關係カアルヤニ付テモ承知シ居ラス何トナレハ自分ハ何ヨリモ日「ソ」兩國關係ノ調整ニ專念シ居レハナリ

貴大臣ハ又日「ソ」間ニ存スル繫争問題ニモ言及セラレ之ヲ調整スルノ要アリト述ヘラレタルカ之ハ全ク同感ナ

リ自分トシテハ全力ヲ盡シテ之カ解決ニ當ルコトト致シ度シ只之ニ付テハ二ツノ點ニ付御注意ヲ申上ケ度シ即チ(一)北樺太ニ於ケル石油、石炭兩利權企業ハ「ソ」聯地方

官憲ノ強キ壓迫ニ因リ殆ト活動力ヲ阻止セラレ休業状態ニ在リト述ヘラレタルカ之ニ關シ自分ノ知レルトコロヲ述フレハ特ニ最近二ヶ月ニ於テハ「ソ」側ハ利權企業側ノ要望ハ殆ト一切容レ來レリ例ヘハ多數ノ労働者ノ送込ヲ許シ又労働者及所要物資ノ査證ヲモ發給セリ

(二)坂井組合ノコトニモ言及セラレタルカ之ハ大イニ意外ニ感シタリ何トナレハ四年前自分カ着任セル際本問題ハ既ニ解決セラレ居リ其後四年間ヲ通シ日本側ハ曾テ本問題ヲ持出サレタルコトナカリシニ拘ラス本日突然之ニ觸レラレタルコトハ誠ニ意外ナリ

危険水域設定問題ニ付テハ二本ノ書面(實ハ一本ニテ後ノ分ハ訂正ノ意味ナリ)ヲ差上ケ居リ又自分モ前回述ヘタルトコロニ依リ何故ニ「ソ」聯カスカル措置ニ出テタルヤ御了解アリタルモノト思考スルモ本問題ニ關シ何等御希望ノ點モアラハ喜ンテ承リ出來得ル限りノコトハ致

スヘシ累ネテ言ハン「ソ」聯ノ措置ハ獨逸或ハ伊國軍艦カ突如「ソ」聯極東沿岸ヲ攻撃スルコトアリ得ヘキニ依リ只々之ニ對處セントスルノミ

最後ニ述ヘン、自分ハ兩國ノ友好關係ヲ持續セシメント熱望スルモノニテ此ノ點貴大臣ト全ク同感ナリ日本帝國及「ソ」聯邦カ中立條約ニ基キテ相互關係ヲ持續シ本條約ヨリ生スル一切ノ相互の利益及義務ヲ遵守スルコトハ兩國友好關係今後ノ發展及強化ノ前提タルヘシト思考ス貴大臣ノ望マルルトコロモ亦茲ニ在リト承リ自分ハ又之ニ全力ヲ舉ケテ協力スヘシクテ日「ソ」關係ハ友好ノ一途ヲ辿ラン

大臣 貴大使カヨク本大臣ノ申入ヲ了解セラレ心ヨリ協力ヲ約サレ益々日「ソ」親善ノ實ヲ舉ケサルヘカラスト述ヘラレタルコトニ對シ感謝ス

尙本日ノ申入ハ速ニ政府ニ傳達セラレ速ニ回答セラルル様取計ハレ度シ

尙又一言致シ度キハ本日ノ會談ハ種々ノ關係モアリ絶對ニ他ニ漏レヌ様、即チ兩國間限りノ話トナサレ度シ

「ス」大使 貴大臣ノ御話ハ克ク了解セリ此ノ話ハ他ニ漏

ルルコトナカルヘシ凡テ政府ニ傳達シ回答方取計フヘシ
大臣 先程述べタル蔣介石ノ問題ニ付テハ貴大使ハ御存知
ナシト述ヘラレタルカ假令風説ニモセヨ之ハ我方ヲ刺戟
シ誠ニ遺憾ナリ今迄ニ斯カル事實ナシトノコトナレハ結
構ニテ今後モ亦ナカラシコトヲ望ム

「ス」大使 累ネテ言ハン自分ハ如何ナル風説モ又如何ナ
ル事實即チ如何ナル交渉カ「ソ」政府ト蔣政權ノ間ニ行
ハレ居ルヤニ付テモ全ク承知シ居ラス只々日「ソ」關係
ニ專念シ他ヲ顧ル暇ナキ状態ナリ御申出ノ點ハ政府ニ傳
フヘシ

大臣 (阪本局長ヲ顧ミテ)

何カ局長ヨリ申サルルコトナキヤ

阪本局長 北樺太利權ニ關スル問題ノ細目ニ付テ貴大使カ
何等説明ヲ欲サルルナラハ「ジューコフ」參事官又ハ其
他ノ館員ヲ自分ノ許ヘ差遣ハサレ度シ

「ス」大使 自分ハ此ノ問題ハ克ク承知シ居レリ何カ新ナ
ル問題アルニ於テハ阪本局長ノ許ヘ館員ヲ差向クヘシ

阪本局長 別段新シキ問題ト言フニアラス

大臣 此際親善關係ノ増進ヲ阻害スルカ如キコトハ凡テ調

整スルコトト致度キ意ナリ

「ス」大使 至極同感ナリ未解決ノ繫争問題ニ付テモ全力
ヲ盡シテ協力シ之カ解決ヲ計ルコトト致シ度シ

終ニ本日ノ御話ハ極メテ率直且明快ナリシコトハ誠ニ自
分ノ欣幸トスルコトナル點ヲ特ニ申上ケタシ斯カル會談
振りハ對話者相互ノ理解ヲ深カラシメ話合ヒノ進行ヲ扶
クヘシ今後モ斯カル會談ヲ續ケ度ク貴我間ニテ話合フコ
トハ諸問題ヲ解決スル上ニ於テ有效ナリト思考ス

以上

(別紙)

豊田大臣ヨリ「スメタンシ」大使ヘノ申入案

過日日本大臣就任挨拶ノ際ニハ時間モナク日「ソ」關係ニ付
立入テ御話スルコト能ハザリシガ偶々貴大使ヨリモ日
「ソ」中立條約ニ關スル本大臣ノ見解ヲ質サレ本大臣モ充
分研究スベキ旨申上置タル處本日ハ此等ノ問題ニ付些カオ
話申上ゲ度ト存ジ御來駕ヲ乞ヒタル次第ナリ

獨「ソ」戦争ト日「ソ」中立條約トノ關係、或ハ三國條約
ト日「ソ」中立條約トノ關係等ニ付法律論ヲ始ムレバ種々

ナル意見出デ來ルベク松岡前大臣ヨリモ見解ヲ披瀝セラレタル由ナルガ本大臣ハ八釜敷キ法律論ハ兎モ角トシ、率直ニ日本ハ日「ソ」中立條約ノ各條項ノ義務ヲ誠實ニ履行スル意向ナルコトヲ茲ニ言明致シ尤之ガ爲ニハ「ソ」側ニ於テ中立條約ヲ嚴守セラルルコトハ勿論同條約ノ根本精神ニ反スルカ如キコト例ヘハ東亞ニ於テ「ソ」聯邦ガ日本ヲ刺戟シ又ハ之ニ脅威ヲ與フル如キ行爲ヲ行ハレザルベキコトハ當然ノコトトシテ當方ノ期待スル所ナリ

右ノ點ニ付今少シク詳細ニ御説明致サンニ元來帝國ノ外交ハ三國條約ヲ以テ根本義ト爲シ居ルモノニシテ日「ソ」中立條約ノ如キモ三國條約ノ目的トスル所ヲ更ニ擴充スル爲締結セラレタルモノナリ然ルニ兩條約ニ於ケル帝國ノ相手方タル獨逸及「ソ」聯邦ガ相戟フニ至レルコトハ帝國ノ立場ヲ著シク困難且機微ナラシメタル處日本政府トシテハ飽迄日「ソ」兩國間ノ友好關係ヲ持續センコトヲ切望シ居リ又獨「ソ」戰爭ニ關シテモ中立條約ヲ遵守スル意向ナルガ「ソ」聯邦側ニ於テモ之ニ相對應スル態度ヲ持セラレ日本ガ右ノ如キ態度ヲ持續スルコトヲ困難ナラシメザル様要望セザルヲ得ス即チ(一)東亞ニ於ケル「ソ」聯邦領土ヲ第三國

ニ割讓、賣却又ハ租借シ或ハ此處ニ軍事的據點ヲ提供スルガ如キコト(二)「ソ」聯邦ト第三國トノ軍事同盟ノ適用範圍ヲ東亞ニ及ボスコト及第三國トノ間ニ帝國ヲ目標トスル同盟等ヲ締結スルコトノ如キハ直ニ我國ニ脅威ヲ與ヘ中立條約存立ノ根底ヲ覆スコトトナリ我方トシテハ絕對ニ默過スル能ハザル所ナリ右ニ付テハ本大臣ハ「ソ」側ガ現ニ斯クノ如キコトヲ企圖シ居ラルルモノトハ信ゼザルモ萬一將來右様ノコトガ發生スルニ於テハ日本トシテモ現在ノ態度ニ再考ヲ加ヘザルヲ得ザルノ立場ニ置カルヘキニ付此等ノ點ニ付「ソ」聯邦政府ノ確タル保障(アシアランス)ヲ與ヘラレシコトヲ要望ス

又「ソ」聯邦政府ノ蔣介石政權ニ對スル援助ノ如キモ日本ニトリテハ頗ル重要ナル問題ナルガ本件ニ關シテハ昨年「モロトフ」人民委員ヨリ東郷大使ニ對シ「ソ」聯邦ノ援助ノ如キハ現在ノ問題トシテハ根據無キ事ナル旨ヲ言明セラレタルガ勿論現在ニ於テモ同様ト信ズ但シ最近或ハ「ソ」支共同戰線ヲ張ル爲密約成立セリトカ共產黨ニ對スル援助強化セラレタリ等種々ノ風説アリ痛ク我方ノ感情ヲ刺戟シ居レルカ兎ニ角蔣政權ヲ直接又ハ間接ニ援助セラル

ルガ如キハ今後共絶對ニ行ハレザル旨約束セラレン事ヲ希望ス

尙日「ソ」兩國間ノ懸案ニシテ兩國間ノ絶エザル紛擾ノ因トナリ居ル如キ案件モ同ジ見地ヨリ速ニ解決スルヲ要ス例ヘバ北樺太石油石炭利權事業ノ如キ之ニシテ兩利權共「ソ」聯官憲ノ苛酷ナル取締及不當ナル壓迫ノ爲日「ソ」

基本條約ニ依リテ保障セラレタル「收益的經營」ガ不可能ナルハ勿論近時ニ於テハ生産の事業ハ殆ド停頓狀態ニ陥リ殊ニ阪井組合ノ利權ノ如キハ擅ニ「ソ」側ニ回收セラルルニ至レリ此ノ如キハ決シテ日「ソ」間ノ正常ナル國交關係ノ持續ニ資スル所以ニ非ズ就テハ我利權事業ノ完全且圓滿ナル稼行ヲ可能ナラシムル様「ソ」聯邦政府ノ協力方ヲ要請ス

尙過日モ御話申上タル極東「ソ」領ニ危險水域設定ノ件ニ關シテハ最近大使館ヨリ兩回ニ亘リ文書ニ依ル御回答ニ接シタルガ猶我方トシテハ首肯シ得ザル點アルヲ以テ本件ニ關シテモ何レ別途再ビ申入ルル事ト致スベシ

要スルニ本大臣ニ於テハ「ソ」側ガ中立條約ノ精神ニ戻ルガ如キ行動及措置ハ絶對ニ之ヲ避ケラルルハ勿論兩國友好

關係ノ維持及促進ノ障害トナルヘキ事柄ノ除去調整ニ協力セラレムコトヲ熱望スルモノナリ

以上本大臣ノ申述ベタルコトニ付テハ貴大使ヨリ「ソ」聯政府ニ御傳達相成リ成ルベク速ニ右ニ對スル回答ヲ本大臣ニ示サレンコトヲ御願ス



308 昭和16年8月6日 豊田外務大臣 在本邦オット独国外使 会谈

豊田・スメターニン会谈の内容をめぐる豊田

外相とオット大使との会谈要旨

八月六日午前九時—九時五十分豊田大臣「オット」

獨大使會談要旨

(於外務大臣官邸)

「オット」獨大使ハ本日ハ一般情勢ニ關スル情報交換ノ爲來訪セル旨前提シ獨蘇戰爭對英戰爭等ニ就キ説明ノ後

「オット」大使 昨日貴大臣「スメターニン」蘇大使トノ會

談ニツキ承り度

豊田大臣 蘇側ノ宣言セル危險水域問題ト北樺太ノ石油問題ニツキ會談シタリ日本ニトリ石油ハ極メテ重要ナル問

題ナル處從來蘇側ガ日本側ノ採掘ニツキ妨害セリ右ニ關シ交渉セルモノナリ

「オット」大使 蘇聯ノ態度ハ日本ノ動員ニヨリ影響セラレ居ルモノト思考セラルル處其他ノ政治問題ニツキ話ハナカリシヤ

豊田大臣 ナシ

「オット」大使 本日ノ新聞ニヨレバ米國ガ蘇聯ニ武器ヲ供給スル事トナリタル由ナルガ米國ガ浦潮經由對「ソ」武器供給ヲナス場合日本ハ從來松岡前大臣ヨリ繰返シ説明セラレタル立場即チ浦潮經由ノ武器輸送ハ日本ノ容認シ得ザル所ニシテ日本ハ之ヲ防遏スル義務アリトノ立場ヲ依然固守セラルルモノナリヤ昨日ノ貴大臣ト「スメタニン」トノ會談ニ於テ右ノ點ニハ觸レラレザリシヤ

豊田大臣 危険水域ノ問題ハ一部御質問ノ點ニ關係アル處昨日ノ會談ニテハ觸レズ自分ハ就任以來日尙淺キニ付本問題ニ就テハ今後檢討スル事ト致度

「オット」大使 巷間傳ヘラルル噂ニヨレバ日本ガ「バイカル」湖附近迄ノ割讓等ニツキ蘇聯トノ間ニ何等カノ交渉ヲ開始セル趣ナリ自分ハ之ハ信ズルモノニ非ザルモ右

ノ噂ヲ如何ニ考ヘラルルヤ

豊田大臣 全ク根據ナキ噂ニシテ予ハ噂ノ存在ヲモ知ラズ「オット」大使 米國ノ對日經濟壓迫問題及一般のニ日米關係ニ關スル貴見如何

豊田大臣 日米關係ニツキテハ目下兩國共興奮状態ニアル故之ガ鎮靜ヲマツ事必要ト思考ス

「オット」大使 カカル輿論ノ鎮靜ハ可能ナリヤ
豊田大臣 米國人ノ性質ヨリ見ルモ時ヲ待ツ事必要ナリ
「オット」大使 駐日波蘭大使館ハ未ダ閉鎖セラレズ波蘭大使ガ日本ニ於テ活動ヲナシ居ルハ最近蘇波間ニ對獨條約締結セラレタルニ鑑ミ獨逸ニトリ實ニ忍^ビギ難キ事ナルヲ以テカネテ自分ヨリ貴大臣ニ申入レタル如ク可及的速ニ之ガ閉鎖ノ手續ヲトラレ度

豊田大臣 本問題ニツキテハ調査研究ノ上決定スベシ

309 昭和16年8月6日 大本營政府連絡會議決定

「日「ソ」間ノ現勢ニ對シ帝國ノ採ルヘキ措

置ニ關スル件」

日「ソ」間ノ現勢ニ對シ帝國ノ採ルヘキ措置

ニ關スル件

昭和十六年八月六日

大本營政府連絡會議決定案

一、對「ソ」警戒防衛ニ遺憾ナカラシムルト共ニ嚴ニ刺戟的行動ヲ戒メ且紛争生起スルモ日「ソ」開戦ニ至ラサル如ク努メテ之ヲ局部的ニ防止スルモノトス

二、「ソ」側ノ眞面目ナル進攻ニ對シテハ防衛上機ヲ失セス之ニ應戰ス

三、右ニ伴フ帝國ノ態度ニ關シテハ速ニ廟議ヲ以テ決セラル

説明

一、軍八目下「情勢ノ推移ニ伴フ帝國國策要綱」ニ基キ密カニ對「ソ」武力的準備ヲ進メツツアル所七月下旬以來日滿間ニ於ケル動員輸送ハ逐次頻繁ヲ加ヘ概ネ九月上旬迄繼續セラルヘシ然シテ今次軍動員ハ特ニ之カ企圖秘匿ニ關シ軍官民ヲ通シ萬般ノ處置ヲ講シアルモ到底大規模ナル軍ノ動員並集中輸送ハ秘匿シ得サル實情ニ在リ
二、帝國陸海軍トシテハ萬全ヲ盡シテ「ソ」側ヲ刺戟スルカ如キ行動ヲ嚴ニ戒シメアルトコロナルモ「ソ」側カ我進

攻避ケ難シト誤認シ機先ヲ制シテ攻勢ヲ取ル虞レモ無シトセス特ニ「ソ」側カ依然極東ニ優勢ナル航空兵力ヲ保有シアル現狀ハ我ノ最モ警戒ヲ要スル點ナリトス

萬一「ソ」側ノ眞面目ナル進攻ヲ受クルカ如キ事態カ急遽發生セル場合應戰反撃ノ時機ヲ失スルニ於テハ近代戰特ニ航空戰ノ特質ニ鑑ミ恰モ獨「ソ」戰ニ於ケル「ソ」側ノ如キ徹底的打撃ヲ蒙ルヘキハ明カニシテ此點輕視ヲ許ササル所ナリ

固ヨリ軍ハ此ノ如キ「ソ」側ノ挑戰ニ對シ帝國又ハ滿洲國領内ニ於テ之ヲ擊破シテ防衛任務ヲ完遂スルノ準備ニ遺憾ナキヲ期シアルモ「ソ」側ノ本格的空中攻撃ニ對シテハ軍本然ノ防衛任務ト飛行場並航空諸施設ヲ破碎スルヲ必要トスル航空戰ノ特色トニ鑑ミ己ムヲ得ス航空兵力ヲ以テ領土外ニ進攻スルコトアルヲ豫期セサルヘカラス
三、應戰ニ伴フ帝國ノ態度ニ關シテハ速ニ廟議ヲ以テ決定セラルヘキハ敢ヘテ多言ヲ要セサル所ナリ

(欄外記入)

6/8 聯絡會議決定 豊田(印)

310

昭和16年8月9日

在独国大島大使より
豊田外務大臣宛(電報)

在本邦ポーランド大使館の引揚げに関する独

側要請の実現につき配慮方具申

ベルリン 8月9日前発

本 省 8月9日夜着

第一〇〇九號(館長符號扱)

貴電第六二六號ニ關シ(在京波蘭大使館引揚ノ件)

七日「ウエイアマン」ハ往訪ノ加瀬ニ對シ其ノ後倫敦ニ於テ蘇波同盟成立ノコトアリ東京ニ於ケル波蘭大使館ノ存在ハ益々工合悪クナリタルニ付「オツト」大使ヨリ重ネテ新外相ニ申入シメタルモ未タ回答ヲ得ス獨側トシテハ殆ト日本政府ノ眞意ヲ了解スルニ苦シミ居リ殊ニ汪政權ノ承認後獨逸外務省内ニ於ケル日本係官ハ他ノ部局ニ對スル手前甚タ苦シキ立場ニアル次第モアルニ付新外相御就任ヲ機會ニ是非共本件實現方御配慮ヲ得度シト述ヘ居タル趣ナリ右獨側ノ希望ハ甚タ無理カラヌ所ニシテ目下ノ形勢ニ於テ在京波蘭大使館ノ存在ハ單ニ宣傳上ヨリ見ルモ日獨双方ニ取り有害無益ト認メララルニ付此ノ際區々タル情誼乃至法

律論ニ捉ハルルコトナク獨側申出通り措置セラルルコト然可シ右ハ汪政權承認ニ對シ獨側ノ示シタル好意ニ鑑ミテモ當然ト存セラル又若シ有力ナル反對理由アラハ獨側ニ對シ篤ト之ヲ説明納得セシムルノ要アルヘシ右何分ノ儀御回電アリタシ



311 昭和16年8月12日

在ソ連邦建川大使より
豊田外務大臣宛(電報)

對ソ交渉の開始時期および開催場所につき意

見具申

モスクワ 8月12日後発

本 省 8月13日前着

第一〇五六號(至急、館長符號扱)

貴電第八〇六號ニ關シ

御訓令ノ次第八諒承セルモ右執行前ニ左ノ通り卑見申進ス一、本件ノ如キ重大ナル交渉ハ之レヲ一元的ニ行フコト適當ニシテ申入事項ノ輕重乃至ハ交渉全般ニ對スル我方ノ意氣込ミ等ヲ詳知セサル本使カ當地ニ於テ容喙スルニ至ラハ勢ヒ先方ノ各種質問ニ對シ其ノ步調ノ合致セサル箇所

ヲ生シ容易ニ蘇側ノ乗スル所トナラサルヤヲ保シ難シ依テ本件ニ付テハ先ツ以テ「スメターニン」ニ回答ヲ督促セラルルコト順序ニシテ此ノ間性急ニ本使ノ出馬スルコトハ如何ニモ我方ニ於テ焦慮シ居ルカ如キ感ヲ蘇側ニ與ヘ却テ面白カラサル結果ヲ招來スルモノト認ム

二、⁽²⁾ 他方蘇政府ノ現状ハ獨ノ電撃作戰失敗ニ歸シタリトナシ英米トノ連結モ成リ聊カ自信ヲ回復シツツアル恰好ニテ俄カニ我方ニ對シ叩頭セントスル氣持ニ在リトハ考ヘラレススル際ニ我方カ態度ヲ明カニシテ蘇側ニ安堵ノ思ヒヲ爲サシメ之ヲ輕クアシラハシムルハ必スシモ策ノ得タルモノトハ認メ難シ現在ノ情勢下ニ於テハ寧ろ無言ノ威壓ヲ加ヘ置キ蘇政府カ一層ノ窮境ニ立ツ際例ヘハ政府カ莫斯科落チヲ爲シタル直後位ニ今少シ高壓的ニ出ツルコト賢明ナリト存ス

三、⁽³⁾ 蘇政府從來ノ遣口ニ徴スルニ斯種交渉ハ常ニ自己ノ膝元ニテ進メントスル傾向ニ在リ本使カ回答督促ニ出カケレハ渡リニ船トハカリニ交渉ヲ當地ニ移スコト必定ナル處本使ノ心境ハ前述ノ如ク時期尙早ト考ヘ居ルニ加ヘ帝國政府ノ決意ノ程モ存シ居ラス本件交渉ヲ引受クル確信ヲ

持チ難キ次第ナレハ此ノ際ハ尙藉スニ時日ヲ以テシ本件打合等ノ爲本使ニ一時歸朝ヲ命セラルル方適當ナリト思考ス

312

昭和16年8月13日

豊田外務大臣
在本邦スメターニンソ連邦大使

會談

日ソ中立条約の効力確認および北樺太利権問題等をめぐる豊田外相とスメターニン大使との会談録

豊田大臣「スメターニン」大使會談録

昭和十六年八月十三日午後三、三〇—五、〇〇

於外務大臣官邸

阪本歐亞局長、「ジューコフ」參事官同席

野口通譯官通譯ス

(先方ヨリ申込)

日「ソ」關係ニ關スル件

「スメターニン」八月五日貴大臣ヨリ御申入アリタルトコロニ對シ「ソ」政府ノ回答ヲ爲スヘシ

「ソ」政府ハ八月五日貴大臣ノ爲サレタル言明即チ日本

政府ハ日「ソ」中立條約ニ基キ「ソ」聯トノ關係ヲ維持スヘシトノ言明ヲ非常ナル満足ヲ以テ了承セリ日本政府ノ此ノ態度ハ「ソ」政府ノ執リツツアル態度ト合致ス「ソ」政府ハ日「ソ」中立條約ハ完全ニ效力ヲ保有ストノ六月^七二十五日ノ言明ヲ累ネテ確認ス

貴大臣ノ提起セラレタル北樺太石油、石炭兩利權ニ關スル問題ニ付テハ「ソ」政府ハ本問題ハ本年四月十三日松岡前外務大臣ト「モロトフ」外務人民委員トノ間ニ交換セラレタル書翰竝ニ五月三十一日建川大使ヲ經テ「モロトフ」人民委員ニ交付セラレタル松岡前大臣ノ書翰ニ基キテ解決セラルヘキモノナリト思料ス

「ソ」聯ト支那トノ相互關係殊ニ對支援助ノ問題ニ關シテ言ヘハ御承知ノ通り日「ソ」中立條約ハ第三國トノ關係ヲ律シ居ラス故ニ「ソ」政府ハ日本政府ヨリ提起セラレタル本問題ヲ審議スヘキ根據ヲ認めサルト共ニ「ソ」側ヨリモ日本ニ對シ支那問題又ハ獨、伊トノ問題ヲ提起シ得サルヘキモノナリトノ見解ヲ有シ居レリ之ト同時ニ「ソ」政府ハ一九四〇年七月二日「モロトフ」外務人民委員カ東郷大使ニ對シ爲シタル『本問題ハ「ソ」

聯邦ニトリテハ重大ナラス何トナレハ「ソ」聯ハ自國ノ國防ニ忙殺セラレ居レハナリ」トノ言明ヲ茲ニ確認ス「ソ」聯カ獨逸ニ對スル防禦戰爭ニ全力ヲ擧ケ居ル今日ニ於テハ尙更ナリト言フヲ得ヘシ

日本政府カ「ソ」聯ト第三國トノ間ニ締結セラレタル軍事同盟カ東亞ニ及フコト竝ニ「ソ」聯カ今後日本ヲ目標トスル軍事同盟ヲ第三國ト締結スルコトニ付有セラルル危惧ノ念ニ付テハ「ソ」政府ハ日本政府ニ對シ嚴ニ中立條約ヲ維持シ又今後モ之ヲ遵守スヘキコトヲ言明シ得ヘク貴大臣カ豫想セラレタルカ如キ事態ノ發生セサルヘキハ自明ノ理ナリ

英「ソ」協定ニ付テハ「ソ」政府ハ本年七月十五日「モロトフ」ヨリ建川大使ニ對シ『英「ソ」協定ハ獨逸ノミヲ考慮ニ入レ居ルモノニテ日本ニ影響ヲ與フルモノニ非ス』ト言明シタルコトヲ想起致度シ

尙貴大臣カ述ヘラレタル「ソ」聯極東領土ノ第三國ニ對スル租賃、讓步^{讓カ}又ハ軍事基地ノ提供ニ付テハ「ソ」政府ハ斯カル事實ナク又今後モ決シテナカルヘキ旨言明スルノ要アリト認ム之等ノ風説ハ敵性國ノ宣傳ニ源ヲ發スル

モノニシテ日本ニ疑惑ヲ起サシメ且日「ソ」關係ヲ害ハ
ンコトヲ目的トスルモノナリ同時ニ「ソ」政府ハ近來滿
洲國方面ニ於テ日本カ大仕掛ノ軍事の準備ヲ爲シツツア
ルコトニ付日本政府ノ説明ヲ求メ度キトコロスクノ如キ
事態ハ日「ソ」中立條約ニ基キ兩國ノ友好善隣關係ヲ維
持スヘシトセラレタル貴大臣ノ前回會談ニ於ケル御言明
ニモ則セサルモノト言ハサルヘカラス

「ソ」政府ハ日「ソ」兩國カ相互理解竝ニ利益ノ相互的
認識ニ立脚セハ善隣友好關係ノ増進スヘキ充分ナル素地
アルヘキコトヲ確信シ居リ斯クテ兩國ノ政治的、經濟的
關係ハ發達シ兩國ヲ利益スヘシ

豊田大臣 貴大使ノ御説明ハ注意深く拜聽セリ

先ツ第一ニ日本カ中立條約ニ基キテ行動スヘシト述ヘタ
ルトコロニ對シ「ソ」側ニ於テモ充分ニ中立條約ヲ遵守
スヘシトノ七月二十五日ノ言明ヲ引用セラレ之ヲ累ネテ
確認セラレタルコトヲ了承セリ

次ニ北樺太石油石炭利權ノ問題ニ關シテハ只今「モロト
フ」、松岡兩氏ノ會談竝ニ建川大使ノ書翰ニ付テ御話シ
アリ私自身トシテモ本問題ノ解決ニ付テハ考慮ヲ爲シ居

レルトコロ事態ハ其ノ後豫期セサル變化ヲ生シ本問題ノ
解決ニ付テハ之ヲ充分考慮スルノ要アルニ至レリ詳細ナ
ル點ニ付テハ追テ御相談致度シト考ヘ居レリ只現有ノ利
權ヲ充分活用スルコトヲ日本カ要求スルコトハ當然ニシ
テ貴國政府カ之ニ協力セラルルコトモ亦當然ナリト思考
ス而シテ北樺太石油石炭兩利權ノ現状及活用等ニ付テハ
歐亞局長ト貴方參事官トノ間ニ打合せセシムルコトト致
度シ

次ニ貴國政府ニ於テハ第三國トノ軍事同盟ヲ東亞ニ及ホ
シ戦局ヲ東亞ニ波及セシムルカ如キコトナキコト又日本
ヲ目標トスル同盟ヲ造ラサルコトニ關シ貴國政府カ中立
條約ヲ嚴守シ今後モ之ヲ守ルノミナラス本大臣ノ豫想ト
シテ述ヘタルカ如キ事態ノ生セサルヘキコトヲ言明セラ
レタル點ハ充分了承セリ

尙英「ソ」協定ハ單ニ獨逸ニ向ケラレタルモノナリトノ
七月十五日ノ建川大使ニ對スル「モロトフ」人民委員ノ
言明ニ付注意ヲ喚起セラレタル點ヲ了承スルト共ニ
「ソ」政府カ第三國ニ對シ極東ニ於テ領土ヲ租賃、讓渡
シ軍事基地ヲ提供スルカ如キコトハ過去ニ於テモナク又

今後モナカルヘシトノ御言明ハ充分ナル満足ヲ以テ了承セリ

次ニ最近日本カ滿洲國ニ於テ爲シツツアル軍事上ノ準備ニ付説明ヲ求メラレタルカ之ニ付テハ兎ニ角隣國ニ於テ稀有ノ大戦行ハレ居ル場合之カ波及ヲ阻止スル爲必要ナル措置ヲ講スルコトハ勿論又共同防禦上ノ義務ヲ有スル日本トシテハ滿洲國ノ治安維持ノ見地ヨリスルモ之ニ對處スルノ措置ニ出テサルヲ得サル次第ナリト述ヘ得ヘシ又先刻御話シノ如ク日「ソ」間ニ猜疑心ヲ醸成セシメン爲ノ宣傳乃至第三國側ノ策動モアリ得ヘシトノ點ニ付テハ日本政府モ一應ノ考慮ヲ爲スヘシ斯カル次第ニテ若干兵力ノ動員ハ事實ナルカ繰返シ申述ヘタル通り帝國ハ中立條約ヲ嚴守シ貴國トノ善隣關係ヲ維持増進シ度キ意向ナルコトヲ繰返シ言明ス

最後ニ支那トノ問題即チ援蔣ノ問題ナルカ之ハ法律論ヨリモ寧口精神ニ於テ御話シタル次第ニテ若シ「ソ」側ニ於テ蔣介石ヲ援助シツツアル事實アリトセハ之中止ヲ望ム旨述ヘタル迄ナリ

尙又新聞其他ノ傳フルトコロニ依リ「ソ」聯ハ浦潮ヲ通

シ米國其他ヨリ武器ヲ輸入シ居ルコト承知シ居ルトコロ之ニ付テハ松岡前大臣ヨリ貴大使ニ申述ヘタル通り何トシテモ三國同盟カ現在日本外交ノ基調ヲ爲シ居ル關係上此ノ輸入量カ今後増加セハ日本政府ヲ極メテ機微ナル地位ニ立タシムヘキニ付此ノ點ニ付テハ友好善隣ノ精神ニ從ヒ帝國カ今後斯カル立場ニ置カルルカ如キコトナキ様御考慮アリ度シ

「スメタニン」ニツ許リ質問アリ

(一) 貴大臣ハ事態變化セルヲ以テ利權問題ノ解決ニハ別個ノ考慮拂ハレサルヘカラスト述ヘラレタルカ利權問題ニ付松岡、「モロトフ」兩氏間往復書翰ニ依リ出來居タル話合ハ消滅セリト爲サルルヤ將又有效ナリトセラルルヤ

(二) 貴大臣カ最近ノ日本及滿洲ニ於ケル軍事上ノ準備ニ付述ヘラレタルトコロハ『右ハ「ソ」聯ニ向ケラレタルモノニ非ス』ト解シ差支ヘナキヤ

豊田大臣 御質問ニ答フヘシ

(一) 利權問題ハ御承知ノ通り最近資金凍結令等ニ依リ日本ノ貿易ハ著シク制約セラレ從テ石油ノ問題等ハ帝國ニ

トリテハ重要ナル問題トナレリ之事情變化セリトノ一
ノ説明ナリ然モ此ノ事情ハ松岡、「モロトフ」會見後
ニ起レル新シキモノナレハ私モ利權問題ニ付テハ充分
研究シ其ノ内根本的ニ解決シ度シト考ヘ居リ別ニ御相
談スルコトトナルヘシ

(二)ノ點ハ貴大使ノ御話通りナリ

「スメタニン」本日ノ會談ニ於テ貴大臣ヨリ累ネテ日本政
府カ中立條約ヲ遵守シ今後モ守ラルルコトヲ承リタルハ
欣快ナリ

利權問題ニ付テハ貴大臣ニ於テ詳細御研究ノ上後日御話
シアルヘキ旨了承セリ

又最近日本ノ行ヒツツアル軍事的準備カ決シテ「ソ」聯
ニ向ケラレタルモノニ非ストノ貴大臣ノ言明ハ大ナル滿
足ヲ以テ拜聽セリ

自分ハ貴大臣ト共ニ日「ソ」間ニハ善隣友好關係ヲ増進
セシムヘキ一切ノ根據アルコトヲ確信ス

阪本局長 大臣ノ命ニ依リ一ノ事實問題ヲ申上度先日ノ會
談ニ於テ大臣ヨリ阪井組合^{坂カ}ノ利權ニ言及セラレタルニ貴
大使ハ四年前着任前本件ハ既ニ解決済ミニテ其ノ後曾テ

日本側ヨリ本件ニ觸レタルコトナシト述ヘラレタリ實ハ
其點ニ付將來誤解ナキ様事實丈ケヲ述ヘタシ今ヨリ約二
年半前ノ一九三九年末亞港ノ「ソ」側機關紙「ソヴィエ
トスキー・サハリン」紙ニ阪井組合^{坂カ}利權ノ對照タル「ア
グネヴォ」炭坑カ「ソ」側企業ニ依リテ經營セラレ居レ
ル旨ノ記事アリタルニ依リ日本側ハ「モスクワ」ニ於テ
文書及ヒ口頭ヲ以テ「ソ」側ノ右利權不法回收ニ嚴重抗
議シ「ソ」側モ亦之ニ回答ヲ爲シタルコトアリ實際上本
利權ヲ環リテ斯カル經緯アリタル次第ニテ日本側ハ從來
ノ抗議ヲ今モ尙維持シ居レリ之ハ將來問題トナルコトア
ルヘキヲ以テ事實トシテ申上ケ置クヘシ

「スメタニン」阪本局長ノ述ヘラレタル事實ニ付テハ自分
ハ承知シ居ラス又何時斯カルコトアリタルヤモ知ラス取
調ヘタル上ニテ御返事スルコトト致度シ

尙右會談終了後野口通譯官ヨリ「ジューコフ」參事官ニ對
シ電話ニテ豊田大臣ハ本日ノ會談ハ他ニ漏レサル様希望セ
ラレ居ルニ付其旨「スメタニン」大使ニ傳達セラレ度ト述
ヘタルニ同參事官ハ之ヲ了承セリ

以上

313 昭和16年8月19日 在ソ連邦建川大使より
豊田外務大臣宛(電報)

モスクワにて資源分配に関する英米ソ三国会議

開催予定につき対ソ申入れ事項の回示方請訓

モスクワ 8月19日後発

本省 8月19日夜着

第一〇七八號(至急、館長符號扱)

現下ノ複雑ナル國際情勢下ニ於テ帝國カ日蘇中立條約ヲ守ル爲ニハ蘇側ニ於テモ之ニ相應スル態度ニ出スヘキコトニ付テハ前大臣及貴大臣ヨリ既ニ詳細蘇聯政府ニ通シアルモ資源分配ニ關シ近ク當地ニ開催セラルヘキ英、米、蘇三國會議ノ開會前貴地又ハ當地ニ於テ更ニ蘇聯邦政府ノ注意ヲ喚起シ置クコト必要ナリト存スルニ付御同意ノ上ハ右大至急御詮議相成リ當地ニテ申入ヲ爲ス場合ニハ申入事項ニ付詳細御回電相成度シ

314 昭和16年8月24日 在独国大島大使より
豊田外務大臣宛(電報)

ドイツ大本營にてリッペントップと會談に

こいつ

ベルリン 8月24日後発

本省 8月25日前着

第一〇六三號(館長符號扱)

二十三日「リ」外相ノ求ニ應シ大本營ニ飛行シ「リ」ト午餐ヲ緒ニシ約四時間會談セリ尙「リ」ハ「カイテル」元帥トモ約一時間二亘リ會談セリ會談内容別電ス

315 昭和16年8月25日 在独国大島大使より
豊田外務大臣宛(電報)

独ソ戦の見通しおよび米國参戦の可能性等を
めぐるリッペントップとの會談報告

ベルリン 8月25日発

本省 着

第一〇六四號(極秘、館長符號)

往電第一〇六三號ニ關シ

「リ」外相ノ語レル所左ノ通り
一、「リ」ハ獨「ソ」開戦以來將ニ二ケ月ニ及ヒ獨「ソ」戦局ノ前途竝ニ其ノ間ニ於ケル世界情勢ニモ種々ノ變化ヲ

生シタルヲ以テ之ヲ同盟國タル貴國政府ニ傳ヘ且貴國政府ノ御考ヲ承ルコトハ兩國共同上極メテ必要ナリト考ヘ來訪ヲ願ヒタル次第ニシテ獨「ソ」戰ノ經過竝其ノ將來ノ推移ニ付テハ特ニ貴國ノ知ラントセラルル所ナルヘシト存シ詳細ハ後刻「カイテル」元帥ニ其ノ説明ヲ依頼シ置ケリト冒頭シ「リ」自身先ツ概略ノ戰況説明ヲ爲セルカ對「ソ」作戰カ今年冬期ニ及フ旨ヲ述ヘタルヲ以テ（別電第一〇六五號參照）（見當ラズ）本使ヨリ七月二十七日「ヒ」總統トノ會見ノ際「ヒ」ハ八、九月上旬迄ニハ終了スヘシト述ヘラレタルカ豫定ヨリ遅レ居ルヤニ認メラルルカ如何ト問ヘルニ對シ「リ」ハ何分「ソ」聯邦軍力豫定以上ノ量ヲ有シ仲々頑強ニ抵抗スル爲永引キタルコトハ事實ナリ然レ共「ヒ」總統ノ主義ハ情勢ノ變化ニ應シ實際的ノ對策ヲ實行スルニ在リテ對「ソ」戰ニ付テモ一般ノ情勢ヨリ判斷シ必スシモ大ナル損害ヲ賭シテ急ク必要ナキト共ニ對英攻撃ノ條件トシテ是非共「ソ」野戰軍ノ殲滅ノ目的ハ之ヲ達成セサルヘカラスト考ヘアル爲時日ヲ豫想スル次第ナルカ冬期前ニ於テ「ソ」聯野戰軍ノ大部ヲ擊滅シ且ツ其ノ主要軍需工業地帶ヲ占領シ事實上「ソ」

聯邦ヲシテ無害ノモノタラシムルコトハ必ス本年中心ニ實現スヘク又確實ナル成算アリト述ヘタリ

二、本使ヨリ「スターリン」政權ノ前途ニ關シ質問セルニ對シ「リ」ハ今ノ所何トモ云ヒ得ス又獨逸トシテハ決シテ「ス」政權ノ崩壞カ容易ニ起ルカ如キコトヲ前提トシテ作戰ヲ爲シ居ルニ非サルカ自分トシテハ莫斯科カ指揮通信ノ中心ニシテ又「ソ」聯邦カ之ニ代ルヘキ地點ヲ充分準備シアリトハ認メラレサルニ付若シ「ス」カ莫斯科ヲ放棄スルカ如キ事態トモナレハ「ス」ハ著シク統制力ヲ失フヘク又一面之カ「ス」カ容易ニ莫斯科ヲ去リ得サル理由ナリト認メアリ殊ニ此ノ冬ハ非占領地域ニ於テハ寒氣ト飢餓ノ爲何十萬ノ人カ死スコトモナルヘク如何ナル暴動カ起ルヤモ知レス「ス」政權カ存立スル場合ニ於テモ其ノ實勢力ハ殆ント失ハルヘシト答ヘタリ、「スターリン」退却ニ際シ一切ヲ破壞スヘキ旨命令セルモ現在迄ノ迅速ナル作戰經過ノ爲「ソ」軍ニハ勿論此ノ餘裕ナク例ヘハ「ニコラエフ」ニ於ケル軍艦ノ如キモ僅カニ其ノ進水臺ノ木材ヲ燒キタルニ過キス又同地ニ於テ銅、錫、生護謨ノ多量ヲ鹵獲シ全「ソ」聯邦ノ六一%ノ鋼鐵ヲ供

給スル「クルオイログ」製鋼場ノ如キモ曾テ獨逸ノ供給セル製鋼設備ヲ殆ト完全ニ獨逸軍之ヲ占領シテ「ウクライナ」ノ穀物ノ如キモ燒却ヲ免カレ大部ヲ入手セル次第ニシテ「ゲーリング」ハ既ニ「ウクライナ」ニ赴キ經濟建設ヲ主宰シアル程ニシテ今年ハ獨逸カ豐作ナル上ニ「ウクライナ」ノ食糧資源ヲ利用シ聯合國ノミナラス歐洲全般ニ充分ナル食料ヲ供給シ得ヘク此ノ冬ハ歐洲カ飢餓ニ瀕シ獨逸ハ手ヲ燒クヘシト云フカ如キ英米ノ宣傳ハ全ク虚構ナリ

三、占領地ノ治安ハ「ヒムラー」之ニ當リ居ルカ「パルチザン」等ノ憂無ク次期作戰終了セハ占領部隊ヲ殘シ獨逸軍ノ大部ハ本國ニ引揚クヘシ

四、獨逸ハ對英攻撃ノ爲既ニ其ノ勢力下ニ在ル歐洲諸國ノ軍需工場ヲ利用シ居ルカ今次獨「ソ」戰爭ノ結果「ソ」聯邦軍需工業ノ大部ヲモ利用シ得ル成算立チタリ之ハ開戦前全ク豫期セサリシコトニシテ意外ノ儲ト云ハサルヘカラス

五、本使ヨリ獨佛關係ニ付種々噂アルカ如何ト問ヘルニ對シ「リ」ハ所謂悪化ノ噂ハ全ク根據ナキモ素々獨逸トシテ

ハ佛ヲ歐洲ノ一國トシテ殘スコトニハ決メ居ルモ佛カ一步ヲ讓レハ獨逸ハ之ニ一步ヲ報ユルノ方針ニシテ佛ヲ對英作戰ニ協力セシムルコトニハ努ムルモ特ニ親善關係ヲ結フカ如キ考ハ之ヲ有セス又佛海軍ヲ利用スル如キ意嚮ハ全然ナシト答ヘタリ

六、土耳其トノ關係ニ付テハ漸次英國ニ對スル信頼ヲ失ヒ最近獨「ソ」戰ノ進展ニ伴ヒ獨逸ニ靡キ來タレルカ依然トシテ用心深く目下ノ所三國條約ニ加入セシムル見込付カス先日モ在獨土大使ヲ招致シ昨年十一月「モロトフ」ノ海峽方面ニ對スル野望ヲ獨逸カ抑ヘタルコト等話シ大ニ說得シ置キタルカ更ニ近ク「パーペン」ヲ呼ビ返ヘシ事情ヲ明ニスル豫定ナリ

七、「アフリカ」、小「アジア」方面ハ獨逸トシテハ支作戰場ト認メアルモ更ニ此ノ方面ニ於ケル作戰ヲ進捗セシムル豫定ニシテ在阿弗利加軍「ロンメル」中將ニハ更ニ獨逸軍部隊ヲ増加セリ

八、先般ノ「チャーチル」「ルーズベルト」會談ニ關シ確實ナリト思ハルル情報ニ依レハ「チ」ハ盛ニ米國ノ參戰ヲ要望シタルカ「ル」ハ之ニ同意セス抽象的ナル八ヶ條ノ

聲明ニ終リタリ對「ソ」戰後米國內ニハ參戰ニ對スル反對氣運ハ益々強マリツツアリ元來「ル」外交政策ハ一貫シテ「ブラフ」政策ニシテ英「ソ」支等ニ武器ノ供給ヲ宣傳シツツアルモ事實ハ宣傳ト異ルノミナラ米國自身カ參戰スル爲ニハ大ナル準備ヲ爲ササルヘカラサルモ此亦進捗シ居ラス三國同盟カシツカリ手ヲ組ミ居レハ米國ハ決シテ參戰出來スト見居レリ「リ」ハ日本カ對「ソ」戰ヲ開始スルモ米國カ起ツカ如キコトナク傳ヘラルルカ如ク米カ來年ニ至ラハ參戰シ得ヘシトノ觀測當ラスト見居レリ

六、本會談ノ際「リ」ハ頻リニ帝國ノ執ルヘキ方策ニ關シ質問シタルヲ以テ本使ハ帝國ノ政策ハ御前會議ニ依リ決セラルヘキモノニシテ從テ具體的ニハ本使モ承知シ居ラサル旨應答シ貴電第七〇五號、第七四〇號等ニ基キ帝國ハ政府國民共ニ英米「ソ」支等ノ包圍圈カ益々強化セラレツツアルコトヲ認識シ居リ四年懸リノ支那事變ニ依リ各種ノ困難アルモ銳意全面戰爭ノ準備ヲ整ヘ居レリ決シテ現歐洲戰爭ヲ傍觀シ居ルニ在ラス飽ク迄三國條約ヲ基礎トスルコトニ付テハ日本ニ於テハ稀ナル大詔スラ煥發セ

ラレタル次第ナレハ十二分ニ日本ヲ信セラレタキ旨力説シ置ケリ

尙特ニ日本ノ米國ニ對スル態度ニ付テハ大ナル懸念ヲ有スルカ如キ印象ヲ得タルヲ以テ此ノ點ニ付英米側ヨリ出ル宣傳ニ迷ハサルルコトナク既ニ松岡前外相カ累次言明セル通り日本ハ米國ノ參戰ヲ阻止スル爲ニハ凡ユル方法ヲ盡スヘキコトヲ信セラレタシト述ヘ置キタリ
本電陸海軍ニ傳ヘラレタシ

316 昭和16年8月25日

在独国外務大臣宛(電報)
豊田外務大臣宛(電報)

独ノ戰況に関するカイテル元帥の説明報告

ベルリン 8月25日發

第一〇六六號

本省 着

八月二十三日大本營ニ於テ「カイテル」元帥自ラ本使ニ對シ獨蘇戰況ニ關シ左ノ如キ説明ヲ爲セリ

一、蘇軍ノ損害及殘存部隊ノ現況

蘇軍ノ損害ハ死傷捕虜ヲ合シ五百萬乃至六百萬ト見積リ

居ルモ捕虜百二十五萬ハ正確ニシテ死者ノ數ハ其ノ二倍
以上ニ達スヘキヲ以テ全損害五百萬ヲ下ルコトナシ

開戦以來戰場ニ現ハレタル蘇軍總兵力ハ二百六十二(師)
團ナルカ既ニ其ノ大部ヲ壞滅シ現在殘レル蘇軍兵力ハ約
六十師團ニ相當スルモ修正部隊多ク裝備著シク低下其ノ
戦力ハ約三分ノ一二減シアリト認メ居レリ

外ニ更ニ編成シタル師團四十アルモ右ハ開戦後十日乃至
十四日ヨリ召集ヲ始メ若干週間ノ豫備教育ヲ受ケタル十
六歳乃至四十六歳ノ者ヨリ成リ軍服ヲ着用セス帶革ヲ締
メタルノミナルモノ多シ又殆ト砲兵ヲ有セス歩兵部隊ハ
機關銃ニ乃至三ヲ有スルニ過キス特ニ幹部ハ甚タシク不
足シアリテ軍曹カ大隊長少尉准尉カ聯隊長トナリアルモ
ノヲ認ム

蘇聯邦壯丁數ヨリ推算シ尙十師團内外ヲ編成シ得ル可能
性ナキニアラサルモ兵員資源モ亦既ニ甚シク飽和點ニ達
シアリト判断セラルル飛行機ハ練習機等ヲ除キ戰場ニ於テ
使用ニ耐フルモノ千乃至二千ヲ有スルカ如キモ目下毎日
平均百機宛ヲ擊墜又ハ破壊シアルカ故ニ最早ヤ殆ト問題
トナラス

蘇聯邦軍ハ戰車師團及獨立部隊ヲ合シ約五十ヲ有セシカ
其ノ大部ヲ失ヒ殘リハ歩兵師團ノ火力ヲ補フ爲最近少數
宛ヲ歩兵師團ニ分屬使用シアリ、「ゲ、ペ、ウ」師團ハ
之ヲ尙使用セス莫斯科ニ於テ掌握シアリ又女子大隊ノ出
現セルモノアリ

之ヲ要スルニ蘇軍殘存戦力ハ數ニ於テ相當豊富ノ如ク見
ユルモ最早ヤ核心師團皆無トナリ全ク統一力ヲ缺キ且裝
備甚シク不良トナレルヲ以テ今後ノ作戰ハ愈々容易トナ
レリ

二、獨逸軍ノ損害

獨逸軍ノ損害ハ戰死傷者行方不明者一切ヲ合シ最近迄ニ
二十萬強ナリ戰死者ノ數ハ現在約四萬ニ昇リ居ルナラン
モ正確ナル數ハ八月十六日調三萬五千ナリ

獨逸軍ノ損害ハ森林戰ニ於テ砲兵火力及戰車ノ威力ヲ充
分ニ發揮シ得サリシ爲比較的多シ戰車ハ波蘭戰以來ノ體
驗ニ基キ現地修理班ヲ完備セルヲ以テ元來敵火ニ依ル損
害少キ上ニ機械ノ故障ハ迅速ニ現地ニ於テ修理シアルカ
故ニ戰車師團ハ平均約七十五%ノ戦力ヲ保有シ居リ之ヲ
補フ爲今日迄ニ補充セル戰車數ハ獨逸一ケ年分ノ製造高

二過キス

三、現在ノ戰況

(イ)南部軍集團

「オデツサ」ハ目下之ヲ完全ニ包圍シアリ元來同地ハ要塞ナルカ故ニ力攻ヲ避ケ重砲ヲ展開シ要塞攻撃ノ要領ニ依リ攻撃中ナリ「ドネプロ、ペトロフスク」ノ敵ノ橋頭堡^(橋カ)ハ野戰築城ナルモ相當堅固ナルヲ以テ之亦充分ナル砲兵ヲ展開シ攻撃中ナリ「ド」ヨリ「キエフ」ニ至ル「ドネプル」左岸ハ敵ノ微弱ナル新募部隊ニ依リ占領セラレ居リ「キエフ」ハ市街戰ニ依ル損害ヲ避クル爲目下砲兵力ニ依リ建築物破壊中ニシテ然ル後歩兵攻撃ニ移ル筈ナリ

「ウクライナ」方面ハ急ニ戰局進展シ既ニ「ブジヨンヌイ」軍ノ大部ハ之ヲ殲滅スルヲ得タリ又作戰力迅速ナリシ爲穀物其ノ他殆ト破壊セラレ居ラス軍集團ハ續イテ「ドネプル」ヲ渡河シ「ハリコフ」及「ドンバス」方面ニ前進スル豫定ナルモ裝甲師團ハ連續使用セル爲若干ノ休養整頓ヲ要スヘシ

(ロ)中部集團^(軍カ)

「スモレンスク」東方地區ニ達シタル軍集團ハ兩翼集團トノ聯繫上概ネ該線ニ停止シアリテ有力ナル兵團ヲ南部軍集團方面及裝甲兵團ノ若干ヲ北部軍集團方面ニ轉用セリ前者ハ「コルステン」北方地區ニ在ル有力ナル蘇軍ノ兵團ノ退却ヲ擁シ「ゴメル」東南方地區ニ於テ之ヲ捕捉殲滅スル筈ナリ、後者ハ既ニ「レーニングラード」東南方地區ニ達シ北部軍集團ノ戰鬪ニ參加シツツアリ

(ハ)北部軍集團

「ノヴゴロド」北方「チユータウ」附近ニ於テ既ニ莫斯科「レーニングラード」鐵道ヲ遮斷シアリ「レーニングラード」ノ防禦戰ハ「ネヴァ」河ニ沿ヒ其ノ西方ヨリ芬蘭灣ニ亘ル線ニシテ獨逸軍ハ要塞攻撃ノ要領ニ依リ工兵竝砲兵ノ展開ヲ終リ既ニ攻撃開始中ニシテ近ク之ヲ占領シ得ヘシ、傍受セル通信ニ依レハ「ヴォロシロフ」元帥ハ既ニ「レーニングラード」ヨリ逃避セリ、「エストニア」ニ於テハ「レヴァール」占領ヲ殘スノミナルカ之ニ對シテモ力攻ヲ避ケ先ツ主トシテ各種重砲ニ依リ之ヲ砲擊中ナリ北部兵團カ「ス」鐵道北

方ニ向ヒ作戰シアルカ爲蘇軍ハ「コルム」方面ヨリ軍集團側面ニ對シ大逆襲ヲ行ヒシカ之ヲ擊退シ其ノ側面ハ安全ナリ

(二)芬蘭軍方面

芬蘭軍ハ獨逸軍ト共同シ「ラドガ」湖西方地區及「ネガ」湖西方地區ニ進出シアルカ近ク「ムルマンスク」方面戰況ノ進捗ヲ計ル爲「ナルヴィツク」防禦ニ勇名ヲ馳セシ「デイトル」將軍ノ兵團ヲ諾威ヨリ海路該方面ニ輸送スル筈ナリ

四、獨逸軍ノ企圖

各軍集團ノ狀況上述ノ如クナルヲ以テ目下此等兵團ノ主力ヲ第二期作戰ノ戰線上ニ整頓中ニシテ近ク本作戰ヲ開始スル豫定ナリ、而シテ第二期作戰ハ「ドンバス」莫斯科附近一帶竝ニ「レーニングラード」工業地帯ヲ占領スルト共ニ蘇軍殘存野戰軍ノ捕捉殲滅ヲ目標トスルモノニシテ之カ爲十月下旬又ハ十一月月上旬迄作戰ヲ繼續スル豫定ナリ高架索地方ヲ占領スル企圖ナルカ該方面ハ冬季作戰ヲ許スヲ以テ狀況ニ依リテハ十二月ニ入ルヤモ知レス而シテ「ウラル」迄有力ナル部隊ヲ進ムル必要アリヤ或

ハ氣象狀態上之ヲ許スヤハ第二期作戰ノ成果竝ニ集結時期ニ關スルヲ以テ未タ豫言シ難シ然レ共獨逸軍統帥部トシテハ十月末頃迄ノ第二期作戰ヲ以テ蘇野戰軍ノ殆ト全部ヲ殲滅シ且蘇聯邦大部ノ軍需工業地帯ヲ占領スヘキヲ以テ最早ヤ蘇軍再起ノ餘地ナク所要ノ占領部隊ノ外大部ハ獨逸國內ニ引揚クルヲ得ヘシト考ヘ居レリ

五、其ノ他

(イ)蘇軍統帥ハ極メテ拙劣ニシテ指揮官ノ指揮戰術能力ハ不良ナリ、然レ共一般ニ攻撃精神旺盛ニシテ西歐諸國軍ニ於テ嘗テ見サルカ如キ戰利ヲ無視シ全ク人命ヲ顧慮セサル逆襲ヲ到ル所ニ於テ行ヒツツアリ又工場勞働者或ハ女子ニ到ル迄戰場ニ驅出アル狀況ニシテ其ノ量多キ爲之カ處理ハ容易ナラス獨逸軍ハ之ニ對シ努メテ火器ノ效力ヲ利用シ無益ノ損害ヲ避ケツツアリ

(ロ)開戦以來蘇軍ノ殲滅ヲ第一義トシアル爲蘇軍ノ小部隊ニ對シテスラモ正面攻撃ヲ避ケ完全包圍ヲ行フコトトシアリ

(ハ)舊要塞又ハ大市街等ニ對シテハ無益ノ損害ヲ避ケル爲之ヲ力攻スルコトナク要塞攻撃ノ方法ヲ準用シアリ

(二)從テ時日ノ遷延ヲ來セルモ著シク自己ノ損害ヲ減少シ
戰果ヲ大ナラシメタリ實ハ獨逸軍ニ於テモ戰前斯ノ如
キ大戰果ヲ豫想セサリシ次第ナリ

(ホ)戰線長大ナル爲戰場ノ天候區々ニシテ全作戰ノ指揮ニ
ハ豫期セサル困難アリタリ北部方面ハ概ネ天候良好ニ
シテ中部方面之ニ續キ南部方面ハ開戰以來豪雨ニ惱マ
サレ作戰ニ大ナル困難ヲ感セシカ最近ニ至リ天候恢復
セル爲漸ク作戰進捗ヲ見タリ

(ハ)直距離二千軒ヲ越ユル戰線ニ於ケル作戰ニ於テ狀況ノ
變化ニ應スル重點形成ニハ一般部隊ノ移動ニ依ルコト
困難ナリシモ優勢ナル空軍並機械化兵團ヲ使用シ容易
ニ之ヲ實施シ得タリ

(ト)開戰以來ノ迅速ナル作戰ニハ素ヨリ機械化兵團ノ貢獻
鮮カラサリシモ結局ハ歩兵行軍力ニシテ之ニ負フ所多
大ナリシヲ感セリ

(ケ)開戰前ヨリノ準備ニ依リ蘇聯邦鐵道ノ軌隔ノ改造迅速
ニ行ハレタルコトハ著シク迅速ナル作戰ヲ容易ニシ現
在既ニ「スモレンスク」「プスコフ」ノ線迄改造終了
セリ

(リ)蘇軍ハ今日迄細菌及毒瓦斯ヲ全然使用シアラス將來モ
使用セサルモノト判斷シアリ

本電帝國陸軍ノ參考ニモ資シ得ヘシト考ヘラルルヲ以テ稍
詳細ニ電報セリ

本電陸海軍ニ傳ヘラレ度シ



317 昭和16年8月29日 在独国大島大使より
豊田外務大臣宛(電報)

ヒトラー・ムツソリーニ會談の内容等に関する情報報告

る情報報告

ベルリン 8月29日前発

本省 8月29日夜着

第一〇八一號(館長符號號)

二十八日確實ナル某獨人カ本使ニ語レル所左ノ如シ

「ムツソリー」ハ二十五日「ウクライナ」ニ來タリ

「ヒ」總統ト共ニ四日間ニ亘リ戰線視察ヲ行ヒタリ主タ

ル會談内容ハ對蘇戰ニ關スルモノト共ニ今後行ハルヘキ
近東及阿弗利加ニ對スル獨伊ノ共同作戰ニ關シ協議セル

モノナリト認めラル

本日豫定ヲ終了シ歸伊スヘシ

二、「イラン」ハ本日英蘇ニ屈服セルカ右ハ當然ノコトニシテ英蘇側武力ヲ行使セサルヲ得サルニ至レルコト而シテ一日ニテモ「イラン」カ抵抗スルコトニテ獨トシテハ満足シアリ獨トシテハ近東事態ニ對シ消極的ナル關心ヲ有スルニ過キササルモ英國勢力打倒ノ一方トシテ放置スル能ハス

三、土耳其ノ態度ハ依然曖昧ナリ「パーベン」ハ樂觀の見透ナルモ自分ハ平和手段ニ依ル解決可能ナリトハ認ムルモ公算ハ少シト判斷シ居リ數週間ノ内ニハ何レカニ決定セラルヘシ獨ノ土ニ對スル主タル要求内容ハ勿論軍隊通過ナリ「リスト」軍ハ既ニ軍集團ニ強化セラレ勃土國境ニ待機シアリ

伊、土へ轉電セリ

318

昭和16年9月4日

在独国外務大臣宛(電報)

日米交渉の帰趨に関して三国同盟を堅持し対

米妥協をすべきではない旨意見具申

ベルリン 9月4日前發
本省 9月4日夜着

第一一〇〇號(館長符號扱)

日米交渉ノ經緯ニ付テハ何等ノ通報ニ接シ居ラサル爲本使ハ之ニ關シ識ル所ナキモ英米等ノ通信「ラジオ」ハ頻リニ右ニ關スル報道ヲ爲シ居リ現在全世界ノ關心之ニ向ケララル状態ニシテ之カ歸趨ハ帝國ノ將來ニ甚大ノ關係ヲ有スルヲ以テ茲ニ重ねテ意見ヲ具申ス

一、先般來帝國ノ佛印進駐ノ成功ヲ謳歌シ當國新聞ハ引續キ英米等ノ對日包圍政策ヲ論シ右ニ關スル帝國新聞ノ強硬論說ヲ傳ヘ居リタル處「チャーチル」ノ威嚇的演說ニ依リ日米交渉ノ事實公ニセラルルト共ニ今回更ニ近衛總理ノ「ロ」大統領ニ對スル「メツセーヂ」ノ件報道セラルルニ及ヒ獨逸朝野カ恰モ帝國ハ英米ノ恐喝ニ屈セルヤノ印象ヲ受ケタルコト蔽フヘクモアラス本使モ既ニ數回之ニ關シ「リ」外相ノ質問ヲ受ケタル程ナリ

米國カ最近ニ至リ對日包圍策ト共ニ反樞軸政策特ニ反獨的態度ヲ露骨ニシ來レルコトハ「ロ」大統領カ樞軸國ヲ敵國呼バハリシ居ルコトニ於テモ明カナリ斯ル情勢ニ於

テ帝國トシテ執ルヘキ態度ハ飽迄三國條約ノ精神ヲ堅持シ獨伊ト共ニ世界新秩序建設ニ邁進スルカ然ラスンハ三國條約ヲ棄テテ英米陣營ニ趨リ英米トノ親善ヲ求ムルカノ二ノ途カ殘サレ居ルノミニシテ樞軸及英米ノ兩陣營間ヲ泳キ廻リテ一時ノ平安ヲ求メントスルカハ事實上ニ於テ不可能ナリト謂フノ外ナク其ノ結果ハ帝國ノ信威ヲ中外ニ失スルハ勿論大東亞共榮圈ノ建設ヲ斷念セサルヘカラサルノミナラス戰後ニ於ケル國際の孤立ヲ招來シ將來東亞ニ於テ帝國獨リ英米ト角逐スルカ或ハ英米ニ屈服スルカノ運命ニ立到ルヘキコト明カナリト信ス

二、⁽²⁾帝國政府ニ於テハ假令日米交渉ヲ行ヒ妥協ノ成立ヲ見ルモ獨逸トシテハ現在帝國ヲ英米ノ陣營ニ追ヒ遣ルコトハ不利ナルヲ以テ好シテ日獨關係ヲ惡化セシムルカ如キコトナシト判斷セラレ居ラルルヤニ認メラルル處獨逸今日ノ外交ハ「ヒ」總統ノ人格ノ影響ヲ受ケ居ルコト寔ニ大ナルモノアリ帝國カ一度ニ三國條約ヲ締結シ乍ラ大事ノ瀬戸際ニ至リ之ヲ裏切りタリトノ印象ヲ與ヘ又獨逸ニ要望シ其ノ盡力ニ依リ列國ヲシテ汪政權ヲ承認セシメ乍ラ米ノ仲介ニ依リ蔣ト和スルカ如キニ於テハ三國條約ハ事

實上廢棄セラレタルモ同様トナリ蘇聯邦處理ニ關シ將又蘭印、佛印等ノ處分ニ關シ到底獨ノ友好ナル協力ヲ期待シ得サルハ勿論情勢如何ニ依リテハ其ノ妨害行爲スラモ豫期セサルヲ得サルヘク更ニ獨ノ對支外交ト雖如何様ニ變化スルヤモ計ラレサルコトニ付充分留意セラルルノ要アリト存ス歐洲ヨリ近東、亞弗利加ニ跨リテ霸權ヲ確立スヘキコト時間ノ問題トナリ居ル獨逸ト今ニ至リテ手ヲ切ルコトノ蒙ル不利益ハ假ニ利害ノ打算ヨリスルモ一時のナル日米妥協ヲ以テ到底償ヒ得サルコト疑ナシト信ス

(帝國ニ於テ政策ノ大綱ヲ決定シ積極的ニ獨伊トノ協調ヲ行フニ於テハ獨ノ力ヲ我ニ有利ニ利用シ得ルニ止ラス或ル程度ハ我カ企圖ニ協調セシムルコトモ可能ナルヘキコトハ繰返シ本使ノ申進セル通りナリ)

三、⁽³⁾帝國政府ニ於テハ獨蘇戰ノ延引ニ依リ獨ノ地位ハ不利トナリ對英決戰モ或ハ不可能ニ非スヤトセラレ更ニ米國ノ參戰ヲモ考慮シ今次戰爭ハ概ネ長期持久戰ニ陥ルヘク全く獨トノ聯絡ヲ絶タレタル今日トナリテハ米ト妥協スルノ他ナシトノ論モ或ハ起リ居ルニ非スヤト思考セラルル處開戰以來二年間ノ戰績ヲ精細ニ檢討セラルレハ幾度カ

一般ノ豫想ヲ裏切り獨ノ企圖カ成功セル事實明カニシテ殊ニ將來ニ關シテハ素ヨリ變化ヲ豫期セサルヘカラサルモ公平ニ見テ對蘇戰ハ冬季以前ニ目的ノ大部ヲ貫徹スヘク時機遷延スル場合ニ於テモ對英決戰ハ之ヲ敢行スヘク之等ニ關シテハ帝國政府モ相當ノ信ヲ置カレンコトヲ望ム(歐洲戰爭ノ推移カ帝國ノ企圖ニ大ナル關係アルハ申ス迄モナキコトナルヲ以テ之ニ關シテハ當方ニ於テハ獨側情報ヲ更ニ陸海軍武官トモ共同研究シテ見透シニ慎重ヲ期シ居ル次第ニシテ勿論本使ハ之ニ對シ依然責任ヲ負フヘク政府ニ於テ所見ヲ異ニセラルル點或ハ疑ハシキ點アラハ腹藏ナク其ノ都度申越サレタク當方ニテハ之ヲ充分査覈スヘク歐洲戰爭ニ關スル確タル見透シナクシテ我カ外交ヲ實施スルカ如キコトナキ様御互ニ努力致度シ)四年餘リニ亘ル支那事變ニ依リ蒙リタル創痍ニ依リ帝國ノ當面スル事態ハ洵ニ苦シキモノナルコトハ本使ト雖重々了解スル所ナリト雖三國條約ヲ結ヒテ世界新秩序ノ建設ヲ誓約シタル以上今暫ク獨指導者ノ言ニ將又獨ノ國力ニ信賴シ帝國亦大國タルノ矜持ト自信トヲ以テ現下ノ難局ニ處スルコトヲ得サルヘキヤ況ンヤ英米ノ對日妥協

策ハ假裝敵國ヲ各個ニ擊破セントスル術策タルコト疑ヲ容レサルニ於テヲヤ明治維新、日清、日露兩役當時ト今日トハ素ヨリ時代ヲ異ニスト雖國際難局ニ於テ勇斷事ニ處スルノ緊要ナルコトニハ渝リナカルヘク滿洲事變以來ノ帝國外交カ動搖常ナク確乎タル方針ヲ缺キ以テ今日ノ事態ヲ招來シタルコトヲ最早ヤ繰返スヘキニアラス日米ノ妥協ニ依リ支那事變ヲ解決スルコトヲ得ハ一時ノ妥協ヲ享有シ得ルヤモ知レサルモ外列國ノ輕侮ヲ受ケテ國際孤立ニ陥リ内國民ノ希望ヲ失ハシメ國民精神ヲ萎靡セシムルコトトモナラハ其ノ害測リ知ルヘカラスト認ム興隆カ衰亡カノ岐路ニ立テル帝國ノ運命ヲ惟ヒ深憂已ムナシ敢ヘテ率直ニ所信ヲ披瀝シ貴大臣ノ御努力ヲ切望ス

319

昭和16年9月4日

在伊國堀切大使より
豊田外務大臣宛(電報)

ヒトラーおよびムツソリーニの東部戦線視察

状況に関する情報報告

ローマ 9月4日後発

本省 9月5日前着

第五六一號(館長符號扱)

三日安東ヲシテ「チアノ」ノ病氣快癒祝旁々「アンフーゾ」ト會見セシメタルカ安東ヨリ過日ノ「ムツソリニ」「ヒットラ」會見ニ於ケル東部戰線視察ノ印象如何ト訊ネタルニ對シ「ア」ハ自分ハ「ウクライナ」戰線ニ三日留マリタルノミナルカ同地方ハ極メテ好都合ニ運ヒ居リ獨伊軍ノ士氣共ニ振ヒ其ノ協力ハ完全ニ行ハレ全線ヲ通シ蘇軍ノ抵抗モ猛烈ナルカ勝利ハ確實ナリ蘇軍ノ飛行機ハ既ニ八〇〇ヲ失ハレ殘ル所ハ二、三〇〇ナリト推定セラレ居ルモ飛行機ノ素質低下著シキモノアリ目下「ハリコフ」ニ向ヒ進軍シツツアル獨軍ハ恐ラク今週ニハ「コーカサス」ニ達スルモノト思考ス「ボルガ」附近ハ歐露ニ於ケル蘇聯ノ最後ノ抵抗線ナルヘキモ夫ニ達スル迄ニ蘇軍ハ非常ナル損害ヲ蒙リ殆ト其ノ抵抗力ハ問題トナラサルヘシト語り更ニ政治問題ニ付種々兩雄ノ間ニ會談セラレタル模様ナルカ其ノ主要點ハ何ナリヤトノ問ニ對シ其ノ公表中ニモアル通り最後ノ勝利迄戰フコトヲ話シタルコトニシテ「ボルシエビキ」ヲ打倒シ「アングロサクソン」ノ勢力ヲ歐洲ヨリ驅逐スル意味合ニ於テ一般政治問題ニ付テモ話合ヒタリト答ヘ

恰モ新秩序建設ノ歐洲關係國會議開催サルヘシ等ノ風説アル處之ニ付何等語リタル所アリヤト訊ネタルニ對シ右様ノコトハ聞カス第一其ノ必要ハナカルヘシト言ヘリ其ノ際「ア」ハ日本ノ狀況ヲ尋ネタルニ依リ安東ハ可然答ヘ置キタル趣ナリ
獨ヘ轉電セリ

320 昭和16年9月15日

在ソ連邦建川大使より
豊田外務大臣宛(電報)

對ソ交渉は独ソ戦の帰趨を見極めた上で実施

すべき旨意見具申

モスクワ 9月15日後発
本省 9月16日前着

第一一四五號(館長符號扱)

日蘇交渉ニ關スル意見具申

一、前内閣ノ執ラレタル日蘇交渉方針カ今次ノ獨蘇戦ニ依リ再檢討ヲ要スヘキハ勿論ニシテ併モ新方針カ獨蘇戦局ト密接ナル關係ヲ有シ其ノ施策ノ緩急ハ其ノ推移ニ依ルヘキハ多言ヲ要セス

三、蘇聯邦ハ開戦當初帝國ヲ刺戟セサランコトニ意ヲ用ヒタルカ如キモ爾來英米トノ合縱ニ成功シ一方帝國カ諸般ノ事情ヨリ簡單ニ中立ヲ破棄シ得サルモノト判斷シ居ルカ如キヲ以テ既ニ劇甚ナル痛手ヲ蒙ムレルトモ莫斯科ノ線ヲ固守シ冬營トナルカ如キ場合利權及漁業問題ニ關シ容易ニ帝國政府ノ意思ニ追従スル態度ヲ見ルモノトハ考ヘ得ス

三、之ニ反シ「キエフ」「レニングラード」ノ陷落ニ次キ「ハリコフ」莫斯科ヲモ失フコトトナレハ「コーカサス」ノ保持モ困難トナリ僅ニ「ウラル」ノ工業地帯「アルタイ」地方ノ農業ヲ擁シ「ヴォルガ」河ノ線ヲ固守スル外ナカルヘク其ノ際蘇政權ハ物資的ニ云ヘハ人的資源ニ於テ「コーカサス」ヲ含ム一億九千萬ノ内一億四千萬ヲ失フコトトナリ其ノ他生産工場ノ八十五%其ノ産額ニ於テ鑛鐵六十七%石炭六十六%石油八十五%ヲ失フコトトナリ國民ハ精神的ニ挫折シ政權ノ輿望地ヲ拂フニ至リ帝國ニ對スル蘇政府ノ態度ハ前項ノ場合ト大イニ趣ヲ異ニスヘキハ疑ナカルヘシ

四、⁽³⁾此ノ際北樺太若クハ其ノ利權ノ割讓要求ノ如キハ平和的

交渉ヲ以テシテハ到底見込ナク然リトテ利權解消案ハ最早問題トナラサルヘキニ付何等カノ辭柄ヲ設ケテ蘇聯カ前項ノ狀態ニ陥ルヲ待ツヲ可トスヘク漁業ニ至リテハ彼カ從來涵養セル極東事態ノ變化ヲ逆用シ本春來ノ交渉ヲ廢棄シ新タニ無競賣及留三十二錢五厘ヲ主張シ應セサルニ於テハ彼ノ落膽困窮ヲ俟ツモ遲シトセサルナリ

五、要之本使ノ意見ハ對蘇交渉ヲ此ノ時機ニ於テ行フヲ不利トナスニ存ス過般貴大臣ハ東京蘇聯大使ニ對シ利權根本的解決ノ意思ヲ表明セラレアルニ付研究案ニテモ御通報ヲ得ルコトト期待セシニ今日ニ至ルモ其ノ事ナキニ由リ敢テ卑見ヲ開陳セシ所以ナリ利權漁業共御成案アラハ御回示相成度其ノ上ニテ更ニ意見申上度

321

昭和16年9月20日

豊田外務大臣、天羽外務次官

會談

三 国同盟条約の適用に関する対米申入れ等を
めぐる豊田外相、天羽次官とオット大使との

會談記錄

天羽次官「オット」獨大使會談ノ件

九月二十日獨逸大使次官ヲ來訪會談ス(正午―午後一時三十分、大臣後刻參加セラル)

大使 淺間丸ノ件ニ付御盡力ノ段感謝ス

先日外務大臣ニ會見ノ際大臣ハ今回ノ日米會談ハ七月十

四日野村大使宛訓令案ニ從ヒ交渉ヲ繼續シ居レリトノコ

トナルガ他ヨリ(引續キ會談中次官ノ問ニ對シ伊太利大

使ト答フ)ノ聞込ニヨレバ大臣ハ右案文ニ變更ヲ加ヘタ

ルモノニ付交渉セラレ居レリトノコトナルガ何レノ方ヲ

信ズベキヤ

次官 大臣ト貴大使トノ會談ニ付テハ詳細承知セザルガ右

何レノ方モ眞ナリト思フ即チ野村大使宛訓令ノ趣意ニ依

ルガ語句ニ於テハ變リ居ルモノナルベシ

大使 米國側ハ右ノ提案ニ對シ意思表示ヲナシタルヤ

次官 右案ハ大臣ヨリモ御話アリタルコトト思フガ米國側

ニハ提示セザリシモノナリ、交渉ハ貴大使ガ大臣ニ御會

ヒセラレタル以來進捗シ居ラズ、其ノ後事態ニハ何等ノ

變化ナシ

大使 三國條約ニ付テハ右野村大使宛訓令ニ從ヒ交渉セラ

レ居ルヤ

次官 三國條約ニ付テハ未ダ何等觸レ居ラズ

大使 三國條約ニ觸レズシテ米國ハ満足スルヤ

次官 日本ハ三國條約ニ付話スルコトハ急ガズ、日本ノ急

ギ居ルモノハ外ノ點ナリ

大使 尤モナルガ我々ハ三國條約ニ對シテ如何ニ話サレレ

カニ付興味ヲ有スルモノナリ

次官 御尤モ千萬ナルガ三國條約ノ關係ニハ何等影響ヲ及

ボスコトナシ

大使 近衛、「ローズヴェルト」會談ハ如何ナリシヤ

次官 所謂近衛、「ローズヴェルト」會談ノ風説ニ付キテ

ハ前回ニ説明セシガ其ノ後事態ニ變化ナシ

大使 伯林ヨリノ電報ニヨレバ西班牙ノ新聞ハ近衛「ロー

ズヴェルト」會談ニ決定セルコト竝ニ近衛首相ハ右會談

ニ於テ日本ハ支那ニ於テ或種ノ權利ヲ放棄シ更ニ三國同

盟ノ廢棄ヲスル用意アルコトヲ通告スル旨報道セラレ居

ル由ナルガ如何

次官 西班牙ナレバ英米邊リノ宣傳ナルベシ右ノ如ク日本

バカリガ損ヲスル様デハ戰爭ニ負ケタル場合ト同様ナル

ベシ

大使 先日大臣ニ御伺ヒセシ米國側ニ對スル申入ノ件ニ付
テハ何等承リ得ルヤ

次官 右ニ付テハ大臣ヨリ御答ヘスルコトトナリ居レリ

〔此ノ時大臣入室セラレ「オット」大使ニ對シ〕

大臣 實ハ昨日來訪ヲ促シテ御話スル筈ナリシガ昨日ハ其
ノ寸暇ナク、本日御話シ度ツモリナリ

〔トテ別紙(見当ス)ノ通讀上ゲラレ高橋事務官獨語ニ通譯ス〕

大使 大臣ハ獨逸國政府ノ申出ニ關聯シ米國政府ヘ何等カ
ノ聲明ヲナサルル御意向ナリヤ

大臣 然リ、折角ノ御申出ナルニ依リ前記帝國政府ノ回答
ノ趣旨ニ從ヒ先方ヘ聲明ヲ與フル所存ナリ

大使 何時頃行ハルル御意向ナリヤ

大臣 極ク最近ノ機會ニ之ヲ行フ所存ナリ

次イデ

一、會談中ニ於テ「オット」大使ハ

「日本政府ハ「ローズヴェルト」ガ現在以上ニ樞軸國ニ
對シ攻撃ヲ續ケルナラバソレハ必然的ニ獨伊及米間ノ戰
争状態ニ導クモノト觀察スル、ソシテコレハ三國條約ニ

豫見セラレタル戰爭原因ヲ惹起シ日本ノ對米即時參戰ヲ
招來スルデアラウ」

ノ言句ヲ以テ米國ニ申入レラレンコトヲ希望シ

二、大臣、次官ヨリ交々

1、右ノ言句ハ

A、「ローズヴェルト」ガ樞軸國ニ對シ攻撃ヲナシ居
ルト斷定スルコト

B、日本ハ米獨戰爭トナラバ即時參戰スルコト

ノ意味ナル爲誤解ヲ生ズル惧アリ

2、松岡前外務大臣ハ日本ハ米獨戰爭ノ時ハ即時

(Simultaneously)ニ參戰スト云ヒシガ右ハ條約上ノ解

釋ト云フヨリモ政策上ニ出デタリ、若シ條約上即時參

戰ノ義務アリトセバ日本ハ伊希戰爭ニ關聯シ即時參戰

シ又ハ獨蘇戰爭ニ關聯シ或ハ即時參戰ヲ餘儀ナクセラ

レタルナルベシ

3、日本ノ米國ニ對スル申入ハ要スルニ米國ノ參戰ヲ防

止スル目的ニ出ルモノニシテ云ハバ條約上ノ義務ニ出

デタルト云フヨリモ政策上ヨリ來リタルモノナリ、而

シテ現在ノ状態ニ於テハ過去一年間ノ如ク即時參戰ヲ

高調スルヨリモ他ニ適當ナル現ハシ方ガ考慮シ得ザル
ヤニ考フ

等ヲ話ス

三、大使ヨリ日本ノ米國ニ對スル申入ノ語句ヲ承知シタキ旨
述ベ大臣ハ右語句ニ付テハ研究スル必要アルガ御知ラセ
スベシト答ヘラレタリ



322

昭和16年9月22日

在ソ連邦建川大使より
豊田外務大臣宛(電報)

米國による戦用資材の對ソ供給問題等に関し
スタインハート大使と会谈について

モスクワ 9月22日後発

本省 9月23日後着

第一一六九號(極秘、館長符號扱)

(1) 二十二日米大使來訪懇談セルカ參考トナルヘキ點

一、日米會談ニ關シ彼ハ順調ニ進捗シ居ル模様ナリト語レル
ニ付日米戰爭ハ回避シ得ル見込アリヤトノ本使ノ問ヒニ
對シ充分アリト答フ又彼ハ例ニ依リ日本軍ノ滿洲ヘノ増
兵、佛印ヲ越エテノ南進意嚮ノ有無等ヲ尋ネタルヲ以テ

前者ニ付テハ増兵セルハ事實ナルコト後者ニ付テハ日米
會談ノ問題タルヘク本使ハ何等知ル所ナキカ日本ハ相當
多忙ナレハ必要トセサル地域ニ行動スルカ如キコトナカ
ルヘキ旨ヲ答ヘ置ケリ

三、「ビーバーブルック」ハ未タ莫斯科ニ到着セサル由又
「ハリマン」一行ハ戦用資材供給丈ケノ任務ヲ有スル特
別使節ナルカ故「スタインハート」ハ之ニ加ハルコトナ
ク其ノ任務遂行ヲ依頼スル丈ケナル趣ナリ

(2) 米資材ノ浦潮通過ニ關スル日本政府ノ抗議ハ形式的ノモ
ノニ過キストカ油船四隻到着セルノミニテ其ノ他ノ資材
ハ未タ何等浦潮ニ到着セストカ申シ居リタリ

四、米國カ蘇聯邦ニ戦用資材兵器等ヲ供給ストモ所謂燒石ニ
水ニ過キサリニヤト誘導ヲ試ミタル處彼ハ獨逸國力困
ノ兆逐次表ハレ來レリトカ黨ト軍部ノ間乖離軋アリト
カ航空機ノ活動力ノ顯著ナル衰退等希望的觀察ヲ縷々述
ヘタリ



323

昭和16年9月26日

天羽外務次官
在本邦オット独国外使

会谈

三国同盟条約に関する対米申入れ問題および
日米交渉の進捗状況等をめぐる天羽次官と
オット大使との会谈記録

天羽次官「オット」獨逸大使會談ノ件

(一六、九、二七)

九月二十六日「オット」大使次官ヲ來訪會談ス(午后四時
三十分ヨリ約四十分)

一、大使ハ九月二十七日宴會ニ於ケル祝辭ノ文句ニ付更ニ打
合セ方希望シ結局阪本歐亞局長ト話合フコトトス

二、三國條約ニ關シ米國ニ申入ノ件

次官 先日大臣ヨリ御約束セシ本件ニ付左ノ趣旨ニテ米
國側ニ申入ルルコトニ決定セリ(別紙朗讀、要求ニヨ
リ英文ヲ手交ス)

大使 何時米國側ニ申入レラルルヤ

次官 先日大臣ハ貴使ノ問ニ對シナルベク早キ機會ニ於
テト答ヘラレタル様記憶ス

大使 獨逸側トシテハ成ル可ク早ク申入レラレンコトヲ
希望ス、何トナレバ戰爭ノ現狀ニ於テハ時間ヲ考ニ入
レルコト必要ナリ、實ハ此ノ申入ハ米國ノ參戰ヲ躊躇

セシムルニ最モ效果アルベキガ現下ノ情勢ニ鑑ミレバ
出來ルダケ早く申入レラルルコト希望ニ堪ヘズ

次官 大臣ニ御傳ヘスベシ

大使 右申入ノ文句ハ閣議ニテ決定セシヤ

次官 大臣ハ閣僚ニ話サレシヤ否ヤハ知ラザルガ當然外

務大臣ニ於テ決定スベキモノナリ

大使 政府ノ決定ト看做シテ差支ナキヤ

次官 然リ、尙念ノ爲ニ繰返シ置クガ先程申セシ如ク必
ズシモ此ノ文句ノ其ノ儘ヲ申入ルルト云フニ非ズ、此

ノ趣意ニテ申入ルルトノコトナリ、從ツテ其ノ時ト場

合ニ應ジ用語ニ變更ヲ加フルコトアルベシ

大使 願クバ此ノ趣意ヲ大臣ノ公式ノ挨拶(明日ノ宴會
ノ挨拶ノ意味ヲシ)ニ入レラルルコト出來ザルヤ

次官 無論此ノ趣意ハ念頭ニ置キ居レリ、唯之ハ米國ニ

對スル警告ナリ

三、日米交渉

大使 日米交渉ニ付テハ巷間種々ノ風説アリ、近衛總理
ハ「ローズヴェルト」大統領ニ第二ノ「メッセーヂ」
ヲ發セラレタリトノコトナルガ眞ナリヤ

次官 例ノ「バルセロナ」ノ放送ニテ眞ニ非ズ

大使 交渉ハ進捗シ居ルヤ

次官 先日才目ニカカリシ時トハ變リナシ

大使 交渉ハ東京及華府ノ双方ニ於テ行ハレ居レリト聞ケルガ然ルヤ

次官 ズツト以前ニ御質問アリシ時ニハ華府ト答ヘシガ今ハ必ズシモ華府ニ限り居ラズ

大使 二人限ノ打開話ナルガ、自分ハ只今交渉ハ停頓シ其ノ將來ニ對シテ悲觀的ナルカノ印象ヲ受ケ居レリ、

大体自分ハ米國ハ支那ヨリ全面的撤兵ヲ要求シ又支那

ニ於ケル機會均等、門戶解放主義(開カ)ヲ絕對ニ要求シ支那

ニ於テハ徹底的ニ問題ノ解決ヲ計ラントスルニ反シ日

本ハ左程ニ徹底的ニ決定スルコトヲ好マザルベク此ノ

一事ニテモ仲々問題ハ面倒ナルベシト考ヘラル、實ハ

世間ニ於テハ可成り日米交渉ニ反對アルモノノ如ク自

分ハ本國政府ニハ報告セザリシモ近衛公暗殺未遂事件

アリタルヤニモ聞ケリ、又三國條約紀念ノ催ニ付テモ

日本ノ諸團體及諸方面ヨリ出來ルダケ盛大ニヤレトノ

激勵アリタリ之等ノ反面ニハ或ハ寓意アリヤニモ思ハ

ル

次官 交渉ノ内容ニハ觸ルルコトヲ欲セサルモ御説ノ如

ク問題ノ中ニハ容易ナラサルモノアリ又何事ニ付キテ

モ外交問題ニ於テハ贊成ト反對トアルハ免レズ只所謂

近衛公暗殺未遂事件ノ如キハ賣名ノ徒ノ兒戲ニ類スル

モノナリ、流言蜚語ハ多キモ根據ナキモノ多シ迷ハサ

レサルコト必要ナリ

四、對蘇關係

大使 「ソ」聯ノ機械水雷浮流、危險區域設定等ニ對ス

ル最近ノ狀態ハ如何ナリ居ルヤ

次官 引續キ抗議シ居ルガ未ダ満足ナル解決ヲ見ズ

大使 樺太ノ石油利權ニ付交渉シ居ルトノコトナルガ如

何

次官 日本ハ出來ル丈ケ多ク石油ヲ得ントスルガ故ニ樺

太石油問題ニハ重キヲ置ケルガ石油ノ利權其ノモノニ

付テハ今ノ處交渉シ居ラズ

大使 獨逸ハ日本ガ滿洲ニ於テ「ソ」聯ニ壓迫ヲ加ヘル

コトヲ希望シ居レルガ最近日本ハ滿洲ニ在ル兵力ヲ減

ジツツアリトノコトナルガ如何ナル理由ニ依ルヤ

次官 動員ニ付テハ自分等モ全然知らザルガ左様ノコト
アリトハ考ヘズ

五、歐洲戦局、「ソ」獨戦況、土耳其竝ニ「バルカン」方面
ノ形勢等ニ付意見交換

編 注 別紙は見当らない。別紙英文の内容は、「日本外交文

書 日米交渉——一九四一年——下巻第272文書別電を参
照。

324 昭和16年10月1日

在伊国堀切大使より
豊田外務大臣宛(電報)

日米交渉に対するイタリヤ側の不信感等に関する
安東参事官と伊国外務省担当官との会談報告

ローマ 10月1日後発

本省 10月2日前着

第六三〇號(極秘、館長符號扱)

往電第六二七號ニ關シ

本一日安東「アレキサンドリニイ」ト會見ノ際「ア」ヨリ
三國協定ハ伊國民ニ取り單ニ締約各國ノ國家的利益追求ノ

結合タルニ止マラス更ニ高キ理想ノ標識トナリ居ル事ハ國
民ノ日常生活ニモ表現セラレ居ル所ニシテ伊政府トシテハ
右協定ニ對スル信頼カ常ニ國民ノ間ニ保タレン事ヲ希望シ
居ル次第ナルカ最近國民ノ一部ニ日本ノ態度ニ關シ疑惑ヲ
抱キ始ムル者アルニ至リ今後共國民ノ輿論指導ニ一層ノ努
力ヲ要スヘキヲ思ハシムルモノアリ他面外交關係ニ於テモ
日米交渉ノ内容等不明ニ屬シ日本問題主任官タル本官ニ對
スル政府輿論ノ質問ニ對シテモ返答ニ窮スル狀態ニアル事
ハ輿論指導ノ爲頗ル遺憾ナリ自分ハ日本ノ立場ヲ相當理解
シ居ル積リニテ日本ノ態度ハ樞軸ヨリノ離反ヲ意味スルモ
ノニ非サル事ヲ説明シ居ルモ此ノ點ニ關シ更ニ日本ノ明快
ナル態度ヲ知ル事ヲ得ハ幸甚ナリト云ヘルニ付安東ヨリ最
近ノ日米交渉ノ内容ニ關シテハ我大使ト雖何等知ル所ナシ
但シ吾々トシテ日本ノ三國協定ヲ基調トスル根本政策ニ何
等變更アルモノニ非サル事ハ確信シ居ル次第ニシテ日米交
渉モ右「ライン」ヨリ行ハレ居ルモノタル事ハ信シテ疑ハ
ス假令何等話合カ成立スルトシテモ之カ樞軸ニ取り害ヲ及
ホスカ如キモノトハ考ヘラレスト前提シ更ニ個人的印象ト
シテ日米ノ關係ニ付テハ日本ノ從來ノ經濟構成ヨリ見ルモ

日本ノ經濟界等ニ日米ノ平常關係維持ヲ希望スル者相當多キハ當然ニシテ斯ル者ヲシテ結局國際政局上ヨリ日米ノ平常經濟關係ノ回復カ困難ニシテ飽迄日本ハ大東亞共榮圈ノ確立ノ政策ニ邁進スルヲ要スヘキモノナル事ヲ自覺セシムル爲ニモ一應平和の手段ヲ盡シ米國トノ話合ヲ試ミル事內政上必要ナルヘシ右ハ國家カ一大行動ヲ斷行セントスルカ如キ場合特ニ國內ノ一致ヲ得ル爲必要ナル政治現象ナリト考フ他方日本ハ過去四年ニ亘リ支那事變解決ノ爲始ト其ノ全勢力ヲ集中シ來リ更ニ北或ハ南ニ軍事行動ヲ起ス必要アル場合ニハ當然全面戰ヲ覺悟シテ準備ヲ進メサルヘカラス若シ之カ準備ナクシテ輕卒ナル行動ニ出ツルニ於テハ貴官カ嘗テ本官ニ言ハレシ如ク伊太利カ準備完カラシテ過早ニ戰爭ニ突入セルト同様ノ困難ニ當面スルニ至ル虞アル譯ニテ帝國政府ノ現在ノ態度ハ右ノ點ヨリモ觀察スルコト必要ナルヘシト對應セル處「ア」ハ自分モ同様ノ見地ニ立チテ同様ノ説明ヲ要路ノ者ニナシ居リ日本ノ態度ニ對シテハ信用シ居レリト述ヘ居タル趣ナリ

獨ヘ轉電セリ

325

昭和16年10月1日 在独国大島大使より
豊田外務大臣宛(電報)

ドイツ国内における対日感情の悪化状況について

ベルリン 10月1日後発

本省 10月2日後着

第一一九八號(館長符號披)

今回三國條約一週年記念ニ際シ「リ」外相ハ特ニ大本營ヨリ來伯セルヲ以テ本使モ數度會談シ且ツ此ノ機會ヲ利用シ本使ノミナラス館員モ獨朝野各方面ノ人々ト接觸會談セルニ付之等ヲ綜合シ獨最近ノ對日空氣ノ一斑ヲ報告ス

一、「リ」ハ帝國政府カ「オット」大使ニ日米交渉ノ内容ノ

通告ヲ拒絕セルコトヲ述フルト共ニ米カ日米交渉ニ關シ英ト緊密ニ聯絡シ居ル旨ノ確實ナル情報ヲ有スルコトヲ語り元來日本ノ立場ニ理解ヲ有スル「リ」モ日本ノ態度

ニ關シ多大ノ不滿ヲ洩セリ

二、「ワイスゼツカー」以下外務省員其ノ他一般カ日本ノ態度ニ嫌焉タラサルモノアルコトハ彼等ノ本使及館員ニ對スル言動ニ依リ明カニ窺ヒ知ラレ我ニ好意ヲ有スル日本關係者ハ何レモ此ノ空氣ヲ心配シ居レリ又「オット」大

使ノ來電ノ如キモ結論ハ出シ居ラサルモ相當露骨ナル不
滿ト悲觀の見解ヲ傳ヘ居ルモノノ如シ尤モ新聞記者會見
等外部ニ對スル關係ニ於テハ日米交渉ハ獨モ承知シテ居
ルトノ建前ニテ日獨離反ノ兆ナキコトヲ辯護スルニ努メ
居レリ

三、第三國外交官、新聞記者等モ日本ノ態度ニハ多大ノ關心
ヲ示シ或ル意味ニ於テハ歐洲戦局ノ推移ヲ判斷スル一ノ
「バロメーター」ノ如ク見做シアリ而シテ其ノ多數ハ日
本ハ支那事變ノ疲弊ヨリ參戰ヲ回避シ歐洲戦局ニ付テモ
悲觀的判斷ヲ有スルモノナリトノ印象ヲ受ケ居ルカ如シ
四、之ヲ要スルニ獨ハ第三國ノ離間工作ニ備ヘテ對日感情ニ
何等變化ナキカ如ク裝ヒアリト雖獨朝野一般ノ對日感情
カ次第ニ惡化シツツアルコトハ蔽フヘクモアラサル事實
ナリ日本カ獨ニ無斷ニテ米ト行動スルカ如キ水臭キ態度
ヲ執ル以上獨亦日本ニ無斷ニテ如何ナル措置ヲ執ルヤモ
御承知アリタシ
陸海軍ヘモ御傳ヘアリタシ
伊ヘ轉電セリ

326

昭和16年10月2日

天羽外務次官
在本邦オット独国外使 一 会谈

日米交渉の進捗状況等をめぐる天羽次官と

オット大使との会谈記録

天羽次官「オット」獨逸大使會談ノ件

(一六、一〇、二)

十月二日「オット」大使次官ヲ來訪會談ス(午后二時十五
分—三時)

大使ヨリ過日ノ三國條約記念ノ催、宴會ノコトニ付謝意ヲ
述べ大臣ニ傳達方申出ヅ(次官ヨリ成功ヲ祝シタルニ大使
ハ挨拶ス)

一、三國條約ニ關シ米國ニ申入ノ件

大使 先日日本件ニ關スル會談ニ付米國ハ今ヤ中立法ヲ改
正シテ參戰ニ急ギ又新聞報道ニ依レバ米國ハ太平洋ニ
於テモ(次官ヨリ反問シタルニ新聞報ニヨリシモノニ
テ公報ニ接セズト答フ)護送制度ヲ實行シオル由ニテ
只今ハ米國ニ申入ルル最良ノ時期ナリト思考ス、先日
自分ハ「出來ルダケ速ニ」米國ニ申入方御願ヒセシガ
大臣ニ於テハ如何取計ヲハレタルヤ

次官 先日御話セシ如ク大臣ハ「最近ノ機會ニ」申入ル
ル意向ナルガ内外ノ情勢ニ鑑ミ最モ有效ナル時ニ實行
セントシ居ラルル次第ナリ、實ハ今朝伺フコト出來ザ
リシガ既ニ申入レラレタリヤ否ヤハ承知セザルガ早速
伺ヒ置クベシ

大使 大臣ニ伺ハレタル上若シ何等カ措置ヲ取ラレタル
ナラバ至急御知ラセ願ヒタク又未ダ措置ヲ取ラレザル
ナラバ出來ルダケ早ク御願ヒシタク、措置ヲ取ラレタ
ル上ハ出來ルダケ早ク御知ラセ願ヒタシ

都合ニヨリテ自分ハ他ノ政治問題モアリ明日邊大臣ニ
御目ニカカリ度ク考ヘ居レリ

二、日米交渉

大使 本件ニ付テハ矢張り種々ノ噂ヲ聞クガ度々御迷惑
ヲカケ相濟マザルモ自分ノ立場上本國政府ニ報告ノ關
係ヨリモ率直ニ伺ヒスルコトヲ許サレ度ク即チ

(1) 日本ハ二日程前米國ノ回答ニ接シタリトノコトナル
ガ眞ナリヤ

(2) 政府ハ本問題ニ付「ステートメント」ヲ出スコトト
ナリ居レリトノコトナルガ眞ナリヤ

次官 先日御目ニカカリシ以來交渉ハ進捗シ居ラズ又政
府ノ一部ニ於テハ此ノ際「ステートメント」ヲ出スコ
ト可然トノ意見ヲ有セシモノアル由ナルガ未ダ決定シ
タリトハ聞カズ

大使 政府ガ既ニ「ステートメント」ヲ出サントスルコ
ト自体日米間ニ何等カノ妥協成レリトノコトガ推察セ
ラルルガ、他方本問題ハ左程ニ樂觀視得ズトノ噂ヲ聞
ク處

(1) 果シテ何等妥協成立セルヤ

(2) 若シ然ラザレバ將來ノ見透ニ付貴官ハ樂觀的ナリヤ

悲觀的ナリヤ

次官 日米間ニ何等妥協シタルモノアリトハ思ハズ又只
今ノ處將來ノ見透ニ付斷言スルコトハ困難ナリ

大使 既ニ交渉ガ始マリテヨリ三月ニ近キモ米國ヨリ何
等ノ意思表示ナシトハ大國ニ對スル態度ニ非ザルヤニ
思考ス

次官 從來往復アリタルモ之ハ双方ノ意向ヲ明白ニセン
ガ爲ノ交渉ニシテ日本トシテハ只今ハ米國ヨリノ確乎
タル意思表示ヲ待チ居ル次第ナリ尤モ既ニ二分時ヲ經

タルガ、此ノ間米大統領ノ母堂ノ死去モアリ華府ヲ留守ニシタルコトモ亦回答遷延ノ一理由タルベシ

大使 自分自身ハ日米間ニ於テ果シテ協定ニ達シ得ルヤ

否ヤ疑問トスルガ自分ノ聞ク所ニヨレバ米國ハ支那ノ

問題ニ對シ永久的且根本的ノ解決ヲ計ラントスルニ反

シ、日本ハ經濟的ノ小問題ニ付一時ノ解決ヲ計ラント

スルモノノ如ク、更ニ米國ニ於テハ日本ハ小康ヲ得ル

コトニ依リ國力ノ恢復ヲ計ラントスルモノト疑ヒ居ル

ナルベク、又米國ハ日本ガ佛印ニ發動シ支那ニ駐兵ス

ルコトヲ好マザル事情モアリ妥協ハ仲々困難ナルヤニ

考フ、果シテ交渉成立ノ見込アリヤ

次官 從來ノ經緯ニ鑑ミレバ兩者ノ間ニハ仲々面倒ナル

問題少カラズ

大使 近衛「ローズヴェルト」洋上會談其ノ後ノ發展如

何

次官 何等變化ナシ

三、在本邦「ポーランド」大使ニ關スル件

大使ヨリノ質問ニ對シ次官ハ「ポーランド」大使ノ特權

廢止ニ付テハ政府ノ手續殆ンド完了セントシツツアルガ

故ニ其ノ内同大使ニ通告スベキ旨内話シタルガ「オット」大使ハ右通告アリ次第自分(「オット」)ニ知ラセラレ度旨申入レ次官承諾ス

四、「クレーギー」ノ歸國ニ關スル件

大使 「クレーギー」ハ急ニ歸國スルコトトナリタルガ

更ニ歸國ヲ延シタル由ナルガ途中上海ニ於テ「ダフ、

クーパー」ト會談スルトノ報道アルガ右歸國ハ如何ナル

ル理由ニ基クモノナルベキヤ

次官 「ク」大使ハ着任以來四年ニ亘ルモ休暇ヲ取ラザ

リシ故此ノ機會ニ賜暇ヲ申出米國迄行クコトトナリタル

ルヤニ聞ケリ、「ダフ、クーパー」トノ會見ニ付テハ

公報ナキガ貴使ハ確報ヲ受ケタリヤ

大使 「ダフ、クーパー」トノ會見ニ付テハ確報ナキモ、

此ノ重大ナル時ニ急ニ離任スルハ特殊ノ意味アルベシ

ト考フ

次官 如何ニ解釋セラルルヤ

大使 「ク」大使ハ米國政府ニ對シ日本ニ於ケル内情ヲ

話スコトトナルベク恐ラクハ米國政府ニ對シ日本ノ對

外活動ヲ制限スル趣意ニテ話ヲスルコトト思ハル、自

分ハ同大使トハ多年ノ交際アリ其ノ性格モ知り居ルガ
萬事苛酷 Harsh ナル氣味アレバナリ

五、日蘇關係

大使 莫斯科ニ於ケル三國會議ニ付報告ニ接シタルヤ
次官 公報ニ接セズ

大使 茲ニ日本ノ注意ヲ促シタキハ英米ノ蘇聯ニ對スル
援助ナルガ、今ヤ「アルハンゲルスク」ハ利用出來ズ
「コーカサス」方面モ獨逸ノ進出ニ依リ阻害セラルベ
ク、結局浦潮經由ノ外ナキコトニテ此ノ點ハ日本ニ於
テ常ニ監視ヲ願度次第ナリ

次官 御趣意ハ良クワカレリ

六、戰況

(「レニングラード」、南蘇、獨佛關係等)

327

昭和16年10月4日

天羽外務次官
在本邦ローマーポーランド大使——會談

在本邦ポーランド大使館の廃止に関する天羽
次官と同国大使との會談記録

付記 昭和十六年十月四日付、外務省より在本邦

ポーランド大使館宛口上書

右廃止通告

天羽次官「ポーランド」大使會談ノ件

(二六、一〇、六)

十月四日「ポーランド」大使來訪次官會談ス(午後六時十
五分—同四十五分、先方希望シ偶々當方ヨリモ招致ノ理由
アリタリ)

大使 二、三日來面會方希望シ居タルカ本日貴方ヨリ御呼
出アリ來訪シタルカ實ハ只今新聞記者ヨリ聞ク所ニヨレ
ハ日本政府ハ本使ノ特權ヲ認メサルコトニ決定シタリト
ノコトナルカ右ハ事實ナリヤ

次官 始メテ御目ニカカリ此ノ如キ苦痛ナル義務ヲ果ササ
ルヲ得サル立場ニ置カレタルハ殘念ナリ、殊ニ御承知ノ
如ク日本國及日本國民ハ「ポーランド」國及「ポーラン
ド」國民ニ對シ常ニ渝ラサル友好關係ヲ續ケ「ポーラン
ド」國モ亦建國以來我國ニ對シ極メテ友好的態度ヲ示シ
兩國民モ亦甚タ親善關係ヲ持續シタリ、「ポーランド」
建國ニ關スル「ポーランド」ノ書籍ニ於テモ「ポーラン
ド」ノ建國ト日露戰爭トノ關係ヲ説キ日本ニ對スル親愛

ヲ示シ居レリ、我國民ノ感情ハ日波關係ノ如何ニヨリ渝ルモノニ非ス、唯戰爭ニヨリ生ミ出サレタル異常ナル狀態ヨリ兩國ノ關係カ異常ナル狀態ニ置カルルハ止ムヲ得サルモノナリ、凡ソ戰爭ハ悲惨ナリ、戰爭ハ幾多ノ悲惨ナル事象ヲ起シタルカ此ノ戰爭ハ又我外務大臣ヲシテ最も悲惨ナル役割ヲナササルヲ得サル運命ニ置キタリ外務大臣止ムヲ得サル差支アリ余カ其ノ代リニ貴大使ニ對シ御傳ヘスル次第ナリ(別紙通告文ヲ讀上ク)

尙貴大使及大使館員ハ今日以後外交使節及外交官トシテノ地位ト特權ヲ失ヒ大使館ハ其ノ職務ヲ終リタル事トナレルカ殘務整理ニ一定ノ時日ヲ必要トセラル可ク又過去ニ於ケル日波間友好關係ヲ考慮シ十月一杯ヲ限り貴大使及貴大使館員ニ對シテ帝國政府ノ禮讓トシテ事實上從來ト略同様ノ特權及恩典(公式ノ儀典ヲ除ク)ヲ認ムル方針ナリ但シ右ハ飽迄禮讓ノ問題ナルコトニ御留意アリ度詳細ハ儀典課長ヨリ御聽取願度

大使 右新聞記者ヨリノ聞込ハヨモヤ事實ニハ非ルヘシト思ヒシカ事實ナル事ヲ知りテ驚キタリ、「ポーランド」國民ハ御説明ノ如ク終始日本國民ニ對シ親愛ノ念ヲ有シ

未タ嘗テ其ノ友好關係ニ渝リタルコトナシ此ノ戰爭カ始リテ以來「ポーランド」政府及國民ハ日本國政府及國民ニ對シ何等ノ怨ミモ示サス何等ノ危害モ加ヘ居ラス、然ルニ突如此ノ通告ニ接セルハ了解ニ苦シム所ナリ

次官 先程申セシ如ク今回日本政府カ此ノ決定ヲナシタルハ專ラ現下ノ事態ニ依ルモノナリ故ニ若シ將來現下ノ事態カ變更セラルルコトアラハ亦無論再考セラルヘキモノナリ

大使 「ポーランド」ガ他國ノ占領下ニアリテ既ニ二年ヲ經過セリ然ルニ此ノ二年間日本ハ本使ニ對シ何等ノ措置モ取ラズ、今ニ至リ此ノ如キ通告ニ接セシガ今日ノ狀態ヲ二年前ト比較スルニ戰爭ノ狀態ハ寧ロ「ポーランド」ニ對シ有利ナリ、然ルニ日本政府ガ此ノ時期ヲ特ニ選ビシハ某大國ノ壓迫ニ出デタルモノト考ヘラル

次官 理論上ヨリ云ヘバ日本政府ハ二年前「ポーランド」ノ全域ガ他國ノ占領下ニアリテ主權ヲ行使シ得ザルニ至リシ時ニ實行シ得タリシモ、然シ戰爭ノ狀態ハ如何ニ變化スルヤモ計ラレズ「ポーランド」モ亦其ノ中ニ恢復シ得ラルルヤモ豫測シ得ザルト、出來ルダケ「ポーラン

ド」ニ對シ好意ヲ示ス積ニテ遷延ヲ重ネ來レル次第ナリ、
決シテ大國ノ壓迫ニ依ルモノニ非ズ

大使 屢々延期セラレタルコトハ了解スルガ、然シ御説明
ノ理由ハ薄弱ナリ

次官 率直ニ云ヘバ「ポーランド」ノ主權、領土人民等所
謂國家構成ノ要素ニ疑ヲ生ジタルニ由ル

大使 右様ノ御解釋ナレバ仕方ナシ、直チニ「ポーラン
ド」政府ニ報告スベシ、唯先程申セシ如ク「ポーラン
ド」ト日本トノ關係ニ鑑ミ最モ遺憾ニ堪ヘズ「ポーラン
ド」國民ノ對日感情ニ及ボス影響ニ付テハ更ニ寒心ニ堪
ヘザルモノアリ、尙只今日本政府ガ措置ヲ取りタル以上
ハ滿洲國亦同様ノ措置ニ出ルコトト思ハルルガ現在滿洲
國ニハ千五百人ノ「ポーランド」人アリ内地ニ於テモ三
百人ノ「ポーランド」人アリ此等ノ「ポーランド」人ハ
無籍者トシテ保護者ナキ狀態ニ在ルガ實ハ先頃「ヴィシ
ー」政府ニ於テ同様ノ措置ヲ取りタル際「ポーランド」
ノ赤十字社代表者ヲシテ便宜「ポーランド」國民ノ利益
ヲ保護スルモノト認メタル事實アリ、日本政府ニ於テ何
等考慮シ得ベキヤ

次官 前述ノ如ク日本政府及國民ハ貴國民ニ對シテハ終
始同情的ナルガ故ニ出來ルダケ便宜ヲ計ルコトトスベシ、
尙「ポーランド」赤十字社代表ハ日本ニ居ラルルヤ

大使 上海ニ在リ

次官 「ポーランド」ノ場合ト同様ニ論ズル譯ニハ行カザ
ルモ滿洲國ニハ多數ノ白系露人アリ、何レモ相當ニ愉快
ニ生活シ居レリ、「ポーランド」人ノ場合モ差程ノ心配
ヲセラルル必要ナカルベシ

大使 白系露人ノ場合モ團體ガアツテ之ヲ保護シ居レリ
次官 自分自身トシテモ個人的ニハ「ポーランド」人中ニ
多數ノ知己ヲ有シ日本ニ於テハ「パテック」「モチツキ
ー」兩大使壽府ニ於テハ「ベック」前外相、「コマルニ
スキー」公使又阿片會議ニテハ貴大使ノ令妹トモ知遇ヲ
得非常ニ愉快ニ交際ヒタリ、今日ノ通告ハ最モ苦痛トス
ル所ナリ

大使 自分モ非常ニ殘念ニ思フ何レハ住ミ良キ所ニ行クコ
トトスベシ

編注 別紙は見当たらない。本文書付記を参照。

(付記)

口上書

帝國外務省ハ在京波蘭國大使館ニ對シ帝國政府ハ現下ノ事態ニ鑑ミ在波蘭國帝國大使館ヲ廢止スルト同時ニ今日以後在京波蘭國大使及同大使館員竝在大阪及横濱波蘭國名譽領事ノ地位ヲ認メス同大使館ノ職務ハ終了セルモノト認ムル旨通告スルノ光榮ヲ有ス

328

昭和16年10月6日

天羽外務次官
在本邦オット独国外使 会谈

在本邦交戦国大使館による報道記事類の頒布
禁止問題等に関する天羽次官とオット大使と
の会谈記録

(二六、一〇、八)

天羽次官、「オット」大使會談ノ件

十月六日「オット」大使次官ヲ來訪會談ス(午後二時三十分—午後三時二十分)

一、波蘭問題

次官ヨリ波蘭大使ノ特權否認ニ付通告シタルニ深謝スベキ旨竝ニ大臣ニ右傳達方申出ツ

二、對米通告ニ關スル件

大使 一昨日ノ米國ヨリノ來電ニヨレバ「ローズヴェルト」大統領ハ愈々中立法改廢ノ爲關係議員ト開談スルコトトナリ居ル由ナルガ屢々申上ゲシ如ク日本ノ米國ニ對スル申入コソ米國ノ參戰ヲ防止スル有力ナル武器ナル故至急御取計ヒ願度シ

次官 大臣モ其ノ邊ノ事情ハ良ク吞込ミ居リ最モ有效ナル時ニ申入レントシ居ルガ恐クハ一兩日ノ中ニ實行セラルベキヤニ思ハル

三、日米交通再開問題

大使 新聞ニ依レバ在米井口參事官、西山財務官ハ船舶及郵便再開ノ爲米國政府ト交渉ヲ開始シタリトノコトナリシガ右ハ事實ナリヤ又所謂日米交渉ノ一部ナリヤ又日米ノ交渉ハ其ノ後如何ニナリシヤ

次官 右新聞記事ハ見ザリシガ日本ハ只今米國ニ於テ船待チシ居ル日本人約二千名ヲ歸國セシメン爲ニ船舶ヲ派遣セントシ米國ニ對シ交渉方訓令シ置ケルガ其ノ交

涉ノ結果ニ付テハ未ダ報告ナシ、之ハ所謂日米交渉トハ別ノ問題ナリ、所謂日米交渉ハ其ノ後別ニ變ラズ

四、在京交戰國大使館ノ「ブレチン」類頒布差止ニ關スル件
大使 本問題ハ屢々問題トナリシガ自分ハ常ニ反對シ來

レリ、松岡大臣、大橋次官モ獨逸大使館ノ「ブレチン」類頒布ヲ禁止セントセシガ自分ハ獨逸大使トシテハ絶体ニ承認セザル旨申入レ日本政府ニ於テハ再考シ吳レタリ、然ルニ今回圖ラズモ「ブレチン」頒布禁止ノ回章ニ接シ驚キタリ、之ハ絶体ニ承認シ得ズ實ハ右ハ獨逸大使館ノ情報ニ關スル唯一ノ仕事ニシテ痛切ニ其ノ必要ヲ感シ居ルモノナリ、獨逸ノ場合ハ英國トハ異ル、獨逸ハ日本トハ同盟國ナリ又英國ハ「ロイタ」ヲ有シ米國ハ「A、P」、「U、P」、「I、N、S」ヲ以テ多數ノ通信ヲ日本ニ送リ居レリ米國ハ交戰國ニ非ルモ英國同様ノ宣傳ヲナシ居ルハ御承知ノ通ナリ、交戰國大使館ヲ取締リ、米國大使館ニ對シテ手ヲ觸レザルハ片手落ナリ尙通信ノ狀態ヲ見ルニ「ロイタ」ハ余リ多カラザルモA、P及U、Pハ可ナリニ多シ、加フルニ英字新聞「ジャパンタイムス、アンド、

アドヴァタイザー」「ジャパン、クロニクル」「ニューズウィークリー」等アリテ常ニ反獨の書振ヲナシ居レリ、之等ニ對シテハ獨逸大使館ノ「ブレチン」ノ發行ニヨリテ對抗シ居レリ、支那事變以來獨逸ノ通信、新聞ハ擧ツテ日本ニ加勢シタリ、之等ノ事情ニ鑑ミ自分トシテハ自發的ニ頒布ヲ差控フルコトハ出來ス仍ツテ此ノ回章ノ末段ハ獨逸大使館ニ限り削除セラレタシ

次官 我々ハ支那事變ニ對スル獨逸新聞ノ書振ヲ多トス又我々ハ獨逸トハ特殊ノ關係アルコトハ十分ニ念頭ニ置キ居レリ、左リナガラ我々ハ先ヅ以テ日本ガスベテノ點ニ於テ獨立國タランコトヲ期スルモノナリ、日本ガ獨立性ヲ維持スル爲ニハスベテノモノヲ犠牲ニセザルヲ得ズ然ルニ情報關係ニ於テハ日本ノ國內ニ於テハ外國ノ宣傳ガ盛ニシテ全ク日本ハ外國宣傳ノ「フィールド」トナリ居レリ、往年聯合ト電通トガ合併シ同盟通信ヲ形成シタルノモ亦通信ノ獨立性ヲ得ンガ爲ナリ獨逸、伊太利ノ「ブレチン」ニハ例ヘ有害ノモノナシトスルモ敵性ノ英國及蘇聯ノ如キニハ必ズシモ同一ノモノヲ期待シ得ザルモノアルベシ、サリナガラ日本政

府トシテハ外國ノ大使館ニ對シ差別的取扱ヲナスコトヲ得ズ仍テ茲ニ一樣ニ同様ノ措置ヲ取りタル次第ナルガ必ズヤ貴使ハ日本ガ情報ノ獨立ヲ保持センガ爲ノ努力ニ對シテハ十分ニ同情スベシ又右ガ必ズシモ獨逸ヲ不利益ノ状態ニ置カントスルモノニ非ズ日本ニ於テハ外國ノ宣傳ヲ禁止スルモ日本ノ當該官憲ハ其ノ手ニテ適宜輿論ヲ指導スル積ナリ

茲ニ獨逸ニ對スル手加減ガアルベク十分獨逸ニ對シテハ適當ナル考慮ガ拂ハルベシ、從ツテ貴館ニ於テハ引續キ「ブレチン」ヲ情報局及外務省ニ送付シ吳レレバ當該官憲ニ於テ之ヲ材料トシテ適宜新聞及輿論ヲ指導スル積ナリ仍ツテ貴館ニ於テハ此ノ點ヲ考慮シテ適當ノ措置ヲ取ラルルコトニ致シタシ

尙通信ノコトナルガ右貴使ノ擧ゲラレタル諸通信ハI、N、Sヲ除キテハ何レモ同盟ト連絡スルモノナルガ同盟ニ於テハ適宜取捨シ獨逸ニ對シテハ可成リニ好意ヲ示シ居ルヤニ聞ク、I、N、Sハ讀賣ト連絡スルモノモ之亦反英ナル上ニ讀賣ノ採用スル分量モ甚ダ少キヤニ聞ク、就テハ貴使ハ同盟ト十分連絡スルコトガ必要ナリ、

換言スレバ貴館ニ於テ宣傳スル代リニ日本官憲ニ於テ獨逸側ニ便宜ヲ計ルコトナルベシ

大使 然ラバ右日本側ノ取扱振ハ書物ニテ保障シ吳ルルヤ

次官 斯様ノ問題ヲ書物ニテ表ハスコト自身既ニ宣傳ノ趣意ニ合ハス此ノ如キ問題ハ宜ロシク以心傳心ニテ指導スル方效果的ナリ、書物ニテ保障スルガ如キハ唯形式ニ捉ハレ却ツテ效果上ラザルベシ

大使 自分ハ同盟ノ「ニュース」取扱振ニ對シテハ甚ダ不滿ニテ屢々古野氏松本氏等ニ注意シタルモ何時モ部下ガ仲々云フコトヲ聽カズトノ挨拶ナリ、最近ノ數例ヲ御覽ニ入ルベシ(十月一日「アンカラ」發「アンテナスク」ニ關スル件其ノ他)「ニュース・ウィークリー」ハ申スニ及バズ「アドヴァタイザー」等モ亦反獨記事多シ右ニ付テハ宜ロシク指導セラレタシ

次官 公平ニ見テ自分ハ日本ノ諸新聞ハ獨逸ニ有利ニ報道シ居ルヤニ思ハル、獨蘇戰爭勃發ノ場合ノ記事ト今日ノ同戰爭ノ状態トヲ思ヒ合スレバ思半バニ過グルモノアラン、「ニュース・ウィークリー」ニ付テハ自分

ハ殆ンド知識ナキガ同盟及「アドヴァタイザー」ニ對スル不平ハ意外ニ思フ、尙關係官廳ニモ注意シ置クベシ

大使 輿論ノ指導ニ付テハ情報局ト連絡ヲ計ル必要アルガ仲々思フ様ニ行カズ伊藤總裁トハ久シク會見シ得ザル状態ナルニ付何トカ有效ナル打合せヲ願度

次官 伊藤總裁トノ會見方打合せスベシ、其ノ場合忌憚ナク意見ヲ交換スレバ可ナリ

大使 其迄ハ「ブレチン」ノ頒布ヲ自發的ニ差控ヘズトモ可ナリヤ

次官 其ハ困ル、外務省ノ同章ハ變更スルヲ得ズ、從ツテ若シ頒布スレバ郵便當局ニ於テ差押ヘルコトアルベシ

尙御參考迄ニ附言スルガ自分ガ伊太利在勤ノ際伊太利外務省ヨリ同章ニテ館員ノ旅行區域ノ制限ヲ通知シ來リタルガ右ハ同盟國タル日本モ他ノ諸國モ同一ノ文句ナリシモ實ハ實際ノ適用振ニ於テハ國ニ依リ異ルモノアリシヤニ思ハル、貴使ノ云ハルル日本國民ノ輿論ノ指導ハ日本政府ニ委ス方最モ賢策ナリト思フ

329

昭和16年10月7日

在独国大島大使より
豊田外務大臣宛(電報)

モスクワ包圍戰開始に関する情報報告

ベルリン 10月7日後発

本省 10月8日夜着

第一二二四號(館長符號扱、至急)

⁽¹⁾ 東方ニ於ケル新作戰ニ關シ七日「リ」外相側近者ノ本使ニ語ル處左ノ通り

一、過日總統演說中大ナル作戰アルヲ暗示シタルハ莫斯科包圍戰ニシテ本作戰ハ今次對蘇戰爭ノ殆ト結末トモ稱スヘキモノナルヲ以テ獨逸軍ニ於テハ以前ヨリ極祕裡ニ之ニ對スル準備ヲ進メ居リ實ハ「キエフ」大包圍戰後ハ狀況ヲ利用シ獨逸ノ主攻撃カ此ノ方面ニアルヲ裝ヒ蘇軍ノ關心ヲ「ウクライナ」「ドネツベツケン」方面ニ集メタルニ蘇聯ハ「チモシエンコ」軍ヨリ大兵力(確實ナル數ハ不明ナルモ約三十師團ト稱ス)ヲ割キ「ドネツ」方面ニ増援シタルヲ以テ其ノ虛ニ乘シ獨逸軍ハ速ニ莫斯科包圍ニ着手セシ次第ナリ

二、「ウクライナ」方面ニ於テハ數日前「マリウ波尔」ヲ占

領シ續イテ東方ニ對スル作戰ヲ準備シアルモ實ハ大本營發表ノ如キ活潑ナル行動ハ控ユル筈ナリ

三、莫斯科包圍戰ニハ東方前線ニ在ル三軍集團ノ主力之二參加シアリテ「ルンドステット」南部軍集團ハ莫斯科東南方地區ニ向ヒ前進中ニシテ「ポツク」中部軍集團モ從來ノ防禦ノ態勢ヨリ既ニ攻撃前進ニ移リ「レープ」北部軍集團ハ「レニングラード」包圍ニ必要ナル最少限ノ兵力ヲ殘置シ莫斯科東北地區ニ向ヒ前進ヲ續行シツツアリ

四、裝甲兵團ノ全部ハ此ノ包圍戰ニ參加シ莫斯科東南方地區ニ於テハ其ノ先頭ハ「ツラ」「カルガ」ノ線ノ南方地區(該線ハ未タ占領シアラス)ニ達シ莫斯科西方地區ニ於テハ「ウイヤスマ」ニ達シ又莫斯科西北方地區ニ於テハ其ノ先頭「カリニン」ニ達シ包圍翼ヲ延伸スル爲其ノ兵力ヲ東進セシメツツアル情況ナリ

五、⁽²⁾莫斯科ニ對スル聯絡ヲ遮斷スル爲其南方ニ通スル三主要鐵道幹線及莫斯科ヨリ東方ニ通スル諸鐵道ハ數日來猛烈ナル爆撃ヲ加ヘツツアリテ四日ニハ之カ爲三千八百ノ爆撃機ヲ使用セル程ナリ

六、獨逸軍包圍行動ヲ祕匿スル爲從來ノ如ク發表ヲ差控ヘル

コトニナリ居ルモ數日中ニハ一通リノ包圍ヲ終リ爾後逐次包圍線ヲ短縮スルコトトナルヘシ

七、獨逸軍ハ東方戰場ニ於ケル作戰指導ノ主眼ヲ蘇野戰軍ノ殲滅ニ置キ其ノ退避作戰ヲ封スルニ努メシカ今日迄ノ莫斯科包圍戰ノ經過ヨリ見テ此ノ目的ヲ達シ冬期前ニ事實上對蘇戰ノ結末ヲ着ケル確信ヲ得本作戰ヲ終ラハ「コーカサス」ノ攻略ヲ除キ警察的軍事行動ニ移ルコトトナリ空軍及陸軍ノ大部ハ之ヲ引揚ケ得ルコトトナルヘシ

八、莫斯科包圍戰開始以來獨逸軍ノ遭遇セル蘇軍ノ素質及裝備著シク不良トナリ戰鬥能力非常ニ低下セルコトヲ確認セリ從テ莫斯科包圍戰ハ迅速ニ進捗スルモノト判斷シ居レリ

陸海軍ニ傳ヘラレタシ
伊ニ轉電セリ

330

昭和16年10月8日

豊田外務大臣より
在独国大島大使宛(電報)

日米交渉の意図および三国同盟に関する政府の立場について

第八七三號(館長符號)

往電第七〇八號二關シ

一、日米交渉ハ右往電ノ事情ニ依リ第二次近衛内閣ノ時ニ開始セラレタルモノナルカ佛印進駐ノ爲中斷セラレタリ抑々佛印ノ進駐ハ日支事變ノ解決ヲ促進シ英米包圍攻撃ニ對抗スル爲ニ共同防衛ト資源確保ヲ目的トスル自衛的措施ナルカ英米ハ日本ニ對シ經濟斷交ニ等シキ壓迫ノ手段ヲ採リ日米關係ハ極度ニ惡化シ又我カ國內ノ經濟狀態ニ由々シキ影響ヲ與ヘタリ他方歐洲戰爭ハ長期戰ノ態勢ヲ採ルニ至リタルモノノ如ク獨蘇方面ニ於テハ獨逸ノ豫期ニ反シテ膠著狀態トナリ蘇聯ハ今ヤ英米ノ陣營ニ投シテ我方ハ之ニ備フル必要ヲ生シ又歐亞ノ交通杜絶シテ獨伊ト我國トノ連絡ハ當分困難トナリ南方ニ於テハ英米蘭支ノ包圍陣形強化セラレタルカ日支事變ノ解決ハ未タ左シタル進捗ヲ見ス此ノ情勢下ニ在リテ帝國カ速カニ日支事變ヲ完遂シ大東亞共榮圈ヲ確立シ兼ネテ將來ニ備フル國力ノ涵養ヲ計ルニハ外交交渉ニ依リテ日米關係打開ノ途ヲ講スル必要アリ

二、三國條約締結ノ當時ハ米トハ親善關係ヲ持續シツツ之ニ

依テ日支事變ノ解決ヲ促進シ蘇聯ヲ日獨伊ノ陣營ニ引キ入レ獨逸ハ日蘇間ヲ斡旋シ(「スターマー」ハ獨逸ハ「正直ナル仲買人」トナリテ日蘇ノ親善ヲ計ルト云ヒ又「オット」ヨリハ日蘇ノ諒解ニ盡力スヘキ旨ノ來翰アリ)日本ハ南洋ノ物資ヲ獨伊ニ保障シ獨伊ハ日本ニ對シ機械、技術ヲ保障スルコト等ヲ豫想シタリシモ爾來形勢ノ急變ニ依リテ事豫想ニ反スルニ至リタルカ只日米關係ノミカ當時ノ豫想通りニ處理シ得ル狀態ヲ持續シ居レリ即チ當時獨逸ハ日米間ノ衝突回避ニ凡ユル努力ヲ惜マサルノミナラス若シ人力ノ能ク爲シ得ル所ナラハ進ンテ兩國關係ノ改善ニスラモ盡力スヘシト證言シ(松岡「スターマー」會談)又日獨兩國ハ米國ノ參戰ヲ防止スル必要ヲ痛感シタル次第ナリ

三、日獨伊三國條約ノ目的カ歐洲戰爭ノ擴大ヲ防止シテ米國ノ參戰ヲ牽制スルト共ニ世界平和ヲ確立セントスルニ在ルハ當時ノ詔書及内閣告諭ニ依リテモ明白ナルカ今ヤ戰爭ハ歐洲一帶ニ擴大シテ只太平洋カ禍亂ノ外ニ在ル狀態ナルヲ以テ此ノ兩國ニ於テ兩國間ノ紛爭原因ヲ探究シ太

平洋ノ平和確立ヲ考案スルハ三國條約ノ精神ニモ合致スルモノトス

四、此ノ見解ニ基キ前内閣ニ於テ始メラレタル日米交渉ハ今日ニ於テモ尙其ノ必要ヲ認ムル處佛印進駐ニ關聯シテ日米間ニ話合アリシ機會ニ日米ノ間ニ於テ交渉再開ノ機運動キ八月末近衛首相及「ローズベルト」大統領間ノ「メッセーヂ」交換トナリタル次第ナリ爾來兩國政府間ニ交渉開始ノ爲ノ基礎條件ニ付意見ヲ交換シ最後ハ本月四日米國ヨリノ表示アリ目下之ニ付檢討中ナルカ我國ハ三國條約トノ關係ハ動カサスシテ支那事變ノ完遂（近衛三原則並ニ日支基本條約ニ基キ和平解決ヲ計リ又米國ノ勢力ヲ利用シテ蔣政權ノ終熄ヲ企圖ス）、大東亞共榮圈ノ確立（物資獲得）、歐洲戰爭ノ不擴大、太平洋地域平和確立ヲ計リ米國ノ參戰ヲ防ク目的ノ下ニ交渉ヲ進メ居ル次第ナルカ前途尙曲折ヲ豫想セラル

右貴官限御含
伊ニ轉電アリタシ
米ニ轉電セリ

編注 本文書は、国立国会図書館憲政資料室所蔵「憲政資

料」中の「天羽英二關係文書」より採録。

331 昭和16年10月8日

在独国大島大使より
豊田外務大臣宛（電報）

独軍によるモスクワ攻略を見据え遲疑逡巡することなくわが方対策決定方具申

ベルリン 10月8日後発

本省 10月9日夜着

第一二二九號（館長符號扱）

往電第一二二四號ノ獨蘇戰況ニ付テハ本日陸海軍武官トモ協同シ本使東部戰線視察當時ノ印象其ノ他ノ諸情報ト照合シテ充分ノ研究考查ヲ加ヘタルニ莫斯科包圍戰ノ極メテ迅速且ツ有效ニ開始セラレ此ノ分ニテ進メハ莫斯科及其ノ附近ニアル蘇軍處理モ遠カラサルヘク嚴冬期ニ入ル前ニ東部戰線ハ一段落トナルモノト觀測セラル英米方面ニ於テハ獨逸ハ莫斯科奪取後蘇聯ニ對シ平和提議ヲ爲スヘシトノ宣傳ヲ行ヒ居ルカ如キモ往電第九二四號「ヒ」總統ノ本使ニ對スル言明ヨリスルモスルコトハ全然問題ニナラス獨トシテ

ハ今後主力ヲ對英攻撃ニ注ク一方共產政權打倒ニ到ル迄對蘇追究ノ手ヲ弛メサルヘキコト明カナリ右形勢ハ獨蘇戰線膠着獨ノ戰力消耗等ニ關スル英米側ノ宣傳ヲ粉碎スルモノニシテ帝國トシテ深甚ノ注意ヲ要スル所ナルヘシ莫斯科攻略カ「ス」政權ニ對シ重大ナル打撃トナルヘキハ言ヲ俟タス之カ極東ニ於ケル影響頗ル大ナルモノアルヘシ帝國トシテハ右諸般ノ形勢ヲ洞察シ遲疑逡巡スルコトナク對策ヲ決定セラルルコト極メテ緊要ナリト信シ茲ニ卑見ヲ申進ス本電陸海軍ニ傳ヘラレタシ

332

昭和16年10月9日
在伊國堀切大使より
豊田外務大臣宛(電報)

日米交渉への不信任等に関する伊國紙主筆の
見解について

ローマ 10月9日後発
本省 10月10日夜着

第六四五號(極秘、館長符號扱)
八日本使「ガイダ」ト會見其ノ忌憚無キ意見ヲ質シタルニ
〔ガ〕ノ言左ノ通り

一、日米交渉ハ吾人ニ日本ノ政策ハ獨自ノモノニシテ樞軸側ト協調スルモノニ非ストノ感ヲ抱カセタリ他面本交渉ハ日本カ英米ニ對シ參戰スル能ハストノ印象ヲ與フルモノニシテ極東ニ對スル安心ヲ抱カシメ其ノ結果ハ米ノ參戰ヲ助成スルモノナリ自分ハ日本ハ今日參戰スヘキナリト考フル處假令日本ニ於テ之ヲ欲セストモ米牽制上日本ハ恰モ參戰スルカ如キ態度ヲ執ルコト必要ナリト信ス「ルーズヴェルト」大統領カ米ノ參戰ヲ欲シ居ルハ今更言フ迄モナキコトナルカ其ノ意圖スル處ハ先ツ獨伊ヲ叩キ然ル後日本ヲ叩カントスルニ在ルハ日本ニ於テモ周知ノコトト存スルモ日本若シ參戰セス今次大戦カ英側ノ勝利トナルニ於テハ戦後必ス英米協力シテ日本ニ當ルヘク又獨伊勝利ノ場合ニハ獨ハ支那ニ幾多ノ經濟の利害關係ヲ有スルヲ以テ戦後其ノ獨自ノ經濟政策ニ依リ日本ニ當リ或ハ英米ト協力シ日本ヲ經濟的ニ壓迫スルコトナキニシモ非サルヘシ然ルニ若シ今日日本參戰スルニ於テハ必勝確實ニシテ日本ハ東亞ニ於テ其ノ欲スル所ヲ獲得スヘキヲ以テ今ニシテ日本立タサレハ孰レカ勝ツモ日本ノ蒙ルヘキ損失ハ大ナリト信ス

二、日本ハ蘇聯邦ノ運命既ニ決定シ居ル今日蘇聯邦ト戦フテ多少トモ犠牲ヲ拂フヨリ寧ロ英ト戦ヒテ英ノ刻下ノ重大問題タル輸送路ヲ潜水艦ヲ以テ脅セハ足ルヘシ斯クスルニ於テハ米ハ英ノ勝利ニ對スル確信ヲ失ヒテ遂ニ起タサルヘク又英ハ其ノ輸送困難ヲ加ヘテ遂ニ屈服シ戦争ハ六箇月位ニテ終了スヘシ

三、對蘇戰ノ一段落後獨逸ハ英帝國撃破ノ目的ヲ以テ其ノ兵力ノ一部ヲ「イラン」方面ニ向ケ印度ヲ脅威スヘク又他ノ一部ハ土耳其ヲ經テ「シリヤ」「パレスタイン」埃及ヲ脅カスコトトナルト思考ス

四、最近伊國內ノ經濟統制益々嚴重トナリアルカ右ハ主トシテ物資缺乏セル希臘「クロアチア」「モンテネグロ」方面ニ配給ヲ爲ササルヘカラサルカ爲ニシテ今日以上峻厳トハナラサルヘシ當然一部ニ不平ヲ唱フル者アルヘキモ國民一般ハ時局ヲ認識シ居レハ國內ニ不安有リトハ思ハレス尙伊國トシテハ全體的勝利ヲ得ル迄換言セハ英力屈服スル迄ハ戦争ヲ繼續スル方針ニテ米ニ付テハ妥協ヲ許ササル建前ヲ執リ居ルモノナリ云々

以上ノ中ニハ固ヨリ英海軍ノ重壓ヲ受ケ之カ排除ニ苦慮シ

ツツアル伊太利ノ主觀的見解及希望ヲ示スモノアルモ何等御參考迄

獨、米へ轉電セリ



333 昭和16年10月10日 在ソ連邦建川大使より 豊田外務大臣宛(電報)

独ソ間の休戦講和実現は当面困難との観測に

ついて

モスクワ 10月10日後発

本省 10月11日前着

第一二一〇號(館長符號扱)

貴電第九〇九號ニ關シ(獨蘇休戦問題)

一、先ツ休戦ヲ假想スルニ獨逸ハ降伏國ニ對スル態度ヲ以テ

臨ミ其ノ條件ハ嚴酷ナルヘク「ウクライナ」、白露、舊

「バルチツク」三國ハ素ヨリ高架索ヲモ其ノ勢力下ニ收

メ而モ「ポリシエウイツキ」撃滅ノ看板モアリ現政權主

腦者ノ追放、「フアツシヨ」性格政權ノ樹立等ヲモ提議

スヘシト考ヘラルルカ故ニ蘇側トシテハ此ノ際降伏の休

戦ニ入レハ共產社會主義國家ノ覆滅ヲ強ヒラルル結果ヲ

招來スヘシ

二、蘇軍ハ大敗ヲ喫シタリトハ言ヘ「ヴオルガ」ノ大障碍ニ依リ敗殘軍ヲ收容シ得ヘク「ウラル」及「オビ」河流域ノ工業農産力及英米ヨリノ援助兵器ニ依リ建直シテ計リ依然一存在タルヲ失ハサルヘシ

明春ニ至リ更ニ獨軍ノ攻撃ヲ受クレハ逐次東方ニ退却シ我國之ヲ傍觀セハ遂ニハ極東軍ト密ニ聯絡シ得ル地域ニ迄退避スルコトナキヲ保セス斯シテ自己勢力ヲ最後迄保存シ獨對英米戰ノ結果ヲ傍觀スヘク過酷ノ條件ヲ甘受シ直ニ自滅ニ陥ル途ヲ採ルモノトハ想像シ難シ

三、獨逸トシテハ蘇聯邦ノ降伏の和議ニ依リ作戰目的ヲ完遂シ得ンコトハ大イニ歡迎スヘキモ蘇聯邦カ戰爭繼續意思ヲ棄テサル際進シテ平和ヲ提議セハ條件ノ緩和「ポリシエヴィキー」ノ殘存ニ結果スル惧レアルカ故之ヲ敢テスヘシトハ考ヘラレス兵力ヲ他ニ轉用シ全戰局ノ好轉ヲ計ルコトハ當然豫想セラルルカ對英攻撃ハ冬季ハ問題トナラス

地中海北岸ニ沿ヒ埃及ニ進撃シ英軍活躍ノ根據ヲ衝クト共ニ東部地中海ノ制海權ヲ確保シ對近東及中東作戰ヲ容

易ナラシムルニカムヘキカ地形輸送力等ノ關係ヨリ彼我共ニ大兵團ノ運用不可能ナル爲機械化師團補用歩兵師團二十箇師位ノ増遣ニテ事足り赤軍大部擊滅以後ニ於テハ夫レ位ノ兵力ノ抽出轉用ハイト容易ノコトナルヘク之アルカ爲ニ戰果ノ全カラサル時期ニ自ラ休戰ヲ提議スル必要アリトハ到底考ヘラレス明春ヲ期シ更ニ赤軍ニ殲滅の打撃ヲ加ヘ高架索ヲ料理シ埃及方面ト策應シ「イラン」「イラク」作戰ヲ進ムルモノト想像ス

「ウラル」ニ據ル蘇軍ハ獨軍ノ攻撃ヲ受クレハ決戰ヲ避ケ逐次後方ニ退却シ

果シナキコトナレハ獨逸ハ相當ノ處テ見切りヲ着クヘシト一應ハ考ヘラルルモ「ウラル」ヲ撤退セル蘇軍ハ著シク微力化サルヘク此ノ間獨逸ハ永久ニ確保スル地域以外ノ占領地ニ「ファツシヨ」性格ノ政權ヲ樹立シ安定ヲ計ルモノト推測ス目下ノ處現政權ニ反對の勢力又ハ團體ハ之ヲ認め得サルモ國民ハ蘇軍ノ無能脆弱ニ愛想ヲ盡カシ又先年革命動亂ニ關シ心根不滅ノ恨ヲ藏スル者多數存スヘケレハ新政權問題ハ我南京政府樹立ニ比シ特ニ且熱烈ナル反共産的性格ノモノヲ作り得ヘシト

四、⁽⁵⁾ 絞上ノ見當ヨリ現在行ハレツツアル「チモシエンコ」軍ニ對スル獨軍ノ攻撃大成功ヲ收ムトスルモ未タ以テ戦局ノ一段落タルニ足ラス休戦仲介者タル適格性ヲ有スル有力國家ノ存在セサル現況竝ニ蘇聯邦政權者ノ執拗人道無視自己保存性的性格モアリ休戦引續キ講和ニ入ルモノト判斷シ難シ當地ニ於テモ休戦ノ噂現ハレツツアルモ何等カ爲ニスル者ノ策動カ好奇の願望の想像ニ外ナラサルヘシ然レトモ「ヒットラー」ノ行爲ニハ往々端倪スヘカサルモノアルカ故ニ何時如何ナル奇手ヲ弄スルヤ^(二)□^(三)リ難ク嚴ニ監視スル要アルヘシ

334

昭和16年10月11日

在独国大島大使より
豊田外務大臣宛(電報)

欧州戦局の進展に鑑み三国同盟に基づく確固たる政府方針の決定方具申

ベルリン 10月11日後発

本省 10月12日前着

第一二三七號(館長符號扱)

歐洲戦局ノ歸趨及之ニ對スル我カ對策ニ關シテハ既ニ累次

申進ノ次第アル處最近ノ戦局ノ進展ニ鑑ミ野村中將陸海軍武官トモ協議ノ上重ネテ左ニ申進ス

一、獨蘇戰爭ハ蘇軍カ豫想ヨリ遙ニ大ナル武器ヲ有シ且全國民ヲ驅立テ頑強ニ抵抗シタル爲獨軍モ之ニ對シ無理ナル攻撃ヲ行ハス理詰ノ戦法ヲ以テ其ノ殲滅ヲ計リタルカ故ニ時日カ獨軍ノ豫定以上ニ掛リタルハ否定スヘカラサルモ他面其ノ結果蘇軍ハ勿論蘇聯全部ニ與ヘタル打撃ハ一層甚大ニシテ僅少ノ損害ヲ以テ今回ノ大作戦開始前迄既に二百萬ノ蘇軍ヲ殲滅シ(中捕虜二百五十萬)今ヤ往電第一二二四號莫斯科大包圍戦ヲ展開中ナルカ最近ノ「ウイヤスマ」「ブリヤンスク」ニ於ケル包圍ニ依リ僅ニ殘存セル「チモシエンコ」軍ニ更ニ大打撃ヲ與フヘキヲ以テ莫斯科ノ運命ハ最早盡キタルモノト言フヘク斯クテ獨逸ハ其ノ計畫通り嚴冬期前ニ蘇軍ニ殲滅の打撃ヲ與ヘ蘇聯ノ資源ノ大部分ヲ押ヘテ而シテ再起不能ノ状態ニ陥ラシムルヲ得ヘク之ヲ以テ對蘇戦ヲ終結セリト爲ス能ハサルモ東方作戦ハ右莫斯科戦ノ成功ヲ以テ一段落ト爲シ其ノ主力ヲ西方ニ移シテ次期作戦ニ備フルヲ得ヘキコト疑ナキ所ナリ

二、今次戰爭ニ於ケル獨ノ主目的カ英國打倒ニアルコト言ヲ待タス今日ト雖モ其ノ根本方針ニ毫モ變化ナキハ「ヒ」總統及「リ」外相ノ累次ノ本使ニ對スル言明ニ徴シテモ明カナリ而シテ英國攻撃ノ爲ニハ獨ハ先ツ空襲及潜水艦戰ヲ強化スヘキモ英ノ抗戰意識旺盛ナル今日之ノミヲ以テ英ヲ屈伏セシムルヲ得ス結局上陸作戰實施ノ要アルモノト認メラル獨カ飽迄上陸作戰敢行ノ企圖ヲ有スルコトハ「ヒ」總統初メ獨首腦部トノ數次ノ會見ニ依リ本使ノ確信スル所ニシテ其ノ時期ハ天候等ノ關係上明春以降ト觀測セラル其ノ成否ノ點ニ至リテハ英側ニ於テハ之カ失敗ヲ確信シ居ルカ如キモ獨ノ之ニ對スル準備ハ往電第一一七七號ノ通り現在既ニ大規模ナル上今後羅馬尼等ノ軍需工業ノ協力ニ依リ益々之ヲ完成スルヲ得ヘク加之優秀ナル統帥及兵ノ素質ヲ考慮スレハ其ノ成功ノ公算ハ極メテ大ナルモノト判斷セサルヲ得ス此ノ點ハ獨軍カ萬人ノ不可能ト認メタル諾威作戰「マジノ」線突破等ニ成功シタル事例ヲ見レハ蓋シ思ヒ半ニ過クルモノアリト言フヘク獨側トシテハ目下絶大ノ自信ノ下ニ悠々時期ノ至ルヲ待チツツアル状態ナリ

三、右上陸作戰ニ先立ち獨ハ今冬中「コーカサス」作戰ニ引續キ近東及埃及攻略ヲ實施スヘキモ獨トシテハ飽迄之ヲ支作戰トシ同方面ニ於ケル英兵力ノ劣勢ニ鑑ミ(獨ハ近東兵力七十五萬ト言フカ如キ英側ノ宣傳ヲ大「ブラフ」ト認メ全然問題トナシ居ラス)大軍ヲ動カスノ要ナシト認メ居リ從テ主力ハ依然之ヲ上陸作戰ニ集中スルモノト觀測セラル

尙對英妥協ノ如キ獨ノ全然考慮シ居ラサル所ナルハ累次往電ノ通りニシテ英ノ無條件降服ナキ限り結局武力ニ依リ之ヲ屈伏セシムルノ外ナシトハ「ヒ」總統以下ノ固ク決意シ居ル所ナリ

四、獨カ英本國ヲ征服シタル場合英ノ皇室政府及海軍カ海外屬領ニ逃避シ米ト協力シテ抵抗ヲ繼續スルノ可能性ハ理論上ハ之ヲ認ムヘキモ上陸作戰ノ成功カ英帝國ニ與フル物心兩方面ノ打撃及世界ニ與フル精神の影響ハ想像以上ニ大ナルモノアルヘク夫レニモ拘ラス英ノ主腦部及海軍カ海外ニ逃避シ四千萬ノ國民ヲ見殺シトシテ(獨カ占領地住民救済ノ義務ナキ旨度々聲明シ居ルハ御承知ノ通り)勝利ノ望ナキ抵抗ヲ繼續シ得ヘキヤ多大ノ疑問ナキ

能ハス本使トシテハ斯カル公算ハ殆トナキモノト判斷シ居リ尤モ右形勢ニハ米國カ參戰シ居ルト否トニ依リ多少ノ差ハアルヘキモ第一ニ米カ來春早々獨ト正式の交戰關係ニ立ツノ可能性カ極メテ乏シカルヘク第二ニ英本國ヲ抑ヘタル後ノ獨カ歐露北阿弗利加及近東ヲ加ヘタル大經濟圈ニ於テ着々歐洲新秩序ノ建設ヲ實現スル場合米トシテモ之ニ對シ如何トモ手ヲ着ケ得サルヘク他面獨ヨリモ米ヲ攻撃シ得サルコトヲ考慮スレハ假令米カ參戰シ居ル場合ニ於テモ獨米ノ間ニハ遠カラス妥協平和ノ途ヲ生スヘク獨米ノ對立ハ將來ニ亘リ繼續スヘキモ獨ノ英本土攻略後モ戰爭狀態カ長期間存續スルノ公算ハ極メテ少キモノト判斷ス尙英米側ニ於テハ長期戰ノ場合ニ於ケル獨占領地ノ治安攪亂ニ多大ノ希望ヲ存シ居ルカ如キモ此ノ點ハ現在既ニ殆ト問題トナラサルニ鑑ミ英本國征服後ニ於ケル狀態ノ如キハ獨ニ執リ何等心配ノ種トナラサルコト言フ俟タス

五、⁽⁴⁾今次戰爭ニ於テ獨ハ第一ニ全世界ニ亘ル英帝國ノ打倒ヲ企圖シ居リ其ノ爲ニ特ニ日本ノ協力ヲ必要トスル次第ナルカ日本ノ態度如何ニ依リテハ獨トシテモ已ムヲ得ス歐

洲ヨリ英國ヲ驅逐スルノミヲ以テ満足シ之ト平和ヲ結フノ可能性ハ考慮シ置カサルヘカラス又獨米ノ間ニ於テモ米ノ歐洲ニ對スル進出ハ之ヲ制限スルモ極東ニ對シテハ「フリーハンド」ヲ認ムルト云フカ如キ「ライン」ニ於テ話合成立スルコトモアリ得ヘク此ノ場合帝國カ英米ノ勢力ヲ一手ニ引受ケ甚タ苦境ニ陥ルコトトナルヘキハ言フ俟タス

他方帝國自體ノ將來ヲ考慮スレハ帝國カ四(年?)ニ亘ル支那事變ノ創痕ヲ速ニ醫スルカ爲ニハ南方ノ資源及市場ノ確保ヲ絕對ニ必要トスルコト明カニシテ三國條約締結ノ大目的ハ實ニ此ノ點ニ存シ今ヤ歐洲ニ於ケル獨伊ノ成功ト呼應シテ之ヲ敢行スルヤ否ヤハ眞ニ帝國千年ノ運命ノ岐點ト云フヘシ

然ルニ最近ノ帝國ノ政策ヲ觀ルニ歐洲戰局ニ關スル英米側ノ宣傳ニ乘セラレ且目前ノ經濟的困難ニ拘泥シテ左顧右眄スルノ風アルハ深憂ニ堪ヘス斯クテハ歐洲ニ於ケル獨伊ノ勝利モ何等帝國ヲ益スルコトナク却テ逆ノ結果ヲ生スルノ惧アルコト上述ノ通りナリ

六、⁽⁵⁾斯カル形勢ニ鑑ミ帝國トシテハ此ノ際三國條約ノ本義ニ

立還リ歐洲戦局ニ對スル確固タル見透ヲ定メテ東亞共榮
圈建設ニ關スル具體的施策ヲ決定シ之カ實現ニ邁進セサ
ルヘカラス其ノ爲ニハ往電第一二二九號申進ノ通り莫斯
科陷落等ニ依ル蘇聯動搖ノ機會ヲ利用シ北方脅威ヲ除ク
ト共ニ南方ニ對シテハ獨ノ對英上陸戰ト呼應シ進出シ得
ル様來春迄ノ間ニ凡ユル必要ノ據點ヲ抑ヘ準備ヲ整ヘ置
クノ要アルヘク同時ニ我方ノ企圖ヲ豫メ獨ニ通報シテ之
カ協力ニ依リ大東亞處分ニ關スル我カ自由ヲ確保シ置ク
コト極メテ肝要ナリト思考ス右ハ上述ノ通り永キニ亘ル
帝國ノ將來ニ關スル所ナルニ鑑ミ不敏ヲ顧ミス重複ヲ厭
ハス茲ニ本使ノ卑見ヲ申進スル次第ナリ

陸海軍ニ傳ヘラレタシ

伊、佛、土ニ轉電セリ

335

昭和16年10月15日

在伊國堀切大使より
豊田外務大臣宛(電報)

日米交渉に對する伊國民の不信感および對ソ
參戰の必要性等に関するパウリツチ前訪日使
節团长の見解について

ローマ 10月15日後発
本省 10月16日前着

第六六四號(極秘、館長符號扱)

第十四日本使前訪日使節團長「パウリツチ」大使ト會見其ノ
所見ヲ質シタル所左ノ通り

一、日米交渉ニ付伊國民ノ印象ヲ率直ニ言ヘハ獨伊カ對蘇戰
ヲ行ハハ日本亦之ニ參加スヘキモノト考ヘ居タル伊國人
ヲシテ了解ニ苦シマシムル所ナリ一部ニ於テハ米ハ日本
ニ對シ其ノ北進及南進ヲ封スル爲滿洲及支那ニ於テ自由
行動ヲ許容セリト云フモノアリ右ニ對シ伊國人ヲシテ二
様ノ憂慮ヲ抱カシムル其ノ一ハ現在ノ問題ニシテ之ニ依
リ獨伊ハ日本ノ支持ヲ失フコトトナルヘク他ノ一ハ將來
ノ問題ニシテ歐洲ノ今次戰爭終結後英米カ今ヤ歐洲ニ於
テ爲シ居ルト同様ノコトヲ極東ニ於テ爲スコトナキヤト
日本ノ爲ニモ患フル點ナリ

二、私見ヲ申セハ日本ハ此ノ際速ニ蘇聯邦ヲ討ツヘキナリ蘇
聯邦ノ崩壞近キ今日日本カ國家的禍根タル浦潮ヲ攻略シ
尙日本ニ執リ重要ナル北樺太其ノ他ノ問題ヲ處理スルコ
トハ最モ時宜ヲ得タルコトト考フ日本ノ對蘇戰參加ハ米

ノ參戰ヲ來サス米國內ニハ反共氣運濃厚ナレハ尙更ノコトナリ米ハ今日未タ戰爭ヲ實行スル域ニ達シ居ラス其ノ強硬ナル言辭及脅嚇ハ「ブラフ」ニ過キサリナリ斯クシテ蘇聯邦崩壞後ハ日本ト獨伊ハ陸路接觸シ得ルコトトナルヘク右ハ日本ニ執リテ必要物資輸入上重要ナリ尤モ蘇聯邦ハ「ゲリラ」戦法ヲ取ル惧アリ右陸路交通ハ仲々容易ナラサルヘキモ斯カル「ゲリラ」戦ハ蘇聯邦敗北後ノ軍需資源ノ喪失及英米ノ對蘇援助難等ノ爲之ヲ抑フルコトハ左程迄困難ナラサルヘシ

三、⁽²⁾日本ノ南進政策ハ右ニ二次テ來ルヘキ問題ナルカ良ク機ヲ得又時期ヲ逸セス實行スルコト必要ナラン若シ餘リニ遲ルレハ徒ニ英米ニ對シ準備ノ時間ヲ與ヘテ策ヲ得タルモノニアラス

四、獨蘇戦終了後聯合軍ノ進ムヘキ方向ニ付テハ私見トシテハ英本國ヲ攻撃スルヨリ寧ロ近東地中海、埃及方面ニ軍ヲ進メ之等諸地方ヨリ英勢力ヲ驅逐スルヲ可ナリト確信ス「ヒットラー」ハ本國ヲ攻略セハ英帝國ヲ全面的ニ屈服セシメ得ヘシトノ意嚮ヲ堅持シ居ルモノノ如ク餘リニ英本國攻略ニ心ヲ奪ハレ居ルヤニ察セラルル處自分ハ近

東、地中海、埃及等ニ於テ英軍ヲ攻撃スレハ英ハ其ノ帝國ノ主要點ヲ失フコトトナリ英カ其ノ本國ヲ失ヒテ屈服スルヨリモ一層早ク屈服スヘシト確信シ居レリ從テ自分トシテハ此ノ際「土耳其(二語不明)」ヲ爲スコトニ、近東、地中海、埃及ニ對シ軍事行動ヲ起スコトニ、近東ノ石油ヲ獲得スルコト等ノ重要性ヲ伯林政府ヲシテ納得セシムルコト肝要ト存スシテ日本ト獨伊カ海陸兩方面ニ於テ接觸シ得ルコトトナレハ米ト雖其ノ勢力ニ應シ得サルニ至ルヘシ

獨へ轉電セリ

336 昭和16年10月16日 在独国外務大臣宛(電報)

欧州戦況とドイツの対外関係に関する情報報告

ベルリン 10月16日後発
本省 10月17日後着

第一二五〇號(館長符號扱)
⁽¹⁾十六日「リ」外相側近者カ本使ニ語ル所左ノ通り
一、獨軍ハ莫斯科戦終結後冬季中「コーカサス」攻略ニ進ム

ヘキハ勿論ニシテ更ニ引續キ近東作戰(「シリヤ」「イラク」「イラン」方面)ヲ行ヒ東地中海ノ英國勢力ヲ驅逐スヘキモ阿弗利加作戦ハ西地中海ノ英勢力ノ大ナルニ鑑ミ右ノ後ニ之ヲ實施スルコトトナルヘシ

二、對蘇戰局ノ好轉ニ伴ヒ土耳其ノ態度ハ漸次獨ニ傾キ來リ殊ニ元來親獨のナル同軍部ハ益々積極的ニ獨ニ接近ヲ始メタリ先日成立セル獨土通商條約ニ引續キ近日中ニ獨ノ斡旋ニ依リ伊土間ニモ通商條約締結セラルヘキ處元來伊程土耳其ニ於テ不人氣ナル國無カリシニ鑑ミ右ハ獨外交ノ大成功ト稱スヘシ對土工作ノ目標ハ之ヲ三國條約ニ參加セシムルニ在ル處右カ早急ニ實現セサル場合ニ於テモ勃牙利ノ場合ト同様軍隊通過ヲ要求スルコトトナルヘキ土モ結局之ヲ承諾スルモノト認メラル

三、⁽²⁾阿弗利加作戦實施ノ爲ニハ西地中海ニ於ケル英國勢力ノ驅逐ヲ必要トシ之カ爲ニハ先ツ佛及西班牙ヲ完全ニ抱キ込ムノ要アリ佛トノ交渉ハ順調ニ進行中ニシテ獨ハ最近在「ヴィシー」總領事「クルーグ、フォン、ニツダ」ヲ公使ニ任命セシカ之ニ對シ在柏林佛大使館ニハ近ク「スカピニー」カ外交特別代表トシテ駐在スルコトトナルヘ

ク此處ニ一種ノ外交關係樹立セラルル事トナルヘシ平和條約ノ基本ニ關シテハ話合概ネ成立シ俘虜ノ釋放占領軍費輕減ノ外「コルシカ」「サボイ」「ニイス」及北阿弗利加植民地ヲ佛ニ殘ス(更ニ英ノ植民地ノ一部ヲ佛ニ與フル筈)コトトナリ「ムツソリニ」モ之ヲ承諾セルカ「チユニス」ニ關シテハ伊モ容易ニ斷念セス未定ノ狀態ナリ「ヴィシー」ニ於テハ「ダurlラン」以下何レモ獨ノ勝利ヲ確信シ居ル爲對佛工作ハ甚タ樂ト成レルカ獨佛關係調整セラルレハ西班牙ノ態度ニモ大ナル好影響アルヘシ唯「ウエイガン」ニ對シテハ獨ハ依然之ヲ信用セス其ノ爲「フンチンガー」カ阿弗利加ニ赴キ「ウ」ノ自發的辭職方工作中ニシテ右ハ恐ラク成功スヘク其ノ時ハ「フ」或ハ「デンツ」カ後任トナルヘシ

四、獨ハ蘇ノ壞滅後英國内ニ和平論擡頭スルコトアルヘシト認メ居リ目下英米ノ輿論攪亂ノ爲謀略の手段トシテ殊更ニ和平說ヲ流布シ居ルモ獨ノ眞意カ絕對ニ妥協平和ニアラサルハ御承知ノ通りナリ

五、「ヒ」總統ハ國民カ戰勝ニ馴レ驕慢ニ流ルルヲ戒シムル爲萬全ノ注意ヲ拂ヒツツアリ殊ニ占領地ノ行政ニ付テハ

民心ヲ得ルヲ主眼トシ能フ限り寛大ニ之ヲ行フヘキ旨指
令シ又對教會政策ニ付テモ之カ緩和ヲ命シタルカ右ハ
「バチカン」ニ大ナル好印象ヲ與ヘタリ

337

昭和16年10月29日

在独国大島大使より
東郷外務大臣宛(電報)

独ノ開戦後の情勢判断および外交政策に関する意見具申の要旨摘録

ベルリン 10月29日後発
本省 10月30日夜着

第一二七六號(館長符號扱)

情勢判断竝ニ我外交施策ニ關シテハ累次ノ拙電ニ依リ卑見
ヲ稟申シアルモ更ニ簡單ニ要旨ヲ摘録シ貴大臣ノ参考ニ資
セントス

一、獨蘇戰ハ豫想以上ノ時日ヲ費シタリト雖獨逸ハ蘇聯野戰
軍ノ殲滅ヲ略完成シ且歐露ノ重要資源工業地帯ヲ確保シ
其ノ效果ヲ最少限ニ見積ルモ獨逸ハ歐洲新秩序建設ニ重
要ナル礎石ヲ築キタルノミナラス將來殆ト全勢力ヲ擧ケ
テ英國打倒ニ専心シ得ル態勢ヲ確立セリ

二、對英上陸作戰カ實行不可能ナリトセハ歐洲戰ハ長期戰ト
ナル見込多キモ本使ハ獨逸ニシテ一度之ヲ決行セハ成功
ノ公算甚タ大ナリト信ス固ヨリ獨逸ハ之カ實施ニ慎重ヲ
期シ先ツ英ヲ疲弊セシムヘク凡ユル手段ヲ盡スヘシト雖
最後ニハ之カ決行ヲ企圖シアルコト明カニシテ來年中ニ
ハ實現ヲ見ルヘシ又現在英ノ抗戰意識ハ旺盛ナリト雖將
來情勢急迫スルニ從ヒ或ハ獨逸ノ上陸作戰實施以前ニ屈
服スルコト絶無トハ言ヒ難シ

三、米カ今日事實上參戰ノ状態ニアルコトハ論ナキモ公然タ
ル參戰ヲ躊躇シアルハ一ニ米ノ戰爭準備力完成セサルコ
トニアリト言ヒ得ヘシ從テ米トシテハ一面英蘇ヲ援助シ
テ戰爭ノ長期化ヲ策スルト共ニ他方日本ヲ牽制シテ以テ
着々戰備ヲ整ヘツツアル次第ニシテ時日ノ餘裕ハ米ヲ利
スルノミナリスル觀點ヨリシテ日米交渉ハ害アリテ益ナ
シ況ンヤ獨逸(ニ對シ)其ノ内容ヲ秘シテ三國條約ノ主タ
ル對象タル米ト話合ヲ行フカ如キハ重大ナル不信行爲ニ
シテ政治的ニモ償ヒ得サル損失ヲ招クヘシ交渉開始後半
年ニ及ヒ猶之ニ執着スル如キコトアラハ世界ニ帝國ノ弱
點ヲ示スノミニシテ直ニ之ヲ打切ルヘキモノナリト認ム

四、米參戰ノ場合ニ於ケル參戰義務ニ關シテハ七月二日國策要綱ノ内容ニ對シ數次本使ヨリ質問ヲ爲シ居ルニ拘ラス

今日迄本省ヨリ何等ノ回電ニ接セスコノ點ヲ明白ニセサレハ到底獨逸ト突込ミタル話合ヲ爲スコト不可能ニシテ從テ又歐洲ニ於ケル獨逸ノ勝利ヲ我ニ有利ニ活用スルコトモ不可能トナリ遂ニ^{(二)字不明}三國條約ハ全ク骨抜キトナルヘシ御考慮ヲ望ム

五、東亞新秩序ノ建設ハ自力ニ依ルコト必要ニシテ速^{(三)字不明}成^{(三)字不明}

□^{(三)字不明}□^{(三)字不明}造り發言權ヲ確保シ置ク要アリ然レトモ世界情勢^{(二)字不明}變^{(二)字不明}□^{(四)字不明}□^{(四)字不明}スル要アルコトモ勿論ニシテ大英帝國ノ倒

壞ナル歴史的轉換期ヲ逸シテハ其ノ機ハ再來セサルヘシ南方ニ重要資源地域ヲ確保スヘキ好機ハ眼前ニアリ少クトモ之カ斷行ヲ決意シ東西相呼應シテ相互ニ其ノ力ヲ利用スヘク獨逸トノ協議ニ入ルヘキ最後ノ段階ニ達シアリト認ム

支那事變ノ解決ハ帝國ノ爲極メテ必要ナルモ右モ亦世界政策の規模ニ於テノミ之ヲ實現シ得ルモノナリト信ス

六、⁽³⁾蘇聯ニ對シテハ條約上我ニ出兵ノ義務ナク獨又其ノ作戰ニ協力スルコトヲ要望シアラサルモ日滿兩國自存自衛ノ

見地ヨリ蘇軍動搖ノ好機ヲ把ヘ北邊ノ脅威ヲ永遠ニ排除スルノ決意ヲ要スヘシ

七、帝國國策ノ基調カ三國同盟ニ存シ又歐洲戰ノ勝利カ獨伊側ニアリト判斷セハ帝國ノ執ルヘキ途ハ自ラ明カニシテ帝國カ現在ノ危局ヲ打開シ大東亞共榮圈ヲ完成センカ爲ニハ一貫セル方策ヲ確立シ我カ施策ヲ終始之ニ順應セシムルコト最モ緊要ニシテ若シ夫レ戰局ノ前途ニ確タル見透ヲ缺キ日和見の態度ヲ執ルカ如キコトアラハ悔ヲ千歳ニ遺スヘシ

338

昭和16年10月30日 東郷外務大臣
在本邦オット独国外使 會談

防共協定延長問題および欧州戦況に関する東

郷外相とオット大使との会談録

東郷大臣「オット」獨大使會談録

大臣新任ノ接見ノ機會ニ於テ十月三十日午後

四時二十分ヨリ五時迄 於官邸

東郷大臣 此ノ前御話ノ「ブルゲ」及「クラウゼン」兩氏ノ件ニ就テハ司法當局ト連絡スル様命ジ置キタリ

對米措置ニ就テハ調査方命ジ置ケルモ本大臣ハ極メテ多忙ナリシ爲其ノ結果ヲ聞クニ到リ居ラザルモ成ル可ク早ク御返事ヲスル事ト致度

防共協定期間延長ノ件ニ就テハ延長交渉開始ニ付關係方面ノ同意ヲ取付ケタリ唯防共協定ノ祕密附屬協定廢止ノ場合三國條約第五條トノ關係ニ付研究シ度シト考フル處此ノ機會ニ獨側ノ見解又貴大使ノ御意見ヲ承リ得レバ幸甚ナリ

「オット」大使 本使ノ見解ニヨレバ防共協定ハ三國條約ニ依リ何等影響ヲ受クルモノニ非ズト信ズ

大臣 此ノ問題ニ付テハ後ノ機會ニ御話シラスル事ト致度、本大臣ガ此ノ機會ニ於テ歐洲戰爭ハ此ノ冬如何相成リ又來春ハ如何ニ發展シテ行ク可キヤニ關スル見透等承リ度「オ」獨逸ノ軍事的意圖ニ就テハ自分ノ窺知シ得ザル所ナルモ自分ノ個人的見解及一部既ニ訓令ニヨリ豊田前大臣ニ申上ゲタル所ヲ述ブル事ト致度

「チモシエンコ」軍ニ對シ大攻撃ヲ開始スルニ當リテ獨逸ガ採リ居リタル立場ハ軍事的行動ノ困難ヲ加フベキ季節到來ノ前「ロシヤ」軍ノ大部分ヲ擊滅セントスルニ在

リタリ即チ獨逸ハ其ノ主力ヲ他方ニ轉用ノ爲引キ揚ゲ一部ノ軍ヲ殘置シ比較的少數ノ兵力ヲ以テ蘇軍ノ殘存勢力ニ對スル掃蕩工作ヲ續ケ得ベシト豫期シ居リタルモノナリ

右ノ獨側見解ニ關連シ獨逸ハ帝國政府ニ對シ對蘇戰ヲ決定セラレ度キ旨申入レタルモノニシテ現在ノ軍事的狀況ハ右ノ見解ノ當リ居タルヲ確證スルモノナリ目下莫斯科到達ニツキ若干ノ困難アル模様ノ如キモ之ハ貴大臣ヨク御承知ノ通り目下ノ天候ニヨルモノト思考ス次ノ寒期到來前獨逸軍ノ進撃ハ進捗シ本年中ニ莫斯科ノ陥落乃至包圍實現スベシ

南方戰線ハ冬期戰鬪ヲ行フニ付困難比較的少ク「コーカサス」ニ對スル軍事行動進メラルル事トナルベシ今後獨逸ノ主力ガ何ノ方面ニ用ヒラルルヤニ就テハ素ヨリ本使ノ知り得ザル所ナルモ地中海「スエズ」攻略開始セラルル可能性大ナリ目下伊太利軍ハ比較的安靜ノ狀態ニアルモ今後ノ地中海戰ニハ伊軍大イニ參加スル事トナリ獨逸軍ハ島嶼ニ設ケラレタル基地ヨリ本作戰ニ參加スル事トナルベシ右ニ關聯シ土耳其古問題重大ナルモ本使ノ個人的

見解ニ從ヘバ土ハ獨ノ利益ノ爲ニ可能ナル限リ中立ヲ守ル事トナルベキヲ以テ獨ニトリ有害ナル事ナシ

英本土ニ對スル上陸作戰ヲ企圖シ居ルヤ否ヤニ就テハ本使ノ云ヒ得ザル所ナルモ東部戰線ヨリ引上ゲタル大部ノ空軍ヲ活用シテ空中戰封鎖戰ヲ激化スル事トナルベシ

獨逸ノ戰時經濟情況ハ蘇聯ニ於テ獲得セル原料ニヨリ良好化スル事トナルベシ尤モ右原料ヲ利用シ得ルマデニハ若干ノ時間ヲ要スベキモ獨逸ハ可及的速ニ歐露ノ清掃工作ヲ遂グベシ要之獨逸ハ本年中ニ於テ目下蘇聯ニ對シ用ヒツツアル軍ノ主力ヲ他ニ轉用シ得ルニ到ル可ク今後ノ獨軍進撃方向ハ地中海ナルベシ

右ノ關係ニ於テ注目スベキハ蘇聯ハ目下西方ニ失ヘル飛行機ヲ補填スル爲東方ヨリ移シツツアル事ニテ本使ノ聞キタル所ニ依レバ東方ニ有シ居タル二千五百臺ノ内目下千五百臺ヲ殘シ居ルノミニテ内千臺モ其ノ内西方ニ送ラルル事トナル模様ナリ本使ハ以前本國政府ヨリ受ケタル日本ノ強キ對蘇態度(殊ニ滿蘇國境ニ於ケル)コソ全情勢ヲ好轉セシムベシ云々ノ訓令ヲ想起スルモノナリ

大臣 或程度ノ兵力ガ極東ヨリ歐露ニ移サレタル事及將來

モ送ラルルデアラウ事ハ本大臣モ承知スル所ナリ滿蘇國境及滿、外蒙國境ニ關シテハ我が關東軍ハ毅然タル態度ヲ採リ居ルニ付此點ハ御承知置願度尙御伺ヒ致度キハ獨軍ガ今後地中海「スエズ」方面へ進出スル場合對「イラン」「イラク」作戰ハ如何相成ルヤ又獨軍「イラク」ニ進出スルトセバ土ニ中立ヲ維持セシムル方獨逸ニトリ有利ナルヤ否ヤ

對英上陸ヲ決行セズ封鎖戰ニヨリ英國ヲ屈服セシメ得ルヤ又屈服セシメ得ル場合其ノ時機ハ何時頃トナルベキヤニ付貴使ノ御考ヘヲ伺ヒ度

「オ」地中海作戰ガ對「イラン」「イラク」作戰ト連關シテ行ハルルヤ否ヤハ軍事的ニハ言ヒ難キ所ナリ獨軍ノ「クリミヤ」半島進出ハ南「コーカサス」作戰ノ根本ヲ作ル事トナルベシ抑々東地中海ニ對スル作戰開始セラルル場合ニ於テハ自分ノ信スル所ニ依レバ作戰行動ハ阿弗利加ノミナラズ獨逸ニトリ可能ナル總ユル方向ヨリ行ハルル事トナルベシ

封鎖戰ニヨリ何時英國ヲ屈服セシメ得ベキヤハ回答極メテ困難ナル問題ナルモ對英封鎖ハ輸送船ノ到來ヲ困難ナ

ラシムルヲ目的トシ右ノ目的ハ對英空襲ノ激化就中港灣ニ對スル爆撃ニヨリ封鎖ヲ破リテ到達シタル船舶ヨリノ荷卸シヲ妨ゲ此處ニ二段ニ達成セラルル事トナルベシ英國ノ船腹ハ本年中ニハ英國必要物資ノ補給ヲ不可能トスベシ

英本土ニ對スル戰ハ本使ノ見解ニ從ヘバ英帝國ノ他ノ部分ニ對スル攻撃ト相俟テ其ノ效果ヲ奏スルモノト言フベク地中海ニ於ケル獨逸ノ攻撃奏效センカ英本土封鎖ノ效果ヲ助クルノミナラズ英帝國ノ他ノ部分例ヘバ極東ニ於ケル其ノ基地モ同様ノ損害ヲ蒙ルニ到リ對英戰ハ全体トシテ其ノ效果ヲ高ムル事トナルベシ

大臣 歐洲戰局ノ推移ニ關スル貴使ノ御話ハ極メテ興味アリ

本大臣ハ軍當局ヨリモ報告ヲ受ケ居ルモ今後共戰局ノ推移ニ關シ御報知相成度

「オ」之ヲ約スト共ニ一部ニ英ノ歐洲大陸上陸說流布セラレ居ルモ其ノ笑止ナル點述ブレバ

大臣 全クナリ

トテ本會見ヲ終レリ

339

昭和16年10月30日

東郷外務大臣
在本邦インデリ伊国大使
會談

防共協定延長問題等に関する東郷外相と在本

邦インデリ伊国大使との會談要領

十月三十日東郷大臣伊太利大使會談要領

(昭一六、一〇、三一 歐二)

一、東郷大臣ヨリ先日貴方ヨリ歐亞局長ニ申出アリタル防共協定ノ期限延長問題ニ關シ帝國政府ニ於テモ五ヶ年ノ延長ヲ爲スコトニ付テハ主義上何等異存ナク右實現ニ關スル交渉開始ノ用意アリ細目ニ付テハ歐亞局長ヲシテ交渉ニ當ラシムル旨述ベタルニ對シ「インデリ」大使ハ本問題ハ先ヅ原署名國タル日獨伊三國ニヨル洪、羅、滿ノ加入國ニ對スル本協定延長ニ加入方ノ勧誘及第二ニ議定書ニ對スル署名ノ二段階ニ分レ居ル處總テノ手續ヲ十一月二十五日前ニ終了セシメザルベカラザル爲出來得ル限り急グ要アル旨ヲ述ベタリ

二、次デ伊太利大使ヨリ日米交渉ニ關シ本國政府ニ報告ノ要アルニ付何等カノ情報ヲ得タキ旨述ベ大臣ヨリ日米交渉ノ現段階ニ付テ云ヘバ交渉ハ斷絶セラレタリト云フニ非

ズ、未解決ノ問題アル爲コレヲ如何ニスベキカノ處理方
法ヲ我方トシテ研究中ナルモノニシテ交渉ニ對スル日本
ノ態度トシテ何等決定セルモノナシト回答セラレタリ

340

昭和16年11月1日

在独国外務大臣宛(電報)

悪天候によりモスクワ包圍戦は停滞も戦局全
体は甚だ樂觀すべき状況との情報報告

ベルリン 11月1日後発

本省 11月3日前着

第一二八四號(館長符號扱)

三十一日獨蘇戦況ニ付確實ナル某獨人ノ館員ニ對スル内話
左ノ通り

一、十月半過ヨリ東方戰場ノ天候ハ最悪ニシテ降雨、降雪多
キニ加ヘ溫度零度附近ナル爲一面泥濘ト化シ「タンク」
等機械化兵器ノ活動不可能ナルノミナラス補給部隊ノ移
動モ難澁ヲ極メアリ但シ二、三日前ヨリ漸ク寒サ強クナ
リ地面ハ凍リ始メタルニ依リ作戰モ進捗ヲ見ルモノト豫
想シアリ

二、莫斯科包圍戦ハ右事情ノ爲大ナル進捗ヲ見ス約二週間ノ
餘裕カ蘇聯邦側ニ戦線整備ノ機會ヲ與ヘタルコトハ否定
シ得サルモ左リトテ蘇側ノ抵抗力カ急ニ増大スルコトモ
アリ得ス十一月初旬陥落ヲ豫定セルモノカ一、二週間延
ヒタルタケニテ戦局全體ハ甚タ樂觀スヘキ状態ナリ

三、南方ニ於テモ悪天候ト闘ヒツツ徐々ニ前進シアリ「ロス
トフ」ノ陥落ハ二、三日中ニ發表シ得ヘク「ウオロシロ
フクラード」之二次キ「ドン」河迄ノ全面的進出近ク完
了スヘシ

四、「クリム」ノ蘇戦線ハ全ク崩壊シ獨軍ハ一ハ「セバスト
ポール」方面ニ一ハ「ケルチュ」方面ニ向ヒ進撃中ナリ
之カ掃蕩モ遠カラス終了スル豫定ナルカ唯「セバストポ
ール」ハ「オデツサ」同様ニ力攻ヲ避ケ相當期間ニ亘リ
攻圍スルコトトナルヘシ

五、「レニングラード」ノ包圍戦ハ依然續行中ナルカ蘇側ハ
一部軍隊ヲ「ラドガ」湖ヲ越エテ脱出セシメントシアル
爲此ノ部隊捕捉ノ目的ニテ同湖東方ニ向ヒ作戰進行中ナ
リ

六、「ハリコフ」及「オデツサ」ニ於ケル蘇聯ノ敷設地雷ハ

實ニ猛烈ニシテ(「キエフ」ノ一部ニ於テモ然リ)占領數日後モ猶續々爆發シツツアリ其ノ爲蘇側ハ「ハリコフ」ニテ市街戦行ハレ居ルカ如ク宣傳シアルモ右ハ嘘ニシテ獨軍ハ既ニ同地ヨリ二十料モ前進シアリ
伊、土、佛へ轉電セリ

341

昭和16年11月5日

阪本(瑞男)欧亜局長
在本邦オット独国外使 会談

防共協定延長問題に関する阪本欧亜局長と

オット大使との会談録

歐亜局長「オット」大使會談録

十一月五日午後「オット」大使歐亜局長ヲ來訪シ昨日次官及貴局長ニ防共協定延長議定書案ヲ差上ゲ置キタル處本日更ニ本國政府ヨリ訓令アリ本件延長方ニ關シ既ニ日獨伊三國間ニ主義上ノ同意ヲ見タルニ付此ノ際第一段ノ措置トシテ新京、「ブダペスト」及「マドリッド」ニ於テ三國使臣共同ニテ滿洲國、洪牙利及西班牙政府ニ對シ日獨伊三國間ニ成立セル右主義上ノ同意ヲ通告シ且本件議定書ニ加入方勸誘スル事ト致度帝國政府ヨリモ夫々出先ニ御訓令ヲ願度

且又第二段ノ措置トシテ調印ノ時期及形式等ニ就テハ追テ獨逸使臣單獨ニテ申入ルル事ト致度旨申越シタルニ付帝國政府ノ御同意ヲ得度ト述ベタリ右ニ對シ局長ヨリ第一段ノ點ニ付テハ異議ナキニ付早速訓令方取計フヘキモ第二段ノ點ニ付テハ尠クトモ滿洲國ニ關スル限りハ日滿兩國ノ特殊關係ニモ鑑ミ帝國使臣ヨリ申入ルル事絕對ニ必要ナリト答ヘ「オ」大使ハ之ニ首肯シ本國政府ニ報告スベキ旨約シタリ

342

昭和16年11月6日

東郷外務大臣
在本邦オット独国外使 会談

日米交渉の進捗状況および来栖大使の米國派遣に関する東郷外相とオット大使との会談録

東郷外務大臣「オット」獨大使會談録

十一月六日午後五時五十分ヨリ六時二十分迄

於外務省

「オット」大使 本日ハ日米交渉及來栖大使ノ派遣ニ關シ御伺ヒ致度ト考ヘ參上セル次第ナリ

東郷大臣 本大臣ハ日米交渉ヲ繼續スル事ヲ現在ノ狀勢上

必要ト考ヘ其ノ趣旨ニテ大体政府ノ決定ヲ見タル次第ナリ唯交渉ノ條件等ニ付テハ從來ノ經過等ニツキテモ検討ヲ要スル所アリ又詳細ニ付テハ未タ決定ヲ見居ラサル點モアル次第ナリ日米双方ノ主張ニハ懸隔アリテ本大臣自身トシテハ其ノ成行ニ付樂觀シ居ルモノニ非ス元來本大臣ハ本問題ニ付テハ今少シク時日經過ノ後貴方ニ御話シ致度ト考ヘ居タル次第ニシテ茲ニ唯本大臣ノ氣持タケテ申上クレハ本交渉ノ前途ニ關シ帝國カ獨伊トノ連繫ヲ益々密ニスル事必要トナルニ非スヤトノ想像ヲ有スルモノナリ

「オ」 先般才願致シ置キタル帝國政府ノ對米警告申入レノ件ハ今回ノ來栖大使ニ對スル御訓令中ニ含マレ居ルモノナリヤ

右對米警告ハ日米交渉ニハ直接立入ル事トハナラス「ル」米大統領ノ危險ナル行動ヲ阻クル事トナルヘキ性質ノモノナリ

大臣 本件ニ付テハ其ノ後調査ヲナサシメタルカ前外相ヨリ米側ニ對シ何等措置力取ラレ居ラサル事判明セリ其ノ理由ハ本大臣ニハ分ラサルモ本大臣ハ米側ニ警告ヲ與ヘ

ラレ度シトノ獨側希望ハ先般ノ御話ニヨリ充分承知セリ本件ハ日米間ノ一般關係上ヨリモ篤ト考フル必要アル問題ナル處帝國カ毅然タル態度ヲ採ル場合ニ於テハ御希望ノ形ニ於テ對米申入レヲナスヨリモ結果ニ於テハ寧口強キ場合モアリ得ル事トナルノテアツテ單ナル對米申入レハ現在ノ狀況ニ於テ何レタケノ效果ヲ米政府ニ對シ及スカハ疑問ト云フヘク本件申入レヲ今直ク實行スル事ハ全ク疑問ト考フルモノナリ來栖大使ハ急據出發セル爲本大臣ハ二時間位極メテ大体ノ所ヲ話セルニ止リ詳細ノ話ヲスル時間ナカリシ次第ニシテ本件申入レニ付テモ同大使ニ對シ話ス所迄ニハ立到リ居ラス本件ニ付テモ後日詳細ニオ話ヲスル機會アリト考フ

「オ」 唯今貴大臣ハ日本ノ毅然タル態度カ米國ニ對シテモ大ナル效果アリト述ヘラレタルカ來栖大使ノ使命モ亦毅然タルモノナリヤ

大臣 來栖大使ノ使命ノミナラス帝國政府ノ態度ハ毅然タルモノナリ帝國ノ讓歩ニハ限度アリテ此ノ限度ヲ超ユル事ハ本大臣トシテハ全然容認スルヲ得ス唯此ノ限度ノ詳細ニ付テハオ話スル事ヲ得ス

「オ」 貴大臣ノ唯今ノ御話ヲ感謝ス本使カ今後本國政府ニ
更ニ報告シ得ル點アルヘキヲ希望ス

大臣 本大臣モ將來御話ヲスル機會ヲ得度シト考フ

343 昭和16年11月6日
在ソ連邦建川大使より
東郷外務大臣宛(電報)

氣比丸事件に對し強硬態度をもつてソ連に臨
むべき旨意見具申

クイビシエフ 11月6日後発
本 省 11月7日後着

第一二五七號(至急、館長符號扱)

⁽¹⁾ 今六日朝ノ倫敦放送ハ氣比丸爆沈ニ關シ「スメターニン」
ヲ招致抗議セラレタル趣ヲ傳ヘ居ルニ關シ所見ヲ具申ス
蘇聯邦ノ極東水域危險區域設定問題ニ付テハ帝國政府ハ去
ル九月十八日以來數次ノ抗議ヲナシ九月二十二日ノ蘇側回
答ニ依リ一時打切りノ感ヲ呈シ朝鮮帆船ノ爆沈ニ對スル賠
償要求モ有耶無耶ニ葬ラレタルハ遺憾ノ次第ナリ本件交渉
ニ付本使ハ何等ノ協議ニ接シタルコトモナク事後通報ニ接
シタルニ過キササルカ元來蘇側ニ對シ危險區域ノ撤廢ヲ表看

板トシテ要求スルハ無理ノ次第二テ然モ終リニハ損害賠償
ニ重點ヲ置ケルヤノ交渉モアリ撤廢セハ損害ノ問題モ生セ
サル譯ニテ全般ヨリ見テ交渉ノ適切ナラサルヲ痛感セシム
ルモノアリ斯ノ如キ不結果ニ終レルハ蘇聯邦ハ多分應スル
ナラン位ノ安價ノ見積リニ出發シ應セサルニ際スル措置ニ
關シ確タル研究モ肚モナカリシニ依ルモノト愚考ス

⁽²⁾ 今回ハ多數邦人生命ニ關スル重大事件發生セルモノナルニ
付蘇側カ九月二十二日回答ニ於テ機雷流失ノ場合無害トナ
ル處置ヲ講シアリト明記セル點ニ重點ヲ置キ賠償ト將來ノ
保障ヲ強硬ニ主張シ蘇聯邦カ前記ノ機雷ト斷定シ得ストカ
不可抗力ト逃ケヲ張り誠意ヲ示ササルニ於テハ口先丈テ無
ク迅速ニ現實ニ報復ノ手段ヲ講スル肚構ヘヲ爲サルルコト
必要ト認ム從來トモ機雷被害ノ問題ハ法律上ノ議論ヲ上下
シ満足ナル解決ヲ得ルノ困難ナルハ世界周知ノ事實ナル上
相手カ蘇聯邦トアリテハ尋常ノ手段ニテ其ノ非ヲ認メシム
ルコト困難ナリ依テ北樺太ノ在留民ヲ引揚ケ保障占領ノ準
備ヲナストカ本使ヲ召還シ中立條約破棄ノ前提ト見セ掛ク
ルカ如キ方法ヲ考慮スルノ要アリト存ス蘇聯邦ハ戰敗ノ困
窮ヲ覆フ爲殊更ニ虛勢ヲ張ル傾向(明七日モ當地ニテ觀兵

式等例年ノ行事ヲ行フ。顯著ナレハ我方ノ抗議ニ對シ堅白
異同ノ辯ヲ弄スルモノト想像セラルルカ故ニ我方ニ於テ此
ノ程度ノ報復手段ヲモ敢行シ難キ狀況ナルニ於テハ寧ロア
ツサリト先方ニ抗議スルニ止メ從來ノ如キ不結果ヲ招カサ
ル様措置セラルルコト切望ニ堪ヘス

344

昭和16年11月8日

在独国外務大臣宛(電報)

惡天候による独ソ戦線の停滞状況に関する情

報報告

ベルリン 11月8日後発

本省 11月9日後着

第一二九八號(館長符號扱)

八日確實ナル某獨人ノ館員ニ對スル内話左ノ通

一、蘇聯邦ハ「カリーニン」以北ヲ除キ依然天候甚ク悪ク夜
ハ凍ルモ晝間ハ解ケテ莫斯科附近「ウクライナー」、「ク
リム」何レノ戦線ニ於テモ困難ヲ極メアリ「ロストフ」
ニハ既ニ戦闘部隊ハ市内ニ突入シアルモ後續部隊續カサ
ル爲同市ノ陥落ニ至ラス「ケルチュ」前面ニ於テモ泥濘

ノ爲進撃停滞シ居レリ

二、莫斯科正面「カリーニン」ヨリ「ツラ」ニ至ル線ニハ今
迄ノ如何ナル戦線ヨリモ密集セル獨軍有力部隊配置セラ
レ最後ノ突撃ヲ準備シアルモ何分右様ノ次第二テ如何ト
モ爲シ得ス蘇側ハ極東ヨリノ新鋭部隊約十箇師團ノ外十
五師團、國民軍二〇萬位ヲ有シアルカ如キモ獨ハ素質及
裝備ニ於テハ勿論兵數ニ於テモ右ニ優ルモノヲ整ヘアリ
一旦天候回復セハ急激ニ作戰ノ進捗ヲ見ルヘキコトヲ確
信シ居レリ

三、蘇聯邦ハ「スターリン」ノ演説ニモ窺ハルル如ク英二對
シ渡佛上陸作戰ヲ要求セルカ素ヨリ英國軍部ハ相手ニセ
ス結局空軍ニ依リ獨逸國內ヲ攪亂スルコトヲ約セリ七日
夜ノ伯林ヲ含ム全獨ニ對スル空襲モ其ノ一ツノ現レニテ
飛來セル英機全部ニテ百一七(別ニ蘇聯機一〇機カ東普
魯西ニ飛來セリ)各地ニ分レ爆彈ヲ播撒ケリ伯林ニハ五
機宛ニ回計一〇機飛來セルモ死者三名ニテ被害ハ勿論問
題トナラス要スルニ各地ノ地名ヲ擧ケテ英空軍ノ活躍ヲ
宣傳スル目的以外軍事的價值ナシ然レトモ斯卡ル趣旨ニ
依ル空襲ナレハ今後モ連夜行ハルヘシ

四 独ノ開戦後の対独伊・対ソ関係

伊、土へ轉電セリ

345 昭和16年11月13日
在独国大島大使より
東郷外務大臣宛(電報)

独側の希望により防共協定の延長および参加
国増加については発表当日まで極秘とすべき
旨注意喚起

ベルリン 11月13日後発
本省 11月14日前着

第一三二〇號(館長符號扱)

貴電第九四二號ニ關シ(防共協定延長ノ件)

獨側ニ於テハ本協定延長及多數國ノ参加ヲ十一月二十五日
當日迄極秘トシ突然ノ發表ニ依ル宣傳的效果ヲ窺ヒ居ルモ
ノト認メラルル處現協定ノ期限滿了ハ周知ノ事實ナリトス
ルモ我方又ハ支那側ヨリ事前ニ洩ルルコトカアリテハ(冒
頭貴電ハ南京ニモ轉電セラレ居レリ)不體裁ナルニ付御如
才無キ儀トハ存スルモ充分御注意相成様致度シ

346 昭和16年11月14日
在独国大島大使より
東郷外務大臣宛(電報)

バルカン諸国等による防共協定への参加表明
について

ベルリン 11月14日後発
本省 11月15日前着

第一三二六號(至急、館長符號扱)

貴電第九四一號ニ關シ(防共協定效力延長新議定書加入ノ
件)

十四日獨逸側ヨリ聞ク所ニ依レハ羅、勃、「スロバキア」
及「クロアチア」ノ諸國ハ既ニ獨逸ノ申入ニ對シ欣然參加
ノ意思ヲ表明シ近ク共同加入ノ運ヒトナルヘク芬蘭ノ回答
ハ茲ニ、三日中ニ豫期セラレテ抹ニ付テハ芬蘭カ參加ヲ受
諾シタル後ニ始メテ申入ヲ爲ス手筈トナリ居ル趣ナリ
尙往電第一三二四號ニ付御回電アリタシ

347 昭和16年11月22日
東郷外務大臣
在本邦オット独国大使 一會談

日米交渉における日本の対米態度等に関する

東郷外相とオット大使との会談録

東郷大臣「オット」獨大使會談録

十一月二十二日 於外務省 十二時ヨリ一時迄

「オット」大使 本日ハ其ノ後ノ日米交渉ニ關シ何等カ本國政府ニ報告シ得ル點ナキヤ御伺ヒスル爲參上セリ獨外務省「スポークスマン」ハ日米交渉ハ三國條約ノ基礎ノ上ニ行ハレツツアル旨述べ居レル處唯本交渉ニ關スル噂ハ世界ニ擴ガリ居リ三國條約ガ本交渉ニヨリ影響サルル懸念モアルニ付御話ヲ伺ヒ嚴秘ニ本國政府ニ報告致度キ次第ナリ

東郷大臣 此ノ前申上ゲタル如ク日本ハ毅然タル態度ヲ以テ交渉ニ當リ居ルモノニテ此ノ點ハ議會ニ於ケル本大臣ノ演說ニヨリテモ御分リノ通ナリ交渉ノ内容ニ就テハ議會ニ於テ質問アリタルモ交渉進行中ナリトノ理由テ拒リタリ故ニ本大臣ノ御話シスル點ハ貴大使ト本國政府限リノ御含ミトシテ置カレ度

米國ハ四月以來國際政治ニ關スル其ノ理念ヨリ出發シテ極東ノ事態ヲモ律シ依テ日本ヲモ拘束セントシ居リ今尙其ノ理念ニ固着シ居リ此ノ前申上ケタ通り交渉ハ非常ニ

困難ナリト申上ケテ差支ヘナシ唯其ノ見透シニ付テハ何等申上ケ得ス三國條約ノ問題ニ關シテハ米側ニ於テ種々ノ希望アルヤニ察セラルルモ本問題ニ付テハ日本トシテハ三國條約ノ現存シ居ル事實ハ變更シ得ストノ立前ヲ持シ居リ此ノ點ハ米側ニ對シテ明白ニ言明セル事アリ米側ニ於テハ不滿ノ色アル事ハ事實ト認メラルルモ唯日本ノ言分ニ對シテ米側ハ如何ナル具體的要求ヲ有スルカラ明シシ居ラス

日本ハ總テノ問題ニ付毅然タル態度ヲ以テ進ム事ニ決心シ居ルニ付左様御承知相成度

尙米國ノ理念トハ「ステイムソン」原則及「ロ」米大統領「チ」英首相ノ洋上會談ノ後發表サレタル諸談話等ニ現ハレ居ルモノト大体了解サレテ差支ヘナカルヘク唯米ハ支那ニ於ケル日本ノ行動ヲ明ラカニハ侵略ト云ヒ居ラス

「オ」御話ハ勿論本使限リノ含ミトシ本國政府ニ報告スヘシ尙日本ノ新聞中ニハ豫算總會ニ於ケル中島代議士ノ質問ニ對シ貴大臣ハ日本ノ三國條約ニ對スル最終的態度ハ日米交渉ノ結果ニヨリ決定スヘシト答ヘラレタル由及同

條約第三條ト日米交渉ノ關係ニツキテモ應答アリタルヤ
ニ聞キ居ル處其ノ真相ヲ御伺ヒ致度

大臣 其ノ所謂新聞ノ報道ハ事實ニ非ス中島代議士ノ質問
ハ曖昧ナリシノミナラス其ノ動機モ不明ナリシモ右質問
ニ對シ本大臣ハ日米交渉ノ成行キニ就テハ明二見透ヲ付
ケ得ル所ニ達シ居ラス故ニ前途ニ付假定ヲ設ケテ論スル
事ハ避ケ度シト返答セリ右ノ點ヲ明白ナラシムル爲御希
望ナルニ於テハ速記録存在セハ之ヲ取寄セ差上クヘシ又
日米交渉ト三國條約第三條トノ關係ニ就テハ本大臣ハ今
其ノ法理的解釋ヲナス必要ナシト答ヘ置キタルモノナリ
「オ」 東條首相カ日本ノ外交ノ三原則ニツキ述ヘラレタル
カ其ノ最後ノ「歐洲戰爭ノ東亞ヘノ蔓延ヲ防ク爲日本ハ
極度ノ努力ヲナス云々」ノ點ハ日本カ米國ニ對シ歐洲戰
ニ參加セサルヘキ旨警告セルモノト解釋シテ差支ヘナキ
ヤ
大臣 東條首相ノ演說ハ總理ノ手許ニ於テ作製サレタルモ
ノニシテ本大臣ハ今アノ演說ノ内容ヲ詳細解釋スル地位
ニハナキモ其ノ意味ハ戰爭力極東ニ及フ事ヲ帝國ハ極力
防止シ度シトノ趣旨ト解セラレテ差支ナク貴大使唯今御

話ノ如キ意味ヲ有スルモノニ非スト解ス兩問題ハ或ル意
味テ關連ヲ有スルモ同一ニ非スト考フルヲ適當トスヘシ
「オ」 本使ハ第三條ハ相互ノ軍事的協力ヲ規定シ居ルニ付
前述ノ如ク解釋セルモノナリ

大臣 米國カ參戰セサルハ結構ナルモ右ハ必シモ樂觀ヲ許
ササル事態トナリ居レリ其點ニ付テハ帝國政府トシテモ
苦心ヲ拂ヒ居ルハ事實ナルモ東條首相ノ三原則ノ意味カ
米ヲシテ參戰セシメサル點ニアリト解スルハ狭キニ失ス
右ハ前カラノ論旨ヲ受ケ戰爭ノ災禍カ東亞ニ及ハサル様
ニトノ意味ニ解釋セラレ度米國カ常ニ平和的ニト事ヲ論
スル次第ナルカ然ラハ其ノ行動モ平和的ナルヲ要ストノ
意味ト解釋シテ差支ヘナキモノト考フ

「オ」 氣比丸問題ニ關シ其ノ後蘇側ノ回答接到セリヤ
大臣 中間的ノモノ接到セリ一部分満足ナル點アルモ總テ
満足スルニ足ルモノニ非ス唯蘇大使トノ會談中議會ニ出
席スル時間到來セル爲話ヲ中斷セルニ付今明日右話ヲ繼
續スル事トナリ居レルニ付其上ニテ御話申上ケ度
「オ」 二十一日ノ日日新聞ニ依レハ米ハ「ペテロパウルス
ク」ヲ通シ援蘇物資ヲ送り居ル由ナルモ其ノ事實ヲ承知

シ居ラルルヤ本問題ハ獨逸ノ戰爭遂行上極メテ重大ナル
モノニテ今尙此ノ種輸送カ行ハルル事可能ナリヤ日本カ
スル蘇支持ニ對シ如何ナル態度ヲ採ラルルヤハ獨側ノ關
心ヲ有スル所ナリ

大臣 米ノ援蘇狀況ニ付テハ完全ニ之ヲ知ル事不可能ナリ
本大臣ハ右新聞ノ標題ノミ見タルモ若干大袈裟過クルト
ノ急持^{マヒ}ヲ持チタリ

獨逸カ本問題ニ付重大關心ヲ有セラルル事ハヨク了解ス
ル所ナルニ依リ事實取調ノ上貴方ニ御通知スヘシ

「オ」 感謝ス

348 昭和16年11月25日 調印

防共協定の効力延長に関する議定書

付記 昭和十六年十一月二十五日付

日独防共協定の秘密附属協定廢止に関する日
独秘密交換公文往翰

議定書

大日本帝國政府、「ドイツ」國政府及「イタリア」王國政

府竝ニ「ハンガリー」王國政府、滿洲帝國政府及「スベイ
ン」國政府ハ

共産「インターナショナル」ノ活動ニ對スル防衛ノ爲右諸
國政府ガ締結シタル協定ノ最モ效果アリシコトヲ認メ

且右諸國ノ一致セル利害ガ又更ニ右共同ノ敵ニ對スル其ノ
緊密ナル協力ヲ要求スルコトヲ確信シ

該協定ノ有効期間ヲ延長スルコトニ決シ此ノ目的ノ爲左ノ
諸規定ヲ協定セリ

第一條

千九百三十六年十一月二十五日ノ協定及附屬議定書竝ニ千
九百三十七年十一月六日ノ議定書ヨリ成リ且「ハンガリ
ー」國ガ千九百三十九年二月二十四日ノ議定書ニ依リ、滿
洲國ガ千九百三十九年二月二十四日ノ議定書ニ依リ及「ス
ペイン」國ガ千九百三十九年三月二十七日ノ議定書ニ依リ
參加シタル共産「インターナショナル」ニ對スル協定ハ千
九百四十一年十一月二十五日ヨリ五年間延長セラルベシ

第二條

共産「インターナショナル」ニ對スル協定ノ原署名國トシ
テノ大日本帝國政府、「ドイツ」國政府及「イタリア」王

四 独ノ開戦後の対独伊・対ソ関係

國政府ノ勸誘ニ依リ右協定ニ参加セントスル諸國ハ其ノ参加宣言ヲ文書ヲ以テ「ドイツ」國政府ニ通達スベク「ドイツ」國政府ハ之ガ受領ヲ他ノ締約國政府ニ通報スベシ右参加ハ「ドイツ」國政府ガ参加宣言ヲ受領シタル日ヨリ效力ヲ生ズベシ

第三條

本議定書ハ日本文、「ドイツ」文及「イタリア」文ヲ以テ作成セラレ其ノ各本文ヲ以テ正文トス本議定書ハ署名ノ日ヨリ實施セララルベシ

締約國ハ第一條ニ規定スル五年ノ期間滿了前適當ノ時期ニ於テ爾後ニ於ケル其ノ協力ノ態様ニ付了解ヲ遂グベシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議定書ニ署名調印セリ

昭和十六年十一月二十五日即チ千九百四十一年、「フアシスト」曆二十年十一月二十五日「ベルリン」ニ於テ本書六通ヲ作成ス

大 島 浩 印
リッペン トロップ 印
チ アー ー ノ 印

バルドツシイ、ラーズロー 印
呂 宜 文 印
セラノ、スニエール 印

(付記)

共産「インターナショナル」ニ對スル協定ノ祕密

附屬協定ノ廢止ニ關スル日獨間祕密交換公文

(往翰)

以書翰啓上致候陳者本日共産「インターナショナル」ニ對スル協定ノ效力延長ニ關スル議定書ニ署名スルニ當リ本使ハ本國政府ノ訓令ニ依リ日本國政府ト「ドイツ」國政府トハ左ノ點ニ關シ完全ニ意見一致セル旨閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有シ候

千九百三十六年十一月二十五日日本國政府「ドイツ」國政府間ニ締結セラレタル共産「インターナショナル」ニ對スル協定ノ祕密附屬協定及其ノ附錄竝ニ了解事項ハ祕密附屬協定第三條ノ規定ニ拘ラズ千九百四十一年十一月二十五日ヲ以テ廢止セラルルモノトス
本使ハ閣下ニ於テ前記ノ見解ニ對スル「ドイツ」國政府ノ

合意ヲ確認セラレンコトヲ要請致候

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和十六年(千九百四十一年)十一月 日「ベルリン」

ニ於テ

編 注 本付記には、日付および発受信者は記されていない。

なお、本往翰に対する来翰によりドイツは、日独防共協定の秘密附属協定廃止に合意した。

349 昭和16年11月29日 在新京好富(正臣)総領事より
東郷外務大臣宛(電報)

独ソ和平工作の必要性につき意見具申

別 電 昭和十六年十一月三十日発在新京好富総領事

より東郷外務大臣宛第六九号

ソ連の極東兵力および工業力事情

新 京 11月29日後発

本 省 11月29日夜着

第六八號(大至急、館長符號扱)

(1) 帝國ノ對英米關係最惡ノ事態トナルノ際蘇ハ別電事情ニ

依リ我方ニ向ツテ積極的ニ出ツルコトハ先ツ無之キモノト認ムルモ獨蘇戦カ永續スルニ於テハ獨ノ對英攻撃カ夫丈ケ牽制セラレ且蘇ハ益々英米陣營ニ深入リシ遂ニ爲ニ日蘇間ニ事端ヲ醸スニ至ルノ可能性大ナルヲ以テ帝國ハ速ニ獨蘇和平ヲ策スルコト緊要ト思考ス

二、右獨蘇和平工作ハ獨ニ於テ之ヲ受諾スルノ可能性アリ蓋シ

(イ)獨カ對蘇戦ヲ斷行セルハ明年夏全力ヲ擧ケテ對英攻撃ヲ爲スニ當リ蘇ヨリ背後ヲ突カレサル爲今夏ヲ期シテ蘇ノ軍力ニ一大痛撃ヲ加ヘ置クニ在リタル處右目的ハ今日既ニ完全ニ達成シタルコト

(ロ)獨蘇戦ハ結局長期戦ニナルヘキハ明瞭ニシテ適當ノ時期ニ和平ヲ爲スニ非スハ獨ハ益々深味ニ陥込ミ遂ニ對英攻撃ニ全力ヲ傾注スル能ハサル事態トナルノ虞アルコト

ノ理由ニ依リ獨トシテモ相當寛大ナル條件ヲ以テスルモ對蘇和平ニ應スルヲ利益トスヘシ

三、他方蘇トシテモ對獨長期抗戦ハ之ヲ爲シ得ヘキモ

(イ)獨ヲ屈服セシムルコトハ先ツ困難ナルコト

(ロ) 政府ハ敗戦ニ依リ國民ノ信賴ヲ失ヒ假令革命以來ノ徹底セル政治教育ニ依リ民心ハ尙政府ヲ支持シ居ルカ如キモ今後戰爭力永續シ國民ノ困難カ増大スルニ於テハ「スターリン」政權ノ基礎漸次安定ヲ缺キ遂ニ共產制度ノ破滅ヲ見ルニ至ルノ可能性増大スヘキコト

(ハ) 蘇トシテハ英米トノ間ニ單獨不媾和ヲ約束シ居ルヘキモ英米ノ對蘇援助ハ極メテ不充分ニシテ「スターリン」自身ニ於テモ不滿ヲ洩ラシタル程ナルヲ以テ今後殆ント獨力ニ依リ對獨抗戰ヲ續クルノ外ナカルヘク結局ニ於テ英米ノ利益ノ爲國ヲ焦土ト化シ革命ノ精華ヲ盡ク破壊スルノ結果トナルヘキコト

等ノ理由ニ依リ「スターリン」トシテモ其ノ面目ヲ保持スルニ於テハ從來ノ行懸リヲ一擲シテ獨ト和ヲ結フヲ利益トスヘシ

嘗テ「タレーラン」ハ「ナポレオン」ノ「ワートルロ」敗戦後佛國ヲシテ聯合國側ニ立タシメ以テ對佛媾和條件ヲ緩和セシメタルカ今次戰爭ニ於テモ「ペタン」元帥ハ却テ獨伊側ニ立チテ對佛媾和條件ヲ緩和スルノ策ヲ執リツツアリ蘇モ亦右故智ニ倣ヒテ寧ロ樞軸側ニ立チ以テ對

蘇媾和條件ヲ緩和セシムルノ策アリ

四、從テ帝國トシテハ莫斯科陷落ノ時期ニ於テ獨蘇間ニ仲介シ獨ヲシテ例ハハ舊蘇領全部ヲ變還スル等ノ極メテ寛大ナル條件ヲ提出セシメ以テ獨蘇和平ニ導ク様施策スヘシ

五、帝國ノ右和平仲介カ萬一失敗ストモ世界平和ヲ顧念シタルモノナルヲ以テ之ニ依リ毫モ帝國ノ權威ヲ失墜スルモノニ非ス萬一之ニ成功センカ

(イ) 獨ハ明年夏大規模ノ對英攻撃ニ着手シ得ヘキコト

(ロ) 蘇カ之レ以上英米陣營ニ深入リシ日蘇間ニ事端ヲ醸スニ至ルノ危険ヲ除去シ得ヘキコト

(ハ) 出來得レハ此ノ機會ニ蘇ヲ樞軸陣營ニ引入レ蘇ヲシテ石油ヲ帝國ニ供給セシメ得ヘキコト

等ノ極メテ大ナル利益アリ

六、今ヤ帝國興亡ノ竿頭ニ立チテ右獨蘇和平工作ハ我ニ殘サレタル外交上ノ唯一ノ手ナリト思考セラル既ニ充分御研究済ノコトト存スルモ重大時局ニ鑑ミ卓見申進ス

(別電)

新 京 11月30日後發
本 省 11月30日夜着

第六九號(極秘、館長符號拔、大至急)

一、獨蘇開戰以來蘇聯極東兵力ノ西送サレタルモノ十一月末迄ニ左ノ通りト觀測セラル

總兵力二〇―三〇萬人

內譯

狙撃兵一四個師團

戰車一四〇〇(七旅團)

飛行機一四〇〇(七師團)

從テ極東現在兵力左ノ通り觀測セラル

總兵力七五―八〇萬人

內譯

狙撃兵一九―二〇師團

戰車一〇〇―一三〇〇

飛行機一四〇〇

二、獨蘇戰ニ依リ蘇聯ノ工業力ハ約三十%ニ低下セルモノノ如ク右工業力ヲ以テスレハ兵力七〇師團ヲ維持シ得ルニ過キスト見ラル然ル處現在歐露ニハ約七〇個師團別ニ

「コーカサス」ニ約一〇個師團合計八〇個師團ヲ有スルヲ以テ既ニ蘇聯現在ノ工業力ノ維持シ得ル限度ヲ超過セリト見ラレ居レリ

三、從テ帝國ノ南進ニ當リテハ蘇ハ「コミンテルン」等ヲ通シ種々滿洲國ニ策動シ來タルコトハアリ得ヘキモ積極的ニ軍事行動ヲ起シ來タルノ可能性ハ極メテ少ク萬一事端勃發スルコトアリトスルモ精々張鼓峰事件程度ノモノト觀測セラル

四、滿洲ノ治安ハ滿人ノ人心把握猶不充分ニシテ理想的トハ言ヒ得サルモ帝國ノ南進ニ當リ滿洲國ノ治安ヲ考慮スルノ必要ハ全クナク假令萬一、一、二事件アリトスルモ小數ノ兵力ヲ以テ充分ニ治安ヲ維持シ得ヘシ
五、之ヲ要スルニ滿洲國及蘇聯ノ情勢ハ帝國ノ南進ヲ躊躇セシムヘキ何等ノ理由原因ヲ有セサル次第ナリ

350

昭和16年11月29日

在独国大島大使より
東郷外務大臣宛(電報)

モスクワ近郊におけるソ連軍の抵抗状況など

欧州戦況に関する情報報告

第一三八四號(館長符號扱)

ベルリン 11月29日後発
本省 11月29日夜着

(1) 二十七日確實ナル某獨人ノ館員ニ語ル所左ノ通り

一、莫斯科附近ハ北方ニ於テ同市ヨリ約二十五軒ノ點ニ達シ
アリ南方ニ於テモ「リヤスマ」附近迄進出シアルモ蘇俄
ハ極東軍八箇師團(他ニ二箇師團アルモノノ如シ)ヲ混ヘ
相當頑強ニ抵抗シアリ思フ様ニ簡單ニハ行カサルモ其ノ
陥落カ時間ノ問題ナルコトニハ變リナシ「クールスク」
「ロストフ」附近ニ於テモ仲々勇敢ニ反撃シ來リ居レリ

二、北阿戦線ハ昨日迄ノ處豫期以上ノ戦果ヲ擧ケ略危機ハ切
抜ケタリト認メアリ即チ装甲師團三ノ内一ハ完全ニ殲滅
シ他ノ一モ大部分ヲ叩キ殘リノ一ハ背後ヲ迂回シ潛入シ
來レルカ後方ヲ遮斷シ目下包圍シアリテ其ノ撃滅モ時間
ノ問題ナリ其ノ他歩兵師團四モ獨伊軍ノ陣地ニ引掛リテ
大打撃ヲ受ケ潰走セリ「ソルム」ハ一部ニ英軍侵入セル
カ同市ノ主要部ハ獨伊側カ抑ヘ居リ「バルヂヤ」モ陥落
シアラス目下同地方ニハ砂漠風吹キアリテ偵察困難ナル
爲以上ノ反撃ノ全部ナリヤ尙後方ニ第二第三ノ準備兵カ

アリヤ否ヤ確認シ得サル爲獨モ控目ニ發表スルノ態度ヲ
執リ居ル次第ナルカ若シ右カ全部ナリトセハ獨伊側ハ完
全ナル勝利ヲ揚言シ得ル譯ナリ今回ノ成功ハ伊軍側カ獨
軍ト少シモ變リナク勇敢ニ戦ヒタル爲ニテ右ハ「ムツソ
リーニ」ノ申出ニ基キ「ロンメル」カ全獨伊軍ヲ指揮セ
ル結果ト云フヘク伊軍モ指揮統帥サヘ良ケレハ立派ナ軍
隊ナルコトヲ實證セリ

(2) 三、伯林會談ニ付テハ英カ大イニ憤激シアルコトヨリ見テ充
分其ノ效果ヲ擧ケタルモノト言フヘク其ノ他ニハ特ニ纏
リタル話モナカリシカ主ナルモノ左ノ如シ

(イ)「スニエル」ヨリ正式ニ「フランコ」カ「ヒ」總統ト
會談シタキ希望ヲ申出來レリ「ヒ」「フ」ノ會談ハ昨
年夏行ハレタルモ其ノ結果ハ兩者共失望ヲ感シタルノ
ミニテ爾來殆ト冷キ關係ニアリタルカ今回此ノ申出ア
リタル譯ニテ獨西關係進展上期待スルコト大ナリ
(ロ)芬蘭ハ差當リ對蘇戰ヲ繼續スヘキモ「レニングラー
ド」陥落セハ事實上戰爭ヲ終止スルコトニ獨側了解ヲ
與ヘタリ

(ハ)伊ヨリハ「アルバニア」方面ノ國境擴張ニ關シ希望的

申出アリタル位ニテ巴爾幹諸國モ何レモ新國境ニ關スル自己ノ希望ヲ開陳シ獨側ハ唯聞キ置キタルノミナリ伊ヘ轉電セリ

351 昭和16年11月29日 在独国外務大臣宛(電報)

ヒトラーの日米交渉への関心および対米強硬
決意について

ベルリン 11月29日後発
本省 11月30日前着

第一三八八號(館長符號扱、至急)

二十七日「ヒ」總統トノ面談ハ多數ノ外國外務大臣居リシ爲一通リノ挨拶ニテ殆ト立入りタル話モ爲ササリシカ二十八日更ニ求メニ依リ「ヒ」ヲ往訪約四十分會談「リ」外相同席セリ

一、冒頭「ヒ」ヨリ日米交渉ニ關シ確報ナキヤヲ訊ネタルニ依リ本使ヨリ當方ニハ何等通報ナキ旨斷リ貴電第九八一號ノ趣旨ヲ敷衍シ説明セルニ「ヒ」ハ歐洲戰ハ既ニ獨ノ勝利確定シ居リ米カ如何ナル態度ニ出ツルモ之ヲ左右シ

得ルモノニ非ス自分ハ米カ「モンロー」主義ニ立返リテ歐洲及亞細亞ノ問題ニ干渉セサルニ至ル迄ハ米ハ日獨共同ノ敵ニシテ米トノ對立ハ不可避ナリト確信スルモノニシテ米ノ挑戰的態度益々増大シツツアルハ獨トシテモ大イニ考慮シアル次第ナリ日本モ右事實ニ基キ將來ノ爲對米妥協ヲ爲サル方得策ナリト思考スル旨述ヘタリ

二、次テ「ヒ」ハ日「タイ」關係、蘭印ノ狀況、英米ノ企圖等東亞方面ノ情勢ニ付質問セルカ本使ハ之亦通報ニ接シ居ラサル旨述ヘ且ツ貴電合第二三八七號ノ趣旨ヲモ考慮シ常識的ノ説明ヲ爲シ置クニ留メタルカ「ヒ」ハ「ルーヴエルト」ノ爲スコトハ悉ク「ブラフ」ニシテ之ニ誤ラレサルコト必要ナリト述ヘ居リタリ

三、歐洲ノ戰況ニ關シ「ヒ」ハ對蘇戰力大ナル結果ヲ收メタルコト之ニ依リ軍事的經濟的ニ其ノ地位ヲ強化セラレ英國及其ノ勢力地帯ニ對スル攻撃ノ成功ニ付益々確信ヲ大ニセルコトヲ力説セリ

四、本會談ニ於テ本使ノ受ケタル明瞭ナル印象ニ依レハ「ヒ」ハ日米會談ニ關シ多大ノ關心ヲ有スルト共ニ米ニ對シ餘程強硬ナル決意ヲ有シ居リ萬一日米關係ニ紛争發

生スルカ如キ場合ニ於テハ全力ヲ擧ケテ日本ヲ支持スル
意嚮ナルコトヲ確認セリ

352

昭和16年11月29日

在独国大島大使より
東郷外務大臣宛(電報)

防共協定延長に際して開催されたベルリン会
議にて独首脳部と会談について

ベルリン 11月29日夜発

本省 11月30日夜着

第一三八九號(館長符號扱)

一、防共協定延長ヲ機會ニ行ハレタル伯林會議ハ本二十八日
ヲ以テ終了セリ本會合ハ獨カ歐洲列國ノ反共合一戰線結
成ニ止マラス歐洲大陸カ獨指導ノ下ニ既ニ安定セルコト
ヲ英米ニ對シ示威セントセルモノニシテ十五日ノ調印式
ヨリ三日間ニ亘リ「ヒ」總統「ゲーリング」 「リツペン
トロツプ」等ノ招宴アリ其ノ間各國代表ト獨主腦トノ間
ニ單獨ニ會談行ハレタリ時日ノ餘裕ナカリシニ拘ラス各
國首相外相等來伯セルハ獨カ事實上歐洲ノ指導權ヲ把握
セルモノト認め得ヘク

又對内的ニハ獨民心ノ昂揚ニ鮮カラサル效果アリシモノ
ト云フヘシ

二、本會議ヲ通シ本使モ「ヒ」總統、「ゲーリング」、「リツ
ペントロツプ」、「レーダー」、「ローゼンベルグ」等政府、
軍、黨ノ主腦部ト會談スルノ機ヲ得タルカ各人トモ今次
戰爭ノ將來ニ關シ確固タル自信ヲ有シ如何ナル事アラウ
トモ英ノ屈服潰滅ニ至ル迄ハ戦ヒ抜カントスルノ決意ニ
滿チアルコトヲ確認セリ

三、尙各人ノ本使ニ對スル質問ハ必ス日米交渉ニ關係セルモ
ノニシテ獨一般カ如何ニ本件ニ關シ多大ノ關心ヲ有シア
ルヤニ關シ露骨ニ表現セハ疑惑ヲ抱キ居ルヲ認めタリ
「ゲーリング」ノ如キハ談笑ノ間獨米戰爭起ラハ眞ニ日
本ハ參戰スルヤトノ問ヲ爲シタル如キ又「レーダー」元
帥カ「日米間現在ノ海軍勢力ヨリ觀テ米ハ決シテ恐ルル
ニ足ラス米ノ政策ハ一ニ脅シニ過キス」ト述ヘタル如キ
ハ其ノ例ニシテ我方トシテモ注意ヲ要スト考フ

353

昭和16年11月30日

東郷外務大臣
在本邦オット独国大使 會談

独ノ戰況および日米交渉に關する東郷外相と

オット大使との會談録

東郷大臣「オット」獨大使會談録

十一月三十日午前十一時ヨリ十二時迄 於官邸

「オット」大使 本日ハ先般防共協定期間延長ノ際ニナサレタル「リ」外相ノ演説ノ「テキスト」ヲ貴大臣ニ差上ゲ且獨蘇戰況其他ニ關スル御説明ヲナスト共ニ政府ノ訓令ニヨリ日米交渉ノ其ノ後ニ就キ御話ヲ承リ度參上セリ尙本夕ノ御招待感謝ニ堪エザル處獨逸ハ國民政府ノ成立ニ對シ獨逸トシテ寄與シ得タルヲ喜ブモノナリ

東郷大臣 獨外相ノ演説ハ大要之ヲ承知致シ居レルガコノ「テキスト」ニ就キ更ニ詳細拜見スベシ獨逸ガ世界ノ大國トシテ率先滿洲國及中華民國ヲ承認セラレ他國之ニ從ヒ兩國ヲ承認スルノ端緒トナリタル事ニ對シ本大臣ハ帝國ノ外相トシテ深ク感謝スル次第ナリ

一、獨蘇戰況其他

「オ」持參ノ地圖ヲ示シ戰況ヲ説明ス「レニングラード」方面ニテハ「ラドガ」湖方面ヨリ蘇軍進出ヲ圖リ居ルモ全部失敗ニ歸シ居レリ莫斯科ハ南北ヨリ包圍ノ體形ニ進

出シ居リ南部ハ「ロストフ」ノ陷落後ハ獨軍ノ進出ニ對シ大ナル困難ナカルベシ「クリミヤ」半島ニ於テハ「セヴァストポリ」僅カニ残り居リ蘇艦隊ハ脱出ヲ試ミ居ルモ土ハ海峽通過ヲ許容セザルベシ

北阿ニ於テモ英軍ノ進撃開始以來其ノ宣傳ハ大袈裟ニ行ハレタルモ獨伊軍ハヨク反撃シ居レリ

十一月二十一日迄ノ獨蘇戰ニ於ケル獨軍戰果ハ

捕虜三百七十九萬二千六百 「タンク」二萬二千五百

砲二萬七千四百五十二 飛行機一萬五千八百七十七

ヲ撃破ス

六月二十一日ヨリ十一月二十一日迄撃破セル英軍飛行機

一千五百五十五

六月二十一日ヨリ十一月二十一日迄英側商船撃沈噸數二

百五十四萬三千八百噸

大臣 最近ノ獨軍作戰ノ進捗狀況ハ本大臣ニ於テ興味ト欣快ノ念ヲ以テ觀察シ來レルガ唯今ノ御話ヲ聞キ誠ニ結構ナリト考フル次第ナリ獨軍ノ作戰ハ莫斯科包圍ノ形勢ニ進ミ居ル事ハ承知シ居タルモ本冬中莫斯科ハ包圍ノ儘ト考フベキヤ或ハ近ク何週間カノ内ニ陷落スルモノト豫期

シ得ベキヤ

「オ」豫期ハ極メテ困難ナルモ獨軍ハ二、三週間ノ内ニ其ノ目的ヲ達成スルモノト考フ即チ獨軍ハ莫斯科ヲ包圍シ實際上ハ陥落セルト同様ニナルモノト考フ蘇政府自身モ狀勢ヲ悲觀的二觀測シ居レリ

大臣 莫斯科ノ陥落ト否ト二拘ラス作戰上同様ノ結果トナルベキ點ハ承知セルモ其ノ國民ノ士氣ニ與フル影響ハ兩者ノ間ニ大ナル間隔アリト考フ他方帝國ハ蘇領ヲ通ジテ獨逸トノ間ニ連繫ノ成立スベキヲ希望シ居ル次第ニシテ莫斯科陥落セザルニ於テハ日本ノ希望達成モ自然困難ヲ加フルワケナリ然モ日本ガ此際東方ヨリ蘇聯ヲ攻撃スベキ狀況ニナキ事モ御承知ノ通ナルガ本大臣トシテハ莫斯科ガ成ル可ク早ク陥落スルヲ希望スルモノナリ

「オ」獨逸ノ目的ハ莫斯科陥落ニアリ其ノ成否ノ「ロシヤ」人及全世界ニ重大ナル心裡的影響アルハ貴大臣ノ言ハレル如ク明ナリ獨逸ノ有スル力ニ鑑ミ右ハ可能ナルベク「ヒ」總統ハ全手段ヲ盡シテ此ノ目的達成ニ努メントスルモノト思考セラル

右ノ關係ニ於テ獨逸ノ武官ガ參謀本部ニ報告セシ如ク極

東赤軍ガ西方ニ移駐シ居ル事實ハ看過シ得ズ

大臣 極東赤軍ノ一部西方ニ移駐セル事實ハ承知シ居レリ我ガ關東軍ガ絶エズ蘇側ニ重壓ヲ加ヘ居ル點ニハ何等變更ナキ事ニ御承知願度

莫斯科陥落シ「ス」政權弱體化セル場合蘇側ヨリ獨逸ニ對シ講和ヲ申出ル可能性アリヤ此ノ點ニ關シ貴使ノ個人的氣持ダケニテモ思付トシテ御伺ヒ致度

「オ」右ニ關聯シ先般「パーベン」大使ノ談話新聞ニ發表セラレタル處對英和平及對蘇和平ノ問題共ニ獨逸政府ヨリ「デマンティー」セラレタリ

蘇トノ和平ニ關シ獨逸ハ「ボルシェヴィズム」トノ和平ナシト繰返シ言明シ居リ何等和平ノ徵候ナシ

唯自分個人ノ見解トシテ若シ「ス」政權ニ代リ例ヘバ「チモシェンコ」等ノ將軍立チ「ボルシェヴィズム」ノ立場ヲ去ルニ於テハ獨ハ蘇側ノ和平提示ヲ檢討スル事アリ得ベシト考フ「オ」ハ此ノ項ハ嚴秘トシ記錄ニ留メラレザル様希望セリ

三、日米交渉

「オ」日米交渉ノ其ノ後ノ經過ニ關シ御伺ヒ致度新聞ニハ

米ノ對日文書手交米ノ英、支、蘭、濠諸國トノ會談等盛ニ報道セラレ居レリ先般貴大臣ガ將來更ニ日獨關係ヲ強化スル必要ヲ見ルベシト暗示セラレタルカ其ノ必要ヲ見ル場合獨逸ガ日本ヨリ正式ニ報告ヲ受ケヌ事ニ依リ日獨關係ニ或種ノ冷却ノ雰圍氣生ジタリト考ヘララルル事ヲ避クル爲ニモ本國政府ニ報告致度次第ナリ

大臣 日米交渉ニ就テハ既ニ三度許リ御話セルモ其ノ大体ノ成行キハ本大臣ガ第一回貴使トノ會談ノ際申上ゲタル所トシテ唯今貴使ノ引用セラレタル通り日米兩國ノ意見ニハ間隔多ク成立ノ希望尠ク其ノ結果日獨兩國ノ協力關係ヲ更ニ緊密ニスル必要到來スベシト述ベタル豫想ニ略々近ツキ來レリ帝國ハ日米交渉ニ就キ毅然タル態度ヲ持シ來リ其ノ結果米國ノ對獨壓迫ニ對スル警告トナリタル事モ此ノ前貴使ニ御話セル通ナリ

帝國トシテハ右ニ述ベタル如キ態度ヲ一貫シテ日米交渉ニ當リ來リタル次第ナルガ二十六日米側ヨリ新シキ提案アリタリ其ノ提案中ニハ日米兩國ノ意見ノ間隔尠カラズ支那問題ノ如キモ其ノ一例ナルガ最大ノ難點ハ米側ヨリ其ノ從來問題トシ居タル三國條約ノ問題ニツキ之ヲ骨拔

トスル案ヲ提出シ來レル點ナリ日本ガ英米蘇其ノ他ノ國々ト不侵略條約ヲ締結スル事ヲモ申出デ三國條約ノ實行ヲ不可能トスル案ヲモ申出タリタルモノナリ

斯ノ如ク從來日本ガ三國條約ヲ堅持セル爲三國條約ニ關スル米側提案ハ日米交渉成立ノ最大困難ナル問題トナリ居レル次第ナリ

右米側提案ニ對スル帝國ノ措置ニ就テハ慎重ナル手續ヲトル必要アル關係上之ニ對スル決定の方策ニ就テハ未ダ申上ゲル譯ニハ行カザルモ自分トシテハ米側ノ提案ヲ受諾スル事ハ出來ズト考ヘ居ル次第ナリ兎ニ角帝國ハ日米交渉ノ中絶ヲ賭シテモ三國條約ニ忠實ナル態度ヲ採リ來レル次第ナルガ日米交渉不成立ノ際ハ帝國ハ貴國及伊太利ニ對シ三國條約ニツキ同様忠實ナル態度ヲ期待シテ可ナリト考ヘ居ル次第ナリ

「オ」 本使ノ伯林ヨリ得居レル印象ニ依レバ獨逸ハ日獨何レカガ米トノ戰爭ニ入レル場合他ノ國ハ當然依テ生ズル責任ヲ負擔スルモノト考ヘ居レリ

尙英米側現在ノ狀態ニ鑑ミ日本ヲ攻撃セントノ意圖アリトハ考ヘラレズ其ノ不侵略條約ノ申出ノ如キハ英米ノ自

衛手段ナリト考フ

大臣 米ノ兵力ハ既ニ南太平洋ニ相當移動シ居リ先方ヨリ日本ヲ攻撃スル事ナシトハ必ズシモ斷ジ得ズ英米側ニ於テハ蘇聯ヲモ誘ヒ日本トノ間ニ戦争ニ訴ヘザル約束ヲナサシメ歐洲戦争ニ日本ヲ参加セシメザル事ヲ目的トナシ居レルモノト考ヘラル

今貴使ノ云ハレタル日本ガ萬一米トノ戦争ニ入ル場合ハ他ノ條約當事國ハ責任ヲ負擔スルトハ戦争ニ参加シ運命ヲ共ニストノ御趣旨ト解スルモノニテコノ伯林ノ意向ハ當然ノ事ト思フモ貴使ヨリ今何ヒ得欣快ニ思フ次第ナリ「オ」本問題ニ就テハ三國條約ノ解釋問題、擴張問題アリ今一應伯林ト連絡スル事然ルベク右ハ本使個人ノ見解ト了解セラレ度

大臣 本問題ニ就テハ更ニ詳細御話ヲスル機會アリト考フ

編 注 本会談後、十一月三十日發東郷外務大臣ヨリ在独国大

島大使宛電報第九八五号(「日本外交文書 日米交渉―一九四一年―」下巻第25文書)により、独国側に対して日米交渉決裂と対英米戦争發生の可能性が大なるこ

とを内報するとともに、三国同盟に基づく独伊の即時参戦を勧説すべき旨の訓令が發出された。

なお、昭和十六年の日米交渉については、『日本外交文書 日米交渉―一九四一年―』上・下巻をあわせて参照ありたい。

354

昭和16年12月2日 在独国大島大使ヨリ
東郷外務大臣宛(電報)

対米戦争即時参加問題および単独不講和宣言案に関しリツベントロップ等と会谈について

ベルリン 12月2日後発
本省 12月3日後着

第一四〇五號(極秘、館長符號)

往電第一四〇一號ニ關シ

一、一日午後七時求ニ依リ再ビ「リ」外相ヲ往訪シタルニ(「ガウス」同席)「リ」ハ「ヒ」總統トハ其ノ所在地ノ關係上遺憾乍ラ本日遂ニ連絡着カス明日中ニハ連絡シ得ヘシト思フモ或ハ明後日トナルヤモ知レス獨側トシテモ日本側ノ才急ギハ充分了解スルニ付全力ヲ擧ケテ連絡方

努ムヘシト述ヘタリ

二、其ノ際「ガウス」ヨリ對米戰爭卽刻參加ノ問題ニ關シ右
義務ハ勿論相互的ノモノト解シテ可ナリヤト問ヘルニ付
本使之ヲ肯定シオキタリ、又單獨不媾和宣言案ニ付テハ
日獨、日伊各別ニ行フハ餘リニ法律的ニ過キ政治的效果
尠キ惧アルニ付日獨伊一本トスルヲ可トスト考フト述ヘ
タルカ「リ」ハ未タ總統ノ決濟ヲ經サルヲ以テ日本ニ電
報セサル様願度シト頼ミ居リタルニ付承知シ置カレタシ
三、「ヒ」總統トハ未タ連絡着カサルコト前述ノ通ナルカ連
絡可能トナリ次第何レ本使ニ於テ直接面會ノ上御訓令ノ
次第申入ルヘシ